

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十月八日横濱裁判所ニ於テ原田三藏ハ申渡シタル裁判ヲ平
翻スル左ノ如シ

原 田 三 藏

前ニ辨明スル如クナル因リ懲役人逃増補條例并ニ棄毀器物稼穡條懲役人又犯罪増補條例
改定律例第五條ニ依リ

棒鎖五日
第五十五號

○判文(懲役限内逃走ノ件)明治十四年十一月七日上告
明治十五年二月九日判決

神奈川縣横濱區戸部町平民懲役

十年ノ囚人

高 野 重 五 郎

右重五郎ニ明治十四年十月八日横濱裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ官渡シタル
其方儀横濱石崎新田ノ外役先ヨリ逃走スルノミナラス獄衣ヲ途中ニ脱捨シ賍金壹圓以下
尙ホ矢部延秋方ニ忍入リ衣類四品竊取ル賍金壹圓以上ノ科改定律例第四十三條第三百一
條ニ照シ棒鎖二日ハ上更ニ懲役十年ト加役六十日申付ル

明治十四年十月
二十八年十月月

横濱裁判所詰檢事安居修藏ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十月十四日付ヲ以テ司法卿ヲ
經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告高野重五郎ハ竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラレ服役中逃走シ外ニ在テ竊盜得
財又ハ棄毀器物ノ罪ヲ犯シタル者ニ付賊盜律竊盜條增加明治六年第二百六十六號公布及
ヒ例第三百一條ニ照シ棒鎖二日ト上懲役終身ノ處斷ヲ受クヘキ者ト見込ニ公訴ヲ爲シタ
處當裁判所ハ別紙宣告書ノ通例第四十三條第三百一條ニ照シ棒鎖三日ト上更ニ懲役十年
ニ加役六十日ト處斷セリ因テ律例第三百一條ヲ閱スルニ懲役五年以上ノ囚人逃走シ若シ
外ニ在テ重テ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯スモノ云々トアリ其終身又ハ死罪ヲ犯スモノハ
此條ニ擬シ論決スヘキ限リニ非サルヤ明ナリ然ルニ該裁判其犯數ニ判及セシテ初犯ノ
例ニ依リ止テ六十日ヲ加役シタルハ抑々何ノ故ナルヤ解スル不能若シ該判決ヲシテ當テ
得タルモノト爲ス時ハ懲役人ノ盜罪ハ幾度其罪ヲ犯スモ初犯ヲ以テ論セサルヲ得ス豈ニ
罪囚ニ限リ斯ク寛典ノ處斷ヲ受クヘクノ理由ナシ況ヤ律ニ明條ナキニ於テチヤ因テ該裁
判ヲ不當トシ控訴上告手續第二十九條ニ基キ趣意明細書ヲ作り敢テ上告破毀ヲ求ム

辨明

竊盜三犯懲役十年ノ囚高野重五郎カ役限内逃走シ外ニ在テ又竊盜ノ罪ヲ犯シ且獄衣脱棄
シタル所爲ハ棄毀器物稼穡條及ヒ竊盜條例増補凡竊盜四犯財ヲ得ル者ハ賍ノ多寡ヲ論セ
ス懲役終身トアルニ依リ仍ホ二罪俱發以重論條并改定律例第三百一條ニ照シ棒鎖二日ノ
上懲役終身ニ處斷ス可キモノナリ然ルヲ原裁判所ニ於テハ改定律例第四十三條及第三百

一條ニ依リ棒鎖二日ノ上更ニ懲役半年ト加役六十日ト處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス
而テ之ヲ新法ニ照スニ刑法第三百六十六條及ヒ第四百二十二條第一項第四百十五條並ニ第
四百二十二條ニ該ル輕罪ヲ犯シタル者ナルヲ以テ第四百條ニ照シ數罪ノ内犯狀ノ重キ第三
百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處
ストアルニ依リ仍ホ第三條第二項及ヒ新舊比照法ニ照シ重禁錮四年ニ處斷ス可キモノト
ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十月十八日橫濱裁判所ニ於テ高野重五郎へ申渡シタル裁判
ヲ平翻スル左ノ如シ

前ニ辨明スル如クナルニ依リ刑法第三百六十六條ニ依リ
重禁錮四年

但刑法第九十五條ニ依リ爰ニ宣告セシ懲役十年滿期之上之ヲ施行ス刑法第三百七十

第五十六號ノ附加刑ニ比照法第十條ニ依リ加セス
○判文(竊盜ノ件) 明治十四年十一月廿四日 止告

明治十五年二月九日判決 增玉縣下入間郡青柳村平民

宮田仁郎

明治十四年

右仁十郎カ所爲ニ對シ明治十四年十月二十八日橫濱裁判所於左以裁判言渡テ爲シク
其方儀數度田畑利兵衛方へ忍入金錢生糸盜取ル賊金貳拾五圓餘以科竊盜律ニ依リ懲役八
十日申付ル

但シ現在ノ盜品并ニ資力ヲ取上ケ事主へ給ス
橫濱裁判所詰檢事補堀野宜健ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ト爲シ明治十四年十一月四日附テ

以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀左ノ如シ
被告二宮仁十郎ハ竊盜賊金百圓以上懲役五年ノ見込ヲ以テ及公訴處裁判官ハ其贓ヲ估計

スルニ當テ第五印評價人安田禮助申立ノ通其現品ヲ示サズ只々其目錄ヲ示シテ漫リニ之
カ評價ヲナサシメ其評價則チ四印ニ依リ一印ノ通贓金貳拾五圓余ヲ示シ其刑名ヲ宣告

セリ抑モ卑職カ認メテ百圓以上下ナスモノモ亦タ二三印被害者ノ申立ニ依ルモノナルハ
一ニ信シ難シト雖モ其物品タル大凡生糸ニシテ隨時相當ノ定價アルモノナレハ被害者ト

雖モ容易ニ架空ノ妄言ヲナスヘキ筈ナシ然ルニ斯ル懸隔ヲ生スルハ必ス現品ニ就ヒテ
其評價ヲナサシムヘキハ當然ナリトス然ルニ裁判官ハ今此當然ノ手續ヲ盡サズ妄リニ其

贓ヲ定價ルニ付所謂聽斷ノ定規ニ乖シモノト信ス是レ上告シテ破毀ヲ需ムル所以ナリ
辨明

評價人安田禮助ハ評價ト事主田畑利兵衛ハ盜難届ニ記載セシ價額小甚ハ懸隔アルニ於
テハ現贓品ニ就テ評價セシムルハ當然ナリ云々ノ上告ナレト事主ハ價付ト評價入ノ評

價ト假令懸隔アリシニモセヨ必ス現物ニ就テ評價セシムヘキトノ制規モアルナリ現ニ原
裁判所ニ例第五拾二條ノ明文ニ法リ事主本犯ノ口供ヲ審明シ評價人ニ估計セシメタルモ
ノニモテ之ヲ不法ノ裁判ト謂フニ由ナシ

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十月二十八日横濱裁判所ニ於テ二宮仁十郎ニ申渡シタ裁
判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第五十七號

○判文(竊盜再犯ノ件)明治十四年十一月廿四日上告
明治十五年二月九日判決

滋賀縣近江國蒲生郡平子村平民

伊三郎長男

古澤 徳次郎

明治十四年十一月
四十年五月

右徳次郎カ所爲ニ對シ明治十四年十一月二日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲
シタリ

其方儀竊盜賭博ノ科ニヨリ處刑受ケシ身分尙ホ阪尾伊兵衛方及ヒ阪熊市方高井庄平阪田
清藏方等ノ土藏并ニ物置ニ忍入玄米五俵藥種ニ本竊取及又ハ阪田清藏方ニ忍入財ヲ得
トスル右犯罪ノ内竊盜罪金貳拾八圓ノ科賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜再犯ニ付二等ヲ加ヘ懲
役九十日ノ處拒捕スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役一年申付ル

京都裁判所大津支廳檢事補磯邊是綱ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十
日附ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ
夫レ本件人ノ財物ヲ竊取シ又ハ人家ニ忍ヒ入未タ財ヲ得スシテ逃走又追捕ヲ拒ク等ニ罪
ノ内人ノ財物ヲ竊取スル罪ハ賊盜律竊盜條ニ依リ贓金貳拾圓以上懲役八十日再犯ニ付名
例律再犯加等罪例ニ照シ一等ヲ加ヘ懲役九十日又人家ニ忍ヒ入未タ財ヲ得スシテ逃走ス
ル罪ハ賊盜律竊盜條ニ依リ懲役四十日再犯ニ付改定律例第三百三十六條及名例律再犯加等
罪例ニ照シ一等ヲ加ヘ懲役五十日拒捕スルヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニ依リ捕吏ノ追捕ヲ
拒ク者ト同シ論シ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役七十日ノ處二罪俱發スルニ因リ名例律二罪俱
發以重論條ニ照シ一等ノ重キ懲役九十日杖ニ換ヘ杖九十ニ處ス可キモノトス何者抑モ罪人
拒捕條ノ初項凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ云々ノ文意ヲ推
考スルニ例ヘハ今爰ニ重輕ノ二罪ヲ犯シ逃走スルモノアラソ捕吏之レヲ撞見シテ追捕セ
シノトスルニ際シ偶々拒ク者アラハ其重罪上ニ二等ヲ加フルハ當然ナリト雖モ前後異時
數罪俱發セシ時毫モ拒捕上ニ關係ナキ一ノ重罪ヲ擇ミ而シテ加等スルカ如キ法律ノ精神ニ
ハ非サル可シ要スルニ現ニ拒捕ヲタル犯罪ニ加等スレハナリ今本件被告人カ犯ス處ノ竊
盜得財六次其贓金貳拾八圓ハ決シテ拒捕ニ關係アル者ニ非ス獨リ拒捕シタルハ最後竊盜
未得財ニ次ニアルト別紙被害人告訴狀及盜難届書並ニ被告人ノ口書其他ノ書類ニ依リ
判然ナリ乃チ裁判官ニ於テ宜シク二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ止テ竊盜再犯得財ヲ
以テ判決セサル可カラズ然ルチ京都裁判所大津支廳ニ於テハ拒捕罪ヲ加フ可キ竊盜未得

財再犯ノ罪ニ加等セズ其加フ可カラサル竊盜得財再犯ノ罪ニ加等セシム法律違背裁判ナリト考量ス

辨明スルニ古澤德次郎カ所爲タル阪尾伊兵衛方外三ヶ所ノ土藏並ニ物置以テ戸ヲ鎖火箒ヲ曲シタルヲ以テコシ明ケ估計金貳拾八圓ノ米及ヒ藥種ヲ竊取シタル以テ犯罪事實ト又ハ阪田清藏方物置ヲ前同様ノ手段ヲ以テ明ケントスル際清藏ニ取押セラレ其節携シ處ノ銃火箒ヲ以テ拒捕シタルトノ二罪ニアリ第一ノ事實ニ對シテハ賊盜律竊盜條竊盜贓金貳拾八圓再犯ニ付一等ヲ加ヘ懲役九十日又第二ノ事實竊盜未得財ハ再犯ニ係ルヲ以テ二等ヲ加ヘ懲役五十日拒捕スルニ付捕亡律罪人拒捕條ニ依リ二等ヲ加ヘ懲役七十日名例律二罪俱發條ニ依リ一ツノ重キ竊盜條懲役九十日ト論決ス可キヲ原裁判ノ茲ニ至ラサルハ不法ノ裁判ナリトス而シテ刑法第三條明治十四年第八十一號布告ニ依リ刑法ニ照スル第一ノ事實則第三百六十八條門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ前條ニ同シ(前條則第三百六十七條)第二期六月以上五年以下(第二百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上三年以下)監視ニ付ストアルヲ適用スルニテ一罪トス又第三ノ事實ハ刑法第三百六十八條ニ問ハレキ所爲ト未遂犯罪ニ以テ第三百七十六條(前二掲シテ付略)第一百十二條ニ罪ヲ犯カシトテ已ニ其事ヲ行ハト雖再犯人意外ノ障礙若クハ外錯ニ因リ未遂ヲサレ時ニ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又二等ヲ減ストアリテ本罪減輕ニ係ルヲ以テ第一百條重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經テ三罪以上俱ニ發シタル者ハ一ツ重

キニ從テ處斷ストアルニ依リ一ノ重キ竊盜罪六月以上五年以下ニテ判決スヘキモノナルヲ以テ舊法ニ比照スルハ重キニ付舊法ニ從ヒ處斷スヘキモノトス

判決 前二辨明スル如クナルヲ以テ明治十四年十二月三日京都裁判所大津支廳ニ於テ古澤德次郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

古澤德次郎 竊盜罪 懲役九十日 但名例律二罪俱發條ニ依リ一ツノ重キニ從フ

第五十八號 〇判文(竊盜ノ件) 明治十四年十一月廿九日 止告 明治十五年二月九日 判決 群馬縣上野國邑樂郡館林町平民 清水彦兵衛附籍 加藤治

右加藤治カ所業ニ對シ明治十四年十一月十五日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲シタリ

其方儀正田惣五郎所有ノ鉄ヲ竊取シ之レヲ須長藤吉外一名へ賣却スル贓金九圓ノ科賊盜

律竊盜條ニヨリ懲役六十日申付ル
但シ本文盜贓賠償ノ爲メ資力限り追徴ス

水戸裁判所栃木支廳詰檢事補桑田親五ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十六日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ
夫レ本件被告カ取ル所ノ鉄ハ鍛冶ノ爲メ被害者ヨリ被告ニ附托セシ所ノ品ナリシテ被告カ擅費逃亡セシハ被害被告兩者ノ口供符合スル所ナリ故ニ被告ハ人ノ財物ヲ冒認シテ已ノ物ト爲シタルノ罪アリ乃詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準テ論スヘキモノナリ然ルチ之ヲ竊盜ト裁判シ竊盜條ヲ適用セシハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ裁判ト思考セリ依テ及上告候也

辨明

被告被害者カ兩口供ヲ閱了スルニ被害者カ名義ナル足利町字本城ノ細工場ニアル惣五郎所有ノ鉄ヲ本犯ガ之ヲ窃取シ賣却シタルモノニシテ特ニ惣五郎ノ附托ヲ受ケタルノ廉チ見ス即チ原裁判所カ賊盜律竊盜條ニ據リ處斷シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

前辨明ノ節合ナルニ付明治十四年十一月十五日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ清水加藤治ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
第五十九號

○判文〔賭博ノ件〕明治十四年十二月六日上告
明治十五年二月九日判決

鳥根縣出雲國神門郡上古志村平民

廣 瀬 惣 助
明治十四年十一月

三十八年九月

同縣同國同郡下古志村平民

成 多 五 郎
明治十四年十一月

四十一年九月

同縣同國同郡上古志村平民

山 根 勘 之 助
明治十四年十一月

四十一年

同縣同國同郡古志町平民

淺 津 榮 七
明治十四年十一月

四十年七月

同縣同國同郡上古志村平民 峯 太

郎 母

高 橋 其 子
明治十四年十一月

五十年三月

右惣助外四名カ所爲ニ對シ明治十四年十月三十一日松江裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲シ

タリ

廣 瀬 惣 助

其方儀發キニ處刑ヲ受ル後高橋峯太郎留守宅ニ於テ同人母ナミノ承諾ヲ得テ成合多五郎外貳人ト申合セ金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲ス罪雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日再犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日可申付ノ處見獲ニ據ラス非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハス

成 合 多 五 郎

山 根 勘 之 助

淺 津 榮 七

其方共儀高橋峯太郎留守宅ニ於テ同人母ナミノ承諾ヲ得テ廣瀬惣助ト申合金錢ヲ賭シ博戲ヲ爲ス罪雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日可申付ノ處見獲ニ據ラス非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハス

高 橋 ナ

其方儀成合多五郎等ノ頼ミヲ受ケ賭房ヲ貸與スル罪雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日婦女ナルヲ以テ収贖例圖ニ照シ牧贖金貳圓可申付ノ處見獲ニ據ラス非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハス

廣 瀬 惣 助

成 合 多 五 郎

松江裁判所詰檢事補吉江高行ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月五日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

山 根 勘 之 助

淺 津 榮 七

右廣瀬惣助成合多五郎山根勘之助淺津榮七高橋ナミノ家ニ於テ金錢ヲ賭博シタル事發覺惣助ハ雜犯律賭博條及名例律再犯加等罪例條ヲ適用シ多五郎勘之助榮七ハ各雜犯律賭博條ヲ適用シナミハ雜犯律賭博條及名例律婦女犯罪條ヲ適用ス可キ犯罪ト思料シ明治十四年十月二十四日松江裁判所ニ公訴シタル所見獲ニ依ラヌ非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハスト判決セリ蓋賭博犯ヲ治スルニ見獲ヲ主トスルハ指擧誣陷ノ弊ヲ恐ル、ニ因ル本案ノ如キハ夥党悉ク口供甘結シテ毫モ扳引スル處ナク既ニ罪証明白判官亦其罪ヲ認定シテ何ソ之ヲ刑セサルノ理アラシヤ依テ此裁判ハ法律ニ違フモノト見込候ニ付一件書類相添上告候也

辨明

被告等カ賭博ヲ開張セシハ明治十四年二月ニアリ其發覺セシハ同年十月ナリ既ニ數月ヲ關了シタル非現行ニ係ルハ明白ナリトス之ヲ博戲手合セノ末賭員現在シセラ差押ヘタル等ノ如キ非現行ノ例ヲ以テ論スヘキモノニ非ス即チ原裁判所カ見獲ニ據ラサル非現行トシ各其罪ヲ問ハサルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

前辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十四年十月三十一日松江裁判所ニ於テ廣瀬惣助外四名ニ言渡

シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
第六十號

○判文(放火ノ件)明治十四年十二月十七日上告
明治十五年二月九日判決

京都府丹波國船井郡四ツ谷村平
民伊三郎弟

磯部 幸吉
明治十四年十一月
四十年二月

明治十四年十一月二十五日京都裁判所ニ於テ磯部幸吉ニ對シ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

汝ニ對シ檢事補鶴田朗ヨリ公訴セシ放火事件遂審理所檢事補公訴ノ要領ハ汝カ明治十四年九月十八日藤岡徳右衛門宅ニ火ヲ放テ燒燬ニ至レリト汝ハ檢事補公訴ノ如ク相違ナキ旨供述ス茲ニ於テ檢事補カ法律適用ノ意見ヲ聽キ雜犯律放火條ニ依リ斬ニ處ス可キ處右燒燬セシ家屋ハ賠償ス可カラサルノ物ニアラスシテ事發覺以前自首スルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免ス

京都裁判所檢事補鶴田朗ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月一日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀左ノ如シ
磯部幸吉放火事件自首スルニ付查察候處繁碎錯綜一見了知スヘカラサル者ト考量候間豫審ヲ求メ其還付書類ヲ檢審スルニ放火シタル証憑充分ナルヲ以テ其摸樣ヲ付シ公訴スルニ裁判所ニ於テハ告被ノ所爲ハ放火シタル証憑充分ナルモリニ付斬ニ處スヘキ所自首シ

賠償スルヲ得ヘキ所業ニ係ルヲ以テ犯罪未發自首條ニ依リ免罪ノ言渡ヲナセリ抑モ該被告ノ所業タルヤ私情ヲ遂ケント欲シ公儀ニ背馳スルモノナレハ摺抵其制裁ヲ免カル、ラ得ンヤ然ルニ裁判所ニ於テハ犯罪未發條ヲ適用シ賠償ヲ得ヘキトノ推測ヲ以テ確定ノ法律ヲ動カスハ正理公道ノ道ト云フヲ得可カラズ如斯正道ヲ破却シ公儀ニ背戾シタル被告ナシテ法網ヲ免カレシムルモ或ハ恐ル昔日蠻野ノ復讐ノ如キ者ヲラシコト假令自己ノ惡念邪止ト其所爲ノ不正ナルヲ知テ自出スルモ其害廣ク社會ノ公益ニ及ヒ後害ノ恐アル者ニ於テハ其迹ヲ回復シ社會ノ餘毒ヲ絶タンカ爲メ制裁ヲ犯者ニ加ヘサル可カラズ然リト雖モ本件被告ノ如キ却情シテ矜請スル者ニ於テハ酌減ノ情狀ハ之レアルモ其罪ヲ免視スヘキモノニ非ラス且ツ裁判所判決ノ如キハ其重スル處首出ノ効ニアラスシテ財產ニ對スル所爲ナルヲ以テ賠償スルヲ得ヘキトノ推測上ヨリシテ免罪スルモノナレハ其貧富ニ因テ刑ノ輕重ヲ別ツ者ノ如シ一戸ヲ燒燬スルモ償フ可能ハサル者ハ之ヲ死刑ニ處シ百戸ヲ燒燬スルモ賠償スルヲ得ルモノハ之レヲ免罪スルト之レ則チ私ノ制裁ニ違背スルト一般ノ思想ヨリ出テタル者ナラン之レニ由テ觀レハ富者ハ常ニ放潑シ貧者ハ自己ノ權利ヲ申暢スルヲ能ハサルニ至ル人ノ生靈ヲ奪ト奪ハサルトノ重大ナル區域ニ於テ如此ク不權衡ナル結果ヲ生スルハ刑ノ正當ト云フヘカラス況ンヤ人ノ貧富ヲ以テ公益ノ利害ヲ顧慮セサルニ於テ手夫レ法律ノ犯者ノ懼心ヲ動カシテ將來ヲ戒メ以テ之ヲ衆ニ示スノ意ニ出ツ如此ニシテ始メ制裁ハ陡直ノ正當ナル者ト謂ツヘキナリ蓋シ本件ノ判決ノ如キハ刑ハ罪ヲ償フノ具タルニ過キス之レ社會ヲ維持セントスルノ法律ハ却テ不戒ノ虞トナル之

レテ新刑法ニ比照スルモ死刑ヲ以テシ單ニ自首スルモ減一等ヲ以テス之レ刑ノ性質ハ其効力ヲ全クカラシムル者ニシテ社會ノ保有スルニ缺クヘカラサルノ要具アリ然ルニ當裁判所所言渡ノ如キハ法律ヲ濫用スルノ甚キ者ニシ不適當ト云ハサルヘカラス因テ右裁判所不當ヲ矯正スル爲メ破毀アラシコトヲ希望候也

辨明

上告事件ヲ審案スルニ磯部幸吉カ藤岡徳右衛門夫婦ニ怨恨ヲ酬ハシ爲メ右徳右衛門居室ヘ火ヲ放チ同家及ヒ林録七カ居室ヲ燒燬セシ罪ハ雜犯律放火條凡火ヲ放チ故サラニ公廩倉庫及ヒ民舎ヲ燒ク者ハ皆斬トアルニ照シ處斷ス可キモノナリ然ルニ原裁判所カ放火條ニ間擬シタル相當ナルモ名例律犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ免ズト言渡シタルハ法律違犯ノ處分ナリト爲ス何トナレハ自首條第三項ニ其人ヲ損傷シ及ヒ賠償ス可ラサル物ヲ毀弄シ若クハ姦スル者ハ並ニ自首ノ律ニ在ラストアリテ即チ殺傷燒房強姦ノ如キハ人ヲ損傷スルノ部分ニシテ該第三項ヲ適用ス可キモノナレハナリ而テ之ヲ新法ニ照セハ刑法第四百三條放火ヲ放チ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス又第八十五條ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首輕減ノ限ニアラズトアルヲ以テ刑法第三條第三項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ輕キ新法ニ依リ處斷ス相當ナリ爲メ其罪ヲ減スルノ旨ヲ言渡シタル也

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月二十五日京都裁判所ニ於テ磯部幸吉ヘ言渡シタル裁

判ヲ平翻スル左ノ如シ

前ニ辨明スル如シナルニ依リ刑法第四百三條ニ依リ死刑ニ處ス可キノ處自首スルヲ以テ第八十五條ニ照シ二等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス但明治十四年第八十一號布告第九條ニ依リ附加テ適用セスハ第六十一號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年十二月廿六日上告 明治十五年二月九日判決

茨城縣常陸國行方郡玉造村平民 青野清藏

明治十四年十二月 四十年七月

明治十四年十二月十四日水戸裁判所ニ於テ右青野清藏ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ 其方儀ニ重作藤三郎ノ家ニ於テ藤三郎外姓名不知者六名ト博戯ヲナシ居タル傍觀セシノミニシテ自分ハ手合セニ加ハラサル旨陳供スト雖モ捕吏ノ具狀書及ヒ二重作藤三郎妻「メ」ノ始末書ニ據リ事實ヲ推測スルニ汝ハ右藤三郎等ト財物ヲ賭シ博戯ヲナシタル者ト認定ス右科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處三犯ナルヲ以テ例第二百六十九條ニ依リ懲役一年中付ル

但賭場ノ財物ハ沒收ス

青野清藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月廿二日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

水戸裁判所判文中(傍觀セシメテ自分ハ手合セニ加ハラサル旨陳供スト雖モ捕吏ノ具狀書及ビ三重作藤三郎妻「イノ」始末書ニ據リ事實ヲ推測スルニ汝ハ右藤三郎ト財物ヲ賭シ博戯ヲ爲シタルモノト認定ス)云々之レ不服ノ所以ナリ如何シトナレハ私ノ藤三郎宅ニ立寄りタル節同人妻「イノ」ハ宅ニ居リ合サス既ニ賭博ニ御手配トナリ賭博者ハ一同逃去リ私ハ捕縛ニナリ同村人民總代并ニ隣家ノ者壹名呼寄せラレ場所御改メノ際「イノ」稻刈ヨリ立戻リシナレハ御手入後一時間モ過キタリ依テ私カ賭博手合ニ加リタルモ加ハラサルモ「イノ」カ知ル可キ理由決テ之レナシ然ルニ其場ニ在ラサル婦人ノ陳述ヲ信シテ認定セラレタレトモ今ニ現場逃去リノ者共カ捕縛セラレナハ私ノ賭博ヲ爲サ、ルハ明白ニ分カル可シ又婦人ナル者ハ捕吏ノ訊問ニ恐縮シテ知ラサル虚言ヲ言ハサルヲ得ス又賭博現行犯ハ現ニ行フヲ以テ現行ト言フ可キヲ前ニ述ルカ如ク其場ニモアラサル者ノ陳述ヲ助証ト爲シ認定セラレタルハ不當ノ裁判ナレハ之レニ服従スルヲ得サルナリ
同項ニ捕吏ノ具狀書云々アリ此具狀書ハ如何ナル具狀ナルヤ知ラサレトモ御手入ノ節捕吏方カ三重作藤三郎方宅ニ立ル際賭博者悉ク逃去リ誰カ賭博ヲ爲スノ手元ヲ見認メタルニアラサルナリ確ト見認メアルニ以テ何シ婦人ノ陳述ヲ助証トスルニ及ハシヤ畢竟賭博者ヲ見認メタルヨリ傍觀セシ者ヲ現行犯ト想像シ且ツ婦人ノ陳述ヲ信シテ裁判セラレシハ之レ不服ノ所以ナリ

前陳述スル次第ナレハ御審按ノ上水戸裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレン事ヲ奉希望候也

辨明

原裁判所ノ書類ヲ檢閲スルニ上告人青野清藏カ銚田分署ニ於テ押印シタル口書ニ(三重作藤三郎方ニ魚賣渡代金受取トシテ參リ折節同家ニ於テ右藤三郎外姓名不知者六名都合八名ニテチボト唱フ金錢賭ケノ奕博致居)云々トアリ又三重作藤三郎妻「イノ」カ手續書ニ(青野清藏及ヒ東茨城郡小川村姓名不知者自分村方ニ住居スル土方職郡村不知幸助同居村姓不知庄助外ニ姓名不知男三名居合金錢ヲ賭ケ賭博開張)云々トアリ斯クノ如ク清藏カ口書ト「イノ」カ手續書ト符合スルヲ以テ見レハ右手合ニ加ハリタルコト明白ナリ加之三等巡查渡邊常正カ具狀書ニ(第一清藏ヲ認メ直ニ捕縛ヲナシ置四等巡查阪場松五郎姓名不知大力者ナル賭博捕獲セントスレトモ縛ニ苦ミ罷在候ニ付助力致シ居候處右清藏其場逃走セント二間モ驅出シ)云々トアルヲ以テ之ヲ觀レハ水戸裁判所ニ於テ賭博ノ手合ヲ爲シタルモノト認定シ雜犯律賭博條ニ依リ三犯ナルヲ以テ改定律例第二百六十九條ニ照シ懲役一年ニ處斷シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月十四日水戸裁判所ニ於テ青野清藏ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第六十二號

○判文(賭博自首ノ件)明治十五年一月十三日上告
明治十五年二月九日判決

茨城縣常陸國鹿島郡東下村平民
庄兵衛養子

大塚定吉
明治十四年九月
三十二年三月

明治十四年六月廿一日舊水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ右定吉事養父庄兵衛ト詐稱セシ者ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀宮内伊右衛門等ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日現場逃走ノ後自首スルヲ以テ聞捕而首スルモノト同シク論シ一等ヲ減シ懲役七十日申付ル
大審院檢事澄川拙三ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年一月十七日期限外上告ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年六月中茨城縣平民大塚庄兵衛賭博ノ罪ヲ犯シ其養子定吉庄兵衛ト詐稱シ自首シタル一件同月廿一日舊水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ聞捕自首ト同ク論シ本刑ニ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處シタリ然ルニ右賭博者ハ庄兵衛ナルヲ定吉ニ其刑ヲ言渡シタハ不當ナル者トス本件既ニ上告期限外ニ在ルヲ以テ司法郷ノ命ニ從ヒ原裁判之破毀ヲ求

辨明

上告事件ヲ檢審スルニ明治十四年六月廿一日土浦區裁判所ニ於テ賭博ノ科ヲ以テ懲役七十日ノ處刑ヲ受ケタルハ本犯大塚庄兵衛ニアラスシテ養子大塚定吉カ養父ノ氏名ヲ詐稱シ自ラ不實ノ罪ヲ甘受シタルトハ波崎分署詰武田榮藏ノ具狀書及ヒ大塚庄兵衛大塚定吉

カ土浦警察署ノ尋問ニ依リ差出シタル始末書ニテ判然タリ故ニ定吉カ庄兵衛ノ名ヲ以テ受ケタル裁判ハ破毀ス可キモノトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十四年六月廿一日舊水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ大塚定吉ニ言渡シタル裁判ハ大塚庄兵衛ノ名ヲ詐冒スルニ係リ無効ノ裁判ナルヲ以テ取消ス
第六十三號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十四年十月三日上告
明治十五年二月十日判決

埼玉縣武藏國兒玉郡兒玉町六番
地平民

淺見喜七
明治十四年九月
三十年十一月

右喜七ニ對シ明治十四年九月十九日熊谷裁判所於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ

其方儀所有田地貳反壹畝二歩ヲ賣却セシハ母「ヨシ」等ノ所爲ニテ自分ハ知ラストシ明治十四年五月十日買主阪本金十郎ヲ相手取り熊谷裁判所ニ勸解出願シ説論中妹「マン」ヨリ熊谷警察署ニ自首シタルニ依リ其方モ同署ノ糾問ヲ受ケ右ハ全ク周旋人等カ不正ノ取計ヒコ以テ母妹等ニ欺キタルナルヘシト申立ルト雖モ松村永藏カ不實ナル証書ヲ以テ法庭ノ證據物トシ且阪本清次吉田喜十郎等ノ陳述ニ據ルモ賣地一件ハ始メヨリ承知セルヤ明カナリ依テ既ニ賣却セシ田地ヲ欺キ取ラント企テタル母「ヨシ」ノ隨從者ト認定ス右科共

犯罪分首從條ニ依リ「ヨシ」ノ罪ニ一等ヲ減シ懲役三十日申付ル
淺見喜七於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十八日附テ以テ本院ニ上告スル旨
廻左ノ如シ

宜告書中（阪本清次吉田喜十郎等ノ陳述ニ依ルモ賣地一件ハ始メヨリ承知セシヤ明カナ
リ云々）ト御裁判ナルモ決ジテ不然堀越善二郎ヨリ自分所有地田貳反壹畝二歩ヲ請戻シ
之レヲ阪本金十郎方ヘ松村永藏ノ周旋ヲ以テ質入替ノコトヲ母「ヨシ」ヨリ承リシモ賣地等
ノコトハ承諾不仕候然ルヲ喜十郎等ノ虛言ニ依リ既ニ賣却セシ田地ヲ欺キ取ラント企テタ
ル母「ヨシ」ノ從テ以論セラレシハ一切了解セサル處ニシテ該地所賣買ノ契約ハ其効ヲ有
セサルモノト思考仕候

辨明

淺見喜七於テハ松村永藏ノ周旋ヲ以テ阪本金十郎ニ地所賣渡シタル事實ヲ知ラサル旨ヲ記
述シ阪本清次吉田喜十郎於テハ共ニ喜七於テ當時該地所賣却ノ事ヲ承知スル旨ヲ申立而
造間右申立ノ眞偽ヲ証明スヘキ証憑ナシ夫レ如斯場合於テ當時ノ現況ヲ推測シ其實事ヲ
認定スルハ原裁判所承審官ノ心証判斷ニ任スヘキモノナリトス故ニ原裁判所ガ清治喜十
郎ノ証言ニ據リ其實事ヲ認定シ喜七ハ母淺見「ヨシ」ノ處犯ヲ幫助シタル者トナシ「ヨシ」
ノ從犯ト斷定シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年九月十九日熊谷裁判所於テ淺見喜七ニ言渡シタル裁判ハ破

毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第六十四號

○判文（詐欺未得財ノ件）明治十四年十月三日上告
明治十五年二月十日判決

埼玉縣武藏國玉郡見玉町六番

地平民喜七妹

淺

見

明治十四年九月

二十五年五月

右「マシ」ニ對シ明治十四年九月十九日熊谷裁判所於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀田地貳反壹畝貳步ヲ賣却セシハ賣却スル所存ニ非ス質入替ノ事ハ松村永藏ヘ頼ミ
タルニ永藏等ノ爲メニ欺カレタリト申立之ヲ証明スル爲メ明治十一年頃ノ地價ト今日ノ
地價ト大差ナキ數例ヲ舉ケ該田地ヲ三拾六圓ノ低價ニ賣ル理由ナシト辨護スルモ引川セ
ル數例ヲ以テ當時ノ地價ノ確定スヘキ者ニ非ハ又池田万藏等ノ所爲ニ不審アル旨ナルモ
確証ナシトス明治十四年八月一日檢官ノ問ニ答ヘタルハ嘗テ松村永藏ノ周旋ニテ阪本金
十郎ヘ質入ヲ約シ質代殘金拾壹圓ヲ母ニ於テ受取り其頃マテ始終永藏カ關係シ居ルヲ知
リナカラ母等ト謀リ全ク拾壹圓ヲ請取ルモ受取証ヲ引渡サハリシヲ以テ請取ラス永藏於テ
ズリ込ミタルナリ若シズリ込マサレハ別紙証書ニ捺印セヨト差迫リタルニ相違ナキモ是
迄詐欺ノ申立ノミ致シ今更恐入候トノ旨ナリ右不實ナル永藏ノ証書ヲ以テ兄喜七ハ訴訟ノ
用ニ供シ其方ハ戸主實印ヲ永藏ニ預ケタル等ノ事ニ付自首セルモ到底一家共謀シ詐欺ノ

所業タルハ掩フヘカラス依テ既ニ賣却セシ地所ヲ欺キ取ラント企テタル母「ヨシ」ノ隨從者ト認定ス右科共犯罪分首從條ニ照シ「ヨシ」ノ罪ニ一等ヲ減シ懲役三十日申付ル
但戶主實印ヲ他人ニ預ケタル科ハ自首且舊惡ニ係ルヲ以テ其罪ヲ免ス
淺見「マシ」於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十八日附ヲ以本院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

宣告書中（兄喜七所有ノ田貳反壹畝ニ歩ヲ賣却セシハ賣却スル所存ニアテテ買入替ノトナリト松村永藏ヘ頼ミタルニ永藏等ノ爲メニ欺カレタリト申立証明スル爲メ明治十一年頃ノ地價ト今日ノ地價ト大差ナキ數例云々ノ末文ニ當時ノ地價ヲ確定スヘキモノニアラストノ宣告ナレトモ明治十四年八月十七日附ト覺ヘ糾問掛リヘ捧提シアル上申書ニ關陳セシ通リ該地ノ賣地ニアラサルトハ當時他ノ地所賣買ノ價格ニ照シ以觀察テ下スモ全ク買入替ノ念慮タルヲ推測スルニ足ルモノナリ

宣告書中（池田万藏等ノ所爲不審アル旨ナルモ確証ナシトス）トアルモ明治十一年三月附（該郡戶長役場與）賣地証書淺見喜七ヨリ阪本金十郎ヘ宛（永藏及ヒ万造等ノ詐爲ニ成リシモ）ノ証書及ヒ奥書帳共貼紙ヲナシ櫻澤甚平ト記入シ之ノ貼紙ニ關係モナキ万藏カ自己ノ小印ヲ以契印トスルノミナラス該時ノ戶長野澤庄三郎於テモ之ヲ看過セシハ豈ニ寄怪ノ事ナラスヤ又引合人阪本清次其他關係シ者共申立ノ如ク眞ノ賣地ナリトセハ該地賣主喜七ノ實印ヲ以テ貼紙等ニ承印ナスハ當然ナルニ之レヲノ點ヲ（確証ナシトス）ルハ御調ヘノ満足セサルヨリ其當ヲ得サルモノト信ス

辨明

淺見「マシ」ハ本件於テ阪本金十郎ニ賣渡シタリトスル地所ハ其實質地ヲ入換ヘタルモノニシテ賣却シタルニアラズト記述シ該地當時ノ價額及ヒ戶主（則キ）淺見喜七ヨリ阪本金十郎ニ宛タル該地賣渡証ノ宛名阪本金十郎トアルニ白紙ヲ貼シ櫻澤甚平ト改書シ其貼紙ニ捺印スルニ証書差入主喜七ノ印影ヲ以テセサル等ヲ以テ該地ノ賣地ニアラサルト右証書ノ偽造ニ係ルトヲ証明スト雖モ已ニ原裁判所カ判定セシ如ク當ニ當時ノ地所ノ價額ヲ以賣地ニアラサルノ証ト爲シ得ヘカラスルノミナラス又証書貼紙ニ捺印スルニ喜七ノ印影ヲ以テセサリシハ池田万藏カ明治十四年七月十六日熊谷警察署ニ差出シタル申立書中（金圓証書ト引換相濟該証ハ即時阪本金十郎ヘ相渡シ然ルニ兩三日經過シ右地所金十郎ヨリ町方櫻澤甚平方ヘ譲リ渡シノ約相成リ就テハ買主名前換ノ義曩キノ証人松村永藏阪本清次ヘ相談及フニ素ヨリ賣却セシ地所ナレハ何方ヘ差廻シ候テモ差構モ無之旨被申聞候ニ付該証書宛名ヲ貼換取引可致間後日地券書換ノ節ハ淺見喜七ヨリ直チニ櫻澤甚平方ヘ書換相成候様本人喜七ヘ通知致シ吳レ候様右兩人ニ相頼置キ候ニ付差支ハ有之間敷ト存シ其節金十郎ヘ申聞ケ名宛自分ニテ貼紙割印シ云々）トアリ因之觀之ハ該証書宛名ノ貼紙ニ喜七ノ捺印ナキ事實ヲ推測スルニ足レリトス然ラハ則チ原裁判所カ右地所賣却ニ立合ヒタル各証人ノ事立ニ照シ事實ヲ推測シ己ニ他ニ賣渡シタル地所ヲ欺キ取ラントスル實母淺見「ヨシ」ノ從犯トナシ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十四年九月十九日熊谷裁判所於テ淺見「マン」ニ言渡シタル裁判ヲ破
毀ス。キ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第六十五號

○判文〔讒謗ノ件〕明治十四年十月廿一日上告
明治十五年二月十日判決

愛媛縣伊豫國東宇和郡長谷村平民

上

甲 又 一

明治十四年九月
四十年四月

明治十四年九月十七日松山裁判所宇和島支廳ニ於テ右甲又一ニ左ノ裁判言渡タリ
其方儀明治十四年六月廿四日上甲岩治宅ニ於テ組内集會ノ際上甲太郎一ト無役地一件爭
論ノ末警部郡吏ノ説諭ヲ讒毀セシコハ醉中ニテ更ニ知ラストノ答辨ナレハ警察官ハ其場
ニ居合セタル上甲九十郎外三名ノ手續書ヲ以テ其方カ衆人ノ中ニテ官吏ノ説諭ヲ讒毀セ
シコトヲ証明シテ其方ノ所爲ハ不應爲罪ニ該ル旨公訴ニ及フト雖モ其方等カ上甲岩次宅ニ
集會セシハ住倉品松ノ父死亡ニ付集會セシモノニシテ其節其方ハ先ニ警部郡吏カ説諭セ
シ無役地ノ一件ニ付上甲太郎一ト爭論ノ末警部郡吏ノ説諭ハ馬鹿説諭杯ト發言セシコハ
九十郎等ノ手續書ニ因テ明々タルモ是レ至ク太郎一ト議論上ノ言語ニシテ官吏ニ對シ讒
毀シタルニアラス又衆人ヲ煽動センカ爲メ故サラニ發シタルモノトモ見認メス因テ其方
カ所爲ハ法律ニ照シ罪ノ問フヘキナシ
愛媛縣八等警部藤好乾吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年九月廿二日附ヲ以テ

司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑モ舊里正無役地ノ事件タル民事ノ訴訟ニ在ルヲ以テ敢テ行政官吏ノ關涉スル處ニアラ
スト雖モ該件ハ明治七八年來舊里正ノ所有ニ歸シタル無役地ナルモノハ各村民一般ノ共
有物トナシ舊里正ノ所有ニ歸セシメタル處分ヲ不當トシ區裁判ニ地方裁判ニ上等裁判ニ
亞テ大審院ニ迄出訴上告スルアリシモ原告則チ舊宇和島藩領地内ノ七十三ヶ村ニ在テハ
總テ敗訴タルヨリ爾來策ヲ行政處分ニ轉シ終ニ昨明治十三年七月ノ頃該件ニ付歎願書ヲ
內務省ニ呈シタリ其間ニ在テハ終始代言者流ノ出沒シテ人心ヲ教唆スル聞ヘアリテ自然
良民ヲ害スルノ憂アルヨリ行政官吏ハ時々説諭ヲナシ猥ニ不當ノ出訴ヲナシ財產ヲ失フ
事ナキ様説諭スルモ不良ノ狡猾者ハ此事件ヲ奇貨トシ間々官吏ノ説諭教示ヲ妨害セント
スル者アツテ夫レカ爲メ多少人心ヲ惑亂セシメタル事ナキニアラス然ルニ明治十四年四
月五日內務省ニ於テハ襲ニ七十三ヶ村民カ呈シタル歎願書ヲ愛媛縣廳ニ却下サレ難聞届
ノ達アリタリ故ヲ以テ警部及ヒ郡吏カ此顛末ヲ村民ニ傳ヒ且ツ向來不當ノ訴ヲ起シ財產
ヲ浪費スル事ナキ様説諭ニ及ヒタリ然ルヲ本訴上甲又一ノ如キ尙ホ其事ヲ信セサルノミ
ナラス衆人ノ集會シタル席上ニ於テ陰ニ官吏カ説諭傳達ヲ妨害セントシタルハ爲スヘカ
ラサルノ事ト確信セリ
一上甲又一於テ警部郡吏ノ説諭ヲ馬鹿説諭杯ト發言シタルハ判官在テモ相違ナシト認定
セリ然ルモ尙ホ其惡口セシメ住倉品松父死亡ニ付集會セシモノニシテ且ツ上甲太郎一ト
無役地事件ニ付爭論ノ末説諭上ノ言語ナレハ官吏ニ對シ讒毀シタルニアラス又衆諸ヲ煽

動センカ爲メ發言セシムアラサレハ罪ノ問フヘキナシト断定シタルハ抑モ何等ノ理由アツテ然ルカ既ニ行政官吏ノ説諭傳達ヲ惡口シタルモノトセハ假令ヒ私事ニ付集會シタルモノトモヨ該席ニ衆多ノ人員其言ヲ聞知シタル以上ハ自ツカラ人心ニ影響ヲ與ヘタル事ナシトセス況ンヤ其發言ノ依テ生スル處無役地一件ニ原因シテ上甲又一ナルモノハ長谷村於テ内務省ヘ嘆願シタル其黨ナルモノニ於テヲヤ陰ニ衆人ヲ煽動シ盡惑セシメシカ爲メ發シタルノ惡口タルハ前項於テ開陳セシ理由ニ在テ明ナリ又其惡口ハ上甲太郎一ト議論上ノ言語ニシテ官吏ニ對シ譏毀シタルコトアラサルヲ以テ之レヲ罵詈トシ譏毀トシテ罪スヘキモノヨアラストナスハ固ヨリ然リ然レモ其議論ハ則チ無役地一件ノ爭論ニシテ加モ警部郡吏ノ説諭傳達ヲ拒絕セシムルノ語氣人心ヲ盡惑セシムルノ言語タルハ免カレズ然ル以上ハ不應爲罪犯タルモノト認定セサルヲ得ス

辨明

被告人上甲又一ハ上甲太郎一ト爭論ノ際官吏ノ説諭ヲ誹毀シタルモ官吏ニ對シ譏毀セシム非ス又人心ヲ煽動セント欲スルノ意ニ出タリト認ムヘキノ證ナシ故ニ原裁判所ニ於テ罪ノ問フヘキナシト宣告シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月十七日松山裁判所宇和島支廳ニ於テ上甲又一ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第六十六號

○判文(車税犯則ノ件) 明治十四年十月廿五日上告
明治十五年二月十日判決

愛知縣尾瀨國愛知郡烏森村平民
竹其 勇 藏

明治十四年十月
二十五年一ヶ月

右勇藏ニ明治十四年十月一日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年九月二十八日外方ヨリ修覆ノ爲メ預リ置キタル農業一途ニ用ユル荷積ノ小車ヲ持出シ餘事ニ使用シタル科車税規則第六則ニ照シ半期脱税高五倍ノ過料金壹圓貳拾五錢申付候事

愛知縣警部代理一等巡查神田道堅ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十月八日付テ以テ司法卿經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑モ右ノ裁判言渡ヲ爲シタルハ單ニ被告勇藏ガ口供中「使用シタル車ハ荷積小車ニ候事」トアルニ偏依セシモノナランカ然ルニ其事タル十四坪以上ニシテ小車ニアラサル事實ハ本案書類中明治十四年九月二十八日一等巡查加藤信次郎ニ於テ被告勇藏ノ立會セシノ取調タル調書ニ依テ明瞭ナリ然ルチ名古屋裁判所ニ於テ前陳ノ如ク荷積小車ノ脱税高五倍ノ過料ニ處シタルハ不法ノ裁判ナリト思考スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ請求ス

辨明

被告人カ使用シタル荷積車ハ荷臺拾四坪以上ノ者ナレハ明治十一年大藏省乙第三十五号

達ニ照シ大七以上ノ荷車ト爲サ、ルヲ得ス然ルニ原裁判所ニ於テ荷積小車脱税高ノ五倍
ヲ科セシム不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十月一日名古屋裁判所ニ於テ竹内勇藏ニ言渡シタル裁判ヲ
平翻スル左ノ如シ

竹内勇藏

前ニ辨明スル如クナルニ因リ車税規則第一則第六則ニ照シ荷積大七車半期脱税高ノ五倍
罰金貳圓五拾錢

第六十七號

○判文(干名犯義ノ件)明治十四年十一月廿二日上告
明治十五年二月十日判決

大分縣豊前國下毛郡全徳村平民

信末忠平妻

明治十四年十月

二十七年六月

明治十四年十月十日熊本裁判所中津支廳ニ於テ有「イシ」ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

干名犯義一件審問ヲ遂ケ裁判スル左ノ如シ

其方ニ於テ明治十四年九月十四日同郡田尻村霜原利平方ニ止宿中夫忠平ヨリ毆打セラレ
タル始末ヲ中津警察署ニ告訴セシム干名犯義ノ罪証ナリトシ同署ヨリ公訴ニ及フト雖モ

抑モ告訴トハ被告人ノ所爲刑法ニ抵觸スル場合ニ於テ被害者ヨリ刑法ノ處分ヲ求ムルノ
名ニシテ其被告人ノ所爲刑法ニ觸レサル場合ニ於テナス可キモノニアラス今夫以テ其方カ
告訴タルヤ夫忠平ヨリ毆打セラレタリト云フ迄ニシテ爲メニ折傷セラレタカト云フニア
ラス又引合人霜原利平等カ手續書ニ照スモ毫モ其方カ負傷シタルヲ見ス然ルニ闘毆律毆
傷妻妾條ニ凡夫妻ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル「勿レトアリテ夫忠平ノ行爲ハ刑法ニ抵
觸ノ稜ナキヲ以テ本案ノ如キハ刑事ノ告訴ヲナス可キモノニアラス既ニ本案ノ如キハ刑
事ノ告訴ヲナス可キモノニアラスシテ夫忠平ノ行爲ハ刑法ニ抵觸ノ稜ナキ上ハ直チニ其
方ノ行爲ヲ以テ干名犯義ノ罪証アルモノトハ爲ヌチ得可カラサルニ依リ其方ハ刑法ニ於
テ罪ノ問フ可キナシ

大分縣十等警部梶原次郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月十八日司法卿ヲ經
由シ明治十四年十一月廿二日付本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

信末「イシ」明治十四年九月十四日同郡田尻村平民霜原利平方ニ夫忠平ヨリ毆打セラレ
タル段明治十四年九月十六日告訴シタル科訴訟律干名犯義條凡子孫祖父父母ヲ告ケ妻
妾夫及ヒ夫ノ祖父父母ヲ告ル者ハ實チ得ルト雖モ徒二年半トアルニ依リ懲役二年半ニ
該ル見込ヲ以テ明治十四年十月七日熊本裁判所中津支廳ニ公訴ニ及處該廳ニ於テハ別紙
ノ通夫忠平ヨリ毆打セラレ、モ折傷セラレタルニ非ス乃チ夫忠平ノ行爲ハ刑法ニ抵觸ノ
稜ナク干名犯義ノ罪証アルモノト爲ヌチ得ヘカラサルニ依リ刑法ニ於テ罪ノ問フヘキナ
シト明治十四年十月十日宣告シタリ夫レ訴訟律干名犯義條ハ子孫或ハ妻妾ヨリ尊長リ

ヲ告ル者ハ刑法ニ抵觸スルト否トニ關セズ處罰スルモノナリト思考ス且夫忠平ハ毆打ノ罪アリト雖モ闘毆律傷妻妾條ニ依リ論シラレサルノミ然ルチ前述ノ通り裁判シタルハ不當ナリト思考候條成規ノ通り一件書類相副へ此段及上告候也

辨明

訴訟律干名犯義條凡子孫祖父母父母ヲ告ケ妻妾夫及ヒ夫ノ祖父母父母ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ徒二年半誣告スル者ハ云々トアリテ該條ハ其尊長ノ罪トナルヘキ事件ヲ告訴告發又ハ誣告スル者ヲ罰スルノ法律アリ故ニ原裁判所ニ於テ其理由ヲ明記シ罪ノ問フヘキナシト宣告シタルハ相當ナリトス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十四年十月十日熊本裁判所中津支廳ニ於テ信末忠平妻「イシ」ニ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス

第六十八號

○判文(雇人盜再犯ノ件) 明治十四年十一月廿六日上告
明治十五年三月十日判決

京都府下京區綾小路大宮西へ入

中川宗太郎

明治十四年十月
二十二年四月

明治十四年十一月八日横濱裁判所ニ於テ右宗太郎左ノ裁判ヲ言渡

其方儀疑ニ監守ノ責アル雇主ノ財物ヲ盜ム科ニ依リ處刑ヲ受ル身分仍ホ改心セズ再ヒ雇主渡邊利助ノ申付ニ依リ賣出ス反物四拾八反ヲ持出シ又ハ賣掛代金ヲ受取り其儘盜去ル等ノ賊金七拾圓餘ノ科改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ仍ホ管守ノ責アルチ以テ又一等ヲ加ヘ懲役三年再犯ナルチ以テ例ニ照シ復一等ヲ加ヘ懲役五年ノ處悔悟自首シテ賊徵ス可ラサルチ以テ自首律ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役二年半申付ル横濱裁判所檢事補高橋克親ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年十一月十日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告中川宗太郎ハ雇人管守盜賊金百貳拾圓以上再犯ナルモ罪懲役終身ニ止ルチ以テ尙懲役終身自首シテ賊徵セサルニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役七年ノ見込ヲ以テ求公判處裁判官ハ右被告ニ對シ賊金七拾圓余ノ科竊盜ニ一等ヲ加ヘ管守ノ責アルコヨリ又一等ヲ加ヘ再犯ナルチ以テ又一等ヲ加ヘ懲役五年ノ處自首シテ賊徵セサルニヨリ二等ヲ減シ懲役二年半ト宣告セリ依テ圖印評價書ヲ閱スルコノ乃チ卑職カ見込ノ通合金百貳拾圓八拾六錢ト評價セリ然ラハ即チ裁判官ハ何タル理由アツテ該賊金ノ内五拾圓ヲ抹殺シ殘額七拾余圓ヲ以其刑名ヲ定メタルヤ到底解ス可ラス是卑職カ認メテ不當ノ裁判トナシ上告シテ破毀ヲ需ムル所以ナリ

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告中川宗太郎カ犯罪事實ニ對シ原裁判所ハ改正雇人盜家長財物律及ヒ名例律再犯加等罪例條犯罪自首條ヲ適用セシハ允當ナリト雖モ其賊金計算方ニ付

評價人安田禮助ノ估計セシ反物代七拾圓八拾六錢ト熊木伊助ヨリ受取タル賣掛代金五拾圓ヲ合算シ百貳拾圓八拾六錢ナルヲ七拾圓八拾六錢ノ賍金トシ其罪ヲ論決セシム計賍法ニ違ヒタル不當ノ裁判ナリトス而シテ之ヲ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新法ニ比照スルニ第三百九十五條受寄ノ財物借用物又ハ其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス第八十五條罪ヲ犯シ事未發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者一等ヲ減ス第七十條ニ禁錮罰金ニ該ル者減輕スヘキ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ云々トアルニヨリ一等ヲ減シ二十日以上一年六月以下トナル新法輕キニ因リ輕キ新法ニ從ヒ處斷スヘキモノトス

判決

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十四年十一月八日橫濱裁判所ニ於テ中川宗太郎言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

中川宗太郎

刑法第三百九十五條第八十五條第七十條ヲ適用シ

重禁錮二年六月

第六十九號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年十一月三十日 上告
明治十五年二月十日 判決

廣島縣備後國三生郡峯村平民

六谷 林右衛門

明治十四年十一月
四十四年八月

明治十四年十一月八日松江裁判所ニ於テ右林右衛門ニ左ノ裁判言渡シタリ
其方儀長廻鑑營業人船木直三郎方留守中人所有ノ衣類盜取ル賍金八圓六拾錢ノ罪賊盜律竊盜條ニ依リ懲役六十日申付ル

松江裁判所檢事高野孟矩ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年十一月九日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑林右衛門カ罪狀ハ尋常他ノ財物ヲ竊取シタルモノト同視ス可カラズ被害者舟木直三郎カ他行中該家ノ留守ヲ託セラレタルヲ以テ直三郎カ歸來スルマテハ其財産ヲ保護スルノ責ヲ免ル可カラズ然レハ則チ客塵倉戸馬丁車力等カ受託ノ財物ヲ盜ミタルト何ソ異フン然ルニ之ヲ凡人竊盜トシテ斷リシタルハ裁判法律ニ違フモノト見込候ニ付一件書類相添上告候也

辨明

檢察官ニ於テハ被告六谷林右衛門カ犯罪事實ハ事主舟木直三郎他行中留守ヲ托セラレタル者ニテ財産ヲ保護スルノ責ヲ免カル可カラサル者ナレハ則チ客塵倉戸馬丁車力受託ノ財物ヲ盜ミタルト差異ナキト論告スト雖モ被告林右衛門ハ鑑狀尋常ノ工夫ニシテ給料モ亦其勞役ニ從テ給スル方法ニテ月給年給等ノ雇人ニアラス事主直三郎カ留守ヲ托サレタルモ漠然口頭ノ約束ニシテ幾箇ノ物品ヲ指示シタルニモアラス又其ノ看守ノ給料ヲ給

タルニモアテサレハ改定律例第百四十四條ヲ適用スヘキモノニアラス即チ原裁判所カ賊盜律竊盜條ニ依リ處斷セシハ允當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月八日松江裁判所ニ於テ六谷林右衛門ハ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第七十號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年十二月二日上告
明治十五年二月十日判決

島根縣出雲國大原郡宇谷村三十
一番地平民

藤原清五郎

明治十四年十月
十九年六月

明治十四年十月三十一日松江裁判所ニ於テ右清五郎ニ左ノ裁判言渡シタリ
其方儀囊キニ竊盜ノ處刑受ク後各所ニ於テ賭博ヲナス所業ハ見獲ニ據ラズ非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハサルモ伯父源三郎所有ノ金員物品竊取スル賊金拾六圓九拾錢之レアルノミナラス山根藤一郎方ニ於テ喰逃スル飲食代等壹圓廿八錢五厘物品竊取スル賊金三拾五錢及ヒ土谷長次郎方ニ於テ拐帶スル賊金四拾七錢ノ罪ニシテ賊盜律竊盜條ニヨリ懲役五十日ノ處再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役六十日申付ル
松江裁判所檢事補吉江高行ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年十一月八日付ヲ以

テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ旨趣左ノ如シ
右清五郎カ賭博竊盜詐欺取財三罪中賭博ノ刑最モ重キヲ以テ名例律三罪俱發以重論條ニ照シ懲役八十日ニ處ス可キモノト思料シ明治十四年十月三十一日松江裁判所ニ公訴シタル處同月三十一日賭博ヲナス所業ハ見獲ニ據ラズ非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハス竊盜詐欺取財ノ中一ノ重キ竊盜再犯ノ刑懲役六十日ニ處斷セリ蓋賭博犯ヲ治スルニ見獲ヲ主トスルハ誣指濫及ノ弊ニ陷ラシコト恐ルニ因ル本案ノ如キハ被告入己ニ承招ニ服シ毫モ扳引スル所アラサルニ其罪ヲ問ハサルハ不法ナリト論告スト雖モ抑賭博犯ハ其現獲ニ據リ坐スルニ止リ轉タ相扳引スルヲ許サルハ法理ノ然カラムル處ニシテ其承招ニ服シタル者ナレハトテ誣指濫及ノ弊ナキト概シテ言フヲ得ヘカラス因テ原裁判所カ見獲ニ據ラス非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハスト宣告セシハ不法ノ裁判ニアラストス

辨明

檢事補吉江高行ニ於テハ賭博犯ヲ治スル見獲ヲ主トスルハ誣指濫及ノ弊ニ陷ラシコト恐ルニ因ル本案ノ如キハ被告入己ニ承招ニ服シ毫モ扳引スル所アラサルニ其罪ヲ問ハサルハ不法ナリト論告スト雖モ抑賭博犯ハ其現獲ニ據リ坐スルニ止リ轉タ相扳引スルヲ許サルハ法理ノ然カラムル處ニシテ其承招ニ服シタル者ナレハトテ誣指濫及ノ弊ナキト概シテ言フヲ得ヘカラス因テ原裁判所カ見獲ニ據ラス非現行ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハスト宣告セシハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月三十一日松江裁判所ニ於テ藤原清五郎ニ言渡タシ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ

○判文(縣ノ布達ニ違フノ件) 明治十四年十二月六日上告
明治十五年三月十日判決

長崎縣長崎區江戸町十四番戸平
民金物賣買商石塚甚藏妻

明治十四年十月十九日長崎裁判所ニ於テ右「ミツ」ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ

明治十四年十月
二十七年

其方儀夫甚藏留守中ハ商業向委託受居明治十四年七月三日賣主ノ住所姓名ヲ明細帳ニ記載セズ無判ニテ上田勘助ナル者ヨリボンブ一個ヲ買取リシハ長崎縣ノ達ニ違フヲ以テ明治十年第十三號布告ニ依リ罰金五拾錢申付ル

但該ボンブハ不正品ナルヲ以テ取上ル代金拾四圓ハ上田勘助ナル者ヨリ償ハスヘキ處行衛不知問其旨心得ヘシ

長崎裁判所檢事補牛島知真ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月二十六日司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ

凡ソ營業ニ係リ其取締ノ爲メ設ケタル單行法律規則ハ其鑑札名前即チ營業本人ニシテ責任アルヘキ者ナリ縱令家族又ハ手代等ノ所爲ニシテ其條規ニ違フコアルモ責任ハ則チ鑑札名前人ニ係リ故ニ營業ニ依リ單行法律規則ノ違反ハ其營業主ヲ罰スヘキ者トス然ルニ長崎裁判所カ金物賣買營業主ナル甚藏カ如何ヲ問ハスニテ直ニ「ミツ」ヲ條規ニ違フタ

ル者トシテ罰シタルハ不適當ノ裁判ナリト考量スル所以ナリ

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告石塚甚藏妻「ミツ」所爲タル金物商夫甚藏カ留守中營業上ノ代理ヲ爲シタルモノニテ之カ爲シタル犯則ナリト雖モ委任シタル營業本人ヲ罰スルヲ得ルモ非營業人ヲ罰スヘキノ法理アルコトナシ然ルニ原裁判所カ非營業人「ミツ」ヘ對シ長崎縣布達ニ違背シタルモノトシ明治十年第十三號布告ニ依リ處斷スタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十月十九日長崎裁判所ニ於テ石塚甚藏妻「ミツ」ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

石 塚 甚 藏 妻

前ニ辨明スル如クナルニ因リ

無罪

第七十二號

○判文(違式ノ件) 明治十四年十二月十二日上告
明治十五年二月十日判決

福島縣岩代國伊達郡伊達崎村平
民庄六長男

岡 周 五 郎
明治十四年十一月
二十九年五月

明治十四年十一月十四日福島裁判所ニ於テ右周五郎ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ

其方儀不審ノ廉有之鞠問中桑折分署ヨリ桑折村安齋新左衛門方へ責付中逃走スル科雜犯
律違式輕ニ問ヒ懲役十日ノ處自首スルニ付改定律例第二百九十七條末項ニ照シ其罪ヲ免

福島縣裁判所檢事田中玄文ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十六日司法卿
ヲ經由シ明治十四年十二月十二日本院ニ差出シタル上告ノ要領左ノ如シ

抑被告ハ責付中逃走シテ自首シタル者ナレハ其逃走罪ヲ違式ニ問擬セシハ至當ノ裁判ナ
ルモ自首ヲ聽スニ改定律例第二百九十七條ヲ當行シタルハ不適當ナリトス何トナレハ該

律ノ精神ハ專ラ本罪アル者ノ責付中逃走シタル者ニ適用スルノ趣意ニシテ被告ノ如キ單
ニ責付中逃走シテ自首スル者ニ適用スヘキモノニ非ラサルヲ信ス凡ソ自首者ニ減免ヲ與

フルハ掲ケテ名例律犯罪自首條ニ明文アリテ動カス可カラズ該犯ハ明治七年七月二日第
十五號本省御達シ及ヒ名例律犯罪自首條ヲ適用スルヲ相當ト存候然ルニ該明文ニ依ラズ

シテ前顯ノ通斷了シタルハ裁案法律ニ違フモノト思科ス
辨明

被告龜岡周五郎カ鞠問責付中逃走シタルハ明治七年司法省第十三号達中ニ（鞠問中ニ於
テ逃走スル者ハ棒鎖一日ヲ科スル例ヲ改テ違式輕ヲ以テ實斷ス）トナルニ照シ改定律例

第二百八十三條ニ（凡式ニ違フ者ハ懲役三十日輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ依ルヘク而

シテ自首スルヲ以テ改定律例第二百九十七條末項ニ（責付内ニ逃走シテ自首スル者ハ止

ク本罪ヲ科シテ逃罪ヲ免ストアルニ依リ處斷ス）ニキキ相當ナリトス然ルヲ原裁判所カ

前書司法省第十三号ノ達ニ依テサリシハ失當ナリト雖モ結局輕重ヲキテ以テ原裁判ハ破

毀ノ限ニ在ラストス
判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十四日福島裁判所ニ於テ龜岡周五郎ニ言渡シタル裁
判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第七十三號
○判文（違式ノ件）明治十四年十二月十四日上告
明治十五年二月十日判決
愛知縣尾張國西春日井郡市場
平民

富 永 宗 三 郎
明治十四年十月
二十二年四月

右宗三郎カ所爲ニ對シ明治十四年十一月二十四日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲シ

タリ
其方儀明治十四年十月中荷車ノ柁棒ヲ損傷シタルヲ以テ修繕ヲ加ヘ舊檢印ヲ切取リ縛付

テ使用シタルハ愛知縣ノ布達ニ違犯シタルモノトナシ名古屋裁判所檢察官カ公訴ニ係レ
ルニ抑該布達ノ旨趣ハ車ヲ新調シタル節ハ檢印ヲ可受車ヲ廢シタル節ハ檢印ヲ削除ヲ請フ

二百二十三

ヘシト云フニアリ而シテ其廢車ト稱スルハ破壊シテ復用ヲ爲サ、ルヲ云フヤ瞭然タリ故
 車ノ一部分ヲ損傷スルモ其全体ニ於テ効用ヲ失フニ至ラサレハ稱シテ廢車ト云ヘカラ
 ス由是觀之被告ノ所爲ハ該布達ニ背戾シタルモノヨアラストス因テ問ラヘキ罪無之候事
 名古屋裁判所詰檢事補青木素ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十五日
 附ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
 被告富永宗三郎ハ車ノ枕棒ノミヲ新調シテ舊枕棒ニ烙シタル所ノ檢印ヲ剪取り附着使用
 セシヲ以テ別紙愛知縣ノ布達ニ違背セシモノトス然レモ或ハ車ノ枕棒ノミヲ新調シ車ノ
 全体ヲ新調セシ者ニ非ス又舊枕棒ヲ取替タルモ廢車トセシ者ニ非サルヲ以テ該達文ニ照
 スニ適當ナル明文ナキカ如シト雖モ枕棒ナル者ハ由テ以テ車ヲ行ル所ニシテ枕棒アラサ
 レハ車ノ用爲ス可カラス是官檢印ナ此ニ下ス所以ナリ故ニ車ヲ修覆スル者他ノ一部分ニ
 在テハ該達ニ觸ル、所ナシト雖モ枕棒ヲ取替ルニ於テハ必ス該達ニ遵ヒ納税ノ完否ニ拘
 ラス舊枕棒ノ檢印削除ト新枕棒ノ檢印トヲ受ケサル可ラサル者ナリ
 若シ枕棒取替ヲモ他ノ一部分ノ修覆ト同視ス可シトセハ是舊檢印ヲ削除ヲ請ハス又新枕
 棒ノ檢印ヲ受ケサルモ可ナリトスル者ニシテ若シ舊車ノ枕棒ヲ取替無檢印ニテ使用スル
 モノアルモ總テ之ヲ不問ニ措カサルヲ得スシテ取締立タサルニ至ランノミ
 廢棄セシ枕棒ノ檢印ヲ剪取リ使用スルヲ得ズトノ達ガシト雖モ是固ヨリ爲スヲ得サルノ
 事ナレハ特ニ禁令ヲ要セス况ヤ剪取使用ヲ許スハ達ナキヲヤリ
 本案ノ如キ現ニ舊枕棒ノ檢印ヲ剪取リ之ヲ新枕棒ニ付着セシハ枕棒ニハ必ス檢印ナカル

可カラサルヲ知ル故ナリ而シテ其削除新受ケナサ、ルハ苟且ノ所爲ニ出テタルヲ明ナリ
 右陳述ノ如クナルヲ以テ原裁判ヲ破毀ヲ請求スル所以ナリ
 辨明
 被告宗三郎ガ所爲ヲシテ愛知縣布達ニ違犯ノ者ト申立レモ該達ハ專ラ新調廢車ニ係ル檢
 印ノ「ナ」ニ指示シタル明文ニシテ被告ガ荷車ノ一部分ヲ修繕シ舊檢印ヲ切着ケ使用セ
 シカ如キハ該達ニ背キシ者ト云フヲ得サレハ原裁判所ニ於テ問フヘキ罪無之ト言渡シタ
 ルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月二十四日名古屋裁判所ニ於テ富永宗三郎ニ言渡シタ
 ル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナントス
 第七十四號

○判文(窃盜ノ件)明治十四年十二月十四日上告
 明治十五年二月十日判決

秋田縣羽後國仙北郡西長野村平民

高橋吉太郎

明治十四年十一月
 四十年

明治十四年十一月十八日弘前裁判所秋田支廳ニ於テ右高橋吉太郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シ

其方儀茂木辰之助方麻 忍ヒ入り栗毛牝馬壹頭盜ニ取リタル贓金五拾六圓ノ科改定律例
第百四十條ニ依リ懲役一年ノ處自首スルニ付犯罪自首條ニ照ラシ其罪ヲ免ス
但窃取シタル馬ハ取揚ケル

秋田縣入等警部小澤宗央ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月廿一日附テ以
テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル要旨左ノ如シ
該犯自首ノ顛末ハ口供ニ述フル如ク事主巳之松辰之助ノ兩人尋來リ其節與坐ヨリ逃ケ走
リ歸宅イタシ候得共追々官ノ御捕押相成テ恐レ明治十四年十一月一日自首云々トアリ事
主巳之松カ盜難馬取押届書ニ盜犯高橋吉太郎ナルコトハ本犯自首以前明治十四年十月三十
日ニ届出タル以テ官モ又能ク之ヲ知ル處ナリ本犯ニ於ケルモ事主ニ追跡セラレ逃走セシ
モノナレハ最早官ノ捕獲ナラノコト知リ自首シタルコト明瞭ナリ然ルモ未發自首ヲ以テ
論スル情更ニ無之即チ本犯カ如キハ例第五十九條末項官ノ捕獲セント欲スルコトヲ聞テ自
首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減ストアルニ依リ贓金五拾六圓ノ科懲役壹年ヨリ二等ヲ減シ懲
役百日ニ處スヘキモノナリ然ルニ未發自首ヲ以テ處斷シタルハ不的當ニ裁判ト認定ス破
毀ヲ求ムル爲メ上告候也

辨明

被告高橋吉太郎カ所爲ニ對シ原裁判所ニ於テ改定律例第百四十條ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ
贓金五拾六圓懲役一年ニ擬斷シタルハ相當ナリト雖モ事主佐藤己之松ニ覺察セラレ逃走
シ後チ自首スルハ己之松カ届書及ヒ巡查黒川一馬ノ拘引届書ニ明瞭ナレハ改定律例第五

十九條聞捕自首ニ準シテ論シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役百日ニ處斷スヘキモノナリ然ルチ原
裁判所ニ於テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免スト言渡シタル然レ不法ノ裁判ナリトス而テ之ヲ
新法ニ照シテ刑法第三百六十六條入ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上
四年以下重禁錮ニ處スト又第三百七十六條三六月以上三年以下監視ヲ附加ストアルチ
以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號布告第三條第十條ニ照シ處斷スヘキ
相當ナリト爲ス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年十一月十八日弘前裁判所秋田支廳ニ於テ高橋吉太郎ニ言渡
シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

高橋吉太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第三百六十六條ニ照シ

重禁錮二月

但自首スルモ事犯發覺後ニ係ルチ以テ輕減シ法ニ依ラス竊取スタル馬ハ還還ス

第七十五號

○判文(賭博ノ件)明治十四年十二月廿二日上告
明治十五年二月十日判決

長崎縣肥前國南高來郡島原町平民

森

下

明治十四年十一月

三十四年

二百二十七

明治十四年十一月十五日長崎裁判所管内島原區裁判所ニ於テ右「ヒロ」ニ左ノ裁判ヲ言渡シ
タリ

其方儀金錢賭ノ博戯ヲ爲シ既ニ三度處刑ヲ受ケ身ニシテ尙又明治十四年十月三十一日
島原町西山「セイ」方ニ於テ同人及ヒ島原町本田「タチ」一同金錢賭ノ博奕致ス科例第二百
六十九條凡賭博三犯以上ハ懲役一年トアリ婦女ナルニ付例第四十八條凡老少及ヒ癡疾者
云々若シ盜罪賭博等加等ス可キ再犯ニ係ル者ハ但加等ノ罪ヲ宥メ本罪ヲ實斷シテ再ヒ收
贖スルコトヲ聽サス三犯以上ハ凡人再犯以上ノ例ニ照シ加等ストアルニ權衡ヲ取り懲役一
年申付ル

長崎縣十等警部原七藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十九日司法卿ヲ經
由シ明治十四年十二月二十日本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ

抑々該所犯ノ情狀タルヤ該時金錢ヲ賭ケ博奕ヲ犯シタルハ四犯ニ係ルヲ以テ律例第二百
六十九條及ヒ名例律婦女犯罪條ニ依リ處斷スヘキモノト認定シ公訴及フ處別紙裁判申渡
書ノ如ク律例第二百六十九條ニ依ルモ婦女犯罪條ニ明文アルヲ措キ同第四十八條末項ノ
權衡ヲ取り懲役壹年ニ處斷相成タリ依テ該條ヲ案スルニ老少及ヒ癡疾者ニ止マレハ該權
衡ヲ婦女ニ取ルハ婦女ノ犯罪ヲ特恕スル律意ニ背ケルカ如シ又假リニ該權衡ヲ取レハ三
犯以上ト雖モ加等罪ヲ宥メ實斷スレハ法理ニ背カサルベシ然ルニ取テ律例第四十八條末
項ノ權衡ヲ取り懲役壹年處斷相成リタルハ不當ノ裁判ト認定セリ

辨明

被告森下「ヒロ」カ金錢賭博戯ヲ爲シタルハ即チ三犯以上ニ係ルヲ以テ改定律例第二百六
十九條三「凡賭博三犯以上ハ懲役壹年」ニ依リ婦女ナルニ付收贖金三圓ニ處斷スヘ
キヲ相當ナリトス然ルニ原裁判所改第三百六十九條ニ問擬シタルハ其當ヲ得タリト雖モ
仍ホ例第四十八條ニ權衡ヲ取り實決ニ宣告ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリトス而シテ所犯
刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號ノ布告ニ依リ新
舊ノ法ヲ比照スルニ刑法第二百六十一條ニ「財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス云々」トアリテ舊法ノ
輕キニ依リ處斷スヘキモノトス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年十一月十五日長崎裁判所管内島原區裁判所ニ於テ森下「ヒ
ロ」ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

森 下 ヒロ

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ改定律例第二百六十九條ニ照シ懲役壹年ノ處婦女ナル
ニ依リ

收贖金三圓

第七十六號

○判文(賭博ノ件)明治十四年十二月廿三日 上告
明治十五年二月十日判決

群馬縣上野國佐位郡伊勢崎町平民

明治十四年十二月十五日熊谷裁判所前橋支廳ニ於テ右相澤周學ニ左ノ如ク裁判ヲ言渡タリ
 其方儀明治十三年九月二十八日同町菓物店持田「ミツ」方ニ於テ平原藤吉外三人カ財ヲ賭
 シ柿ノ種切リト唱フル博戯ヲ爲ス際其場ニ罷在リシモ賭博ハ致サ、ル旨申立ルト雖モ第
 一現場ニ臨ミタル捕吏群馬縣雇警部附屬毛呂竹次郎シ手續書ニ其方カ博奕ソ手合ニ加リ
 居ルヲ現ニ撞見セシ旨開申シ第二丸橋紋平外三人ヨリ其方モ共犯者ナル趣ヲ申立テ第三
 其方カ伊勢崎警察署ニ於テ爲シタル口供ノ内犯罪ノ義ニ付尋問ノ後テ口書讀聞サレタレ
 共云々ト有之何ソ警察官カ其陳述セサル事件ヲ錄取スルノ理アラシク由テ之レヲ視
 レハ就縛ノ當時ハ事實ヲ供出セシモ後テ其罪ヲ免レンカ爲メ前供ヲ反異セシ者ニ全ク紋
 平等ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲シタル者ト認定ス因テ右科雜犯罪賭博條ニ照シ懲役八十日申
 付ル

相澤周學ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二十日日本院治上告シ旨趣左ノ
 如シ
 此段私儀平素生野國佐位郡伊勢崎町生系改所擔當罷在候處明治十三年九月二十八日上野
 國佐位郡伊勢崎浦町通行ニ際平素知己ニシテ同國同郡伊勢崎浦町平民丸橋紋平ニ行逢ヒ候
 處同人申ニ「同國同郡波志江村沼カヲ捕リ有之」付同村沼カ魚捕ニ參ルテ如何ヤ申サ
 レ候ニ付自分同道可致旨ノ契約ヲナシタルモ自分ハ生系改所ノ擔當人ナルニヨリ精産勘

定モ有之ハ該精産勘定濟ミトシ午前十時頃參テントスル處町内板垣茂八母ナル者カ死去
 致シタル旨生系改所ニ承リタルニヨリ前書板垣茂八方ニ見舞ニ參テサレハ不相濟トテ
 以前約シタル沼カヲ取リニハ不行トテ斷リテナシニ丸橋紋平方ニ罷越候處同人儀ハ不在
 ノ旨同人妻申スニヨリ立歸ル途近家持田「ミツ」方ニ丸橋紋平居合セタルニヨリ同人ニ
 而會ノ上魚捕ニハ行難キト斷リ而テ煙草二三ツク吸ヒ居リシ處其内同町平民平原藤吉外
 二名住所知レサル男立入此ノ二名ハ臺所ニ直立シ居リ自分丸橋紋平ハ椽臺ニ腰ヲ掛ケ罷
 在リ候處平原藤吉ハ座敷ニ上ツ見世臺ニ有之柿一ツ持參リ丸橋紋平ニ申スニ「此柿ノ種
 ハ幾ツ有之哉」ト申タル處丸橋紋平ハ幾ツ有之カ不知ト答テタル所平原藤吉ハ姓不知男ニ
 名丸橋紋平ニ對シ此柿ノ種ヲ切リ不當者ハ茶菓子ヲ買求メルトノ事ニシテ平原藤吉丸橋
 紋平姓不知男二名都合四名ニテ該約ヲ結ビタルコトハ自分モ該場ニ居合セ承知罷在候得共
 其内姓不知男一人來リ丸橋紋平ノ手ヲ取リタルニ付彼是口論中多人數來リタル其内自分
 ハ用事モ無之ニ付立歸リ翌日則チ明治十三年九月二十九日上野國佐位郡伊勢崎川岸町平
 民磯部庄七ノ依頼ヲ受ケ同國那波郡飯塚村高橋良平方ニ金談ノコトニ付立越シ同人方ニ一
 泊ニ翌三十日午前十時頃立歸リ磯部庄七ニ該談判ヲ遂ケントスル處官ノ命令ナリトテ拘
 引セラレ伊勢崎警察署ニ於テ御糾問ヲ蒙リタルニヨリ自分覺ヘ有之コトヲ上申セシ處自分
 モ該場ニ居合柿ノ種切リト稱シ金錢ヲ掛ケ賭博致シタルトノ御尋問有之モ自分ハ博奕等
 ハ一切不知者ニシテ自分職業タルヤ群馬縣廳ヨリ古道具營業免許鑑札ヲ受テ營業罷在然
 ル處明治十二年六月十日佐位郡伊勢崎町同郡境町系改所ノ改入ニ當撰被致勉強罷在位ノ

トシテ何ソ博奕杯ヲ致スヘシノ理アラサルニヨリ飽マテモ不知ト上申セシ所伊勢崎警察官ニ於テハ自分ハ無職業ナリシ杯ト唱ヘテ明治十四年十二月十五日熊谷裁判所前橋支廳へ御差廻シニ相成懲役八十日ノ御處刑ヲ蒙リタリ該申渡シニ因テ之レヲ見レハ其方儀明治十三年九月二十八日同町菓物店持田「ミツ」方ニ於テ平原藤吉外三人カ財ヲ賭ケ柿種切リト唱フル博戯ヲ爲ス際其場ニ罷在シモ賭博ハ致サル旨申立ルト雖モ第一現場へ臨ミタル群馬縣雇警部附属毛呂竹次郎ノ手續書ニ其方カ博奕ノ手合せニ加リ居ルヲ現ニ撞見セシ旨開申シ第二丸橋紋平外三人ヨリ其方モ共犯罪者ナル趣キテ申立テ第三其方ノ伊勢崎警察署ニ於テ爲シタル口供ノ内犯罪ノ義ニ付尋問ノ後テ口書讀聞サレタレ共云々ト有之何ソ警察官カ其陳述セサル事件ヲ錄取スル理アラシク是ニ由テ之ヲ視レハ就縛ノ當時ハ事實ヲ供出セシモ後テ其罪ヲ免レンカ爲メ前供ヲ反異セシ者ニシテ全ク紋平等ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲シタル者ト認定ス因テ右科雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日右申渡畢ト有リ之レ此ノ宣告不當ノ處斷ナリ如何トナシハ丸橋紋平外三人カ自分モ該場ニ居合俱ニ博奕ヲ致シタルト云フニモセヨ自分ハ決シ博奕不致モノナリ然レテ伊勢崎警察官カ自分ヲ無職業ニアラサルヲ無職業ノ者ナリト唱ヘルハ何ノ理ナリキヤ又丸橋紋平ハ曩キニ懲役所刑濟ニ有之ニヨリ自分紋平方へ趣キ自分ハ博奕杯ハ不致ヲ致シタルトノ申立ハ實ニ迷惑ノ下ナルニ付其云々之ヲ同人ニ掛合及テ處彼レハ只管詫入カタリヨリ其ノ詫入不致トノ証ヲ差出ス等旨申聞ケタル處何レ明曰迄ニ參ルニヨリ夫レ迄猶豫致シ吳候様申スニヨリ立歸ル翌日則チ明治十四年十二月十八日尙又紋平方ハ罷越候處彼レハ逃走シ歸宅

不致ヨリ如斯場合ニテ紋平ヨリハ該証ヲモ受領セサレ共事實自分ハ博奕杯ハ平素不知モノニシテ生糸改所ノ擔當及ヒ古道具商致シ居ルモノナリ然ルヲ認定裁斷セラルハハ自分ノ甚タ了解セサル所ナリ因テ今回御院ニ向テ裁斷ノ破毀ヲ需メ度上告仕候以上

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告相澤周學ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラス犯罪事實ノ認定ニ對シ破毀ヲ求ムルノ趣旨ナルヲ以テ明治十年第十九號布告控訴上告手續第十條ニ適當セサル上告ニ付本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月十五日熊谷裁判所前橋支廳ニ於テ相澤周學ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第七十七號

○判文(不應爲ノ件)明治十五年一月七日上告
明治十五年二月十日判決

山梨縣南都留郡大富村三百六十

六番地平民

渡邊 作 右衛門

明治十四年十二月
六十五年四月

右作右衛門ニ對シ明治十四年十二月十五日靜岡裁判所甲府支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ

其方儀明治十四年二月中村内小林柳右衛門ト謀リ渡邊「ユウ」カ亡夫渡邊芳三郎ノ遺言ヲ以テ所有ノ財産分配方ノ取扱ヲ小林柳右衛門へ委託シタル趣ノ証書ヲ詐爲シ「ユウ」ノ伍組ナル宮下丈右衛門及ヒ上原庄九郎ニ依頼シ該偽証書ニ右兩人ノ氏名ヲ書加ヘ捺印イタサセタル科改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓貳十五錢自首狀ヲ出スト雖モ既ニ該件審問中ニ係ルニ付首免ヲ與フルノ限ニアラス贖罪ニ科スヘキ處實弟渡邊甚藏ノ告言ニ係ルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ全免ス

靜岡裁判所甲府支廳詰檢事工藤則勝於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二十一日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該裁判言渡書中實弟渡邊甚藏ノ告言ニ係ルノ文詞大ニ事理ヲ錯ル者ト云フヘシ何ントナレハ犯罪自首律告言スル云々ノ律意ヲ案スルニ相容隱スルヲ得ルノ親屬ニシテ他人害ヲ受クルノ事ヲ以テ互ニ相訐發スルハ親屬ノ情誼ニ戾ルノ故ヲ以テ卑幼尊長ヲ告言スルハ卑幼ハ干名犯義律ニ依リ科斷スヘキノ謂ニシテ自モ害ヲ受ルノ事ニ係ラハ卑幼ノ之ヲ告クルモ卑幼ヲ罪スルノ理ナキハ即チ干名犯義律第二項ニ明文アル所以ナリ然ルヲ裁判官ニ於テ甚藏ヲ以テ干名犯義律ニ觸ルハ者ト認メタルハ何以ヤ本身直接害ヲ受クルノ事ニ非ラスシテ告言シタリト認メタル者ノ如シ抑モ甚藏カ渡邊作右衛門ニ對シ告訴セシハ作右衛門カ他人ニ害ヲ被ラシメタル事ニ係ルカ決メテ然ラス明治十四年五月七日山梨縣管內猿橋警察署谷村出張所ニ差出シタル告訴狀ヲ審按スルニ甚藏娘「テ」代人トナリ告訴セシ者ニシテ而シテ其趣意タル渡邊芳三郎死後同人妻「ユウ」氏中長男音八失踪「ユウ」

亦死亡シ音八妻「テ」一人遺留シ「テ」該家相續スヘキノ所渡邊作右衛門ニ於テ專ラ私利ヲ逞フシ已ニ該家ノ財産ヲ侵奪スルニヨリ「テ」代人トナリ告訴シタルト云フニ在リ夫レ「テ」ナルナレ者ハ該訴ヲ提起スルノ權利ヲキヤ斷テ然レテカラス「テ」固ヨリ相續人タルニキノ位置ニ居ル該家財産ヲ保有スルノ權利アルカ勿論若シ二等親以下ノ尊長ニ財産ヲ侵奪セラレバ「テ」干名犯義律第三項ニ依リ告訴ヲ爲スノ道理アルヤ明ナリ然リト雖モ「テ」元不能力者ナリ之レカ後見ノ任アル實父甚藏ニ於テ傍觀シテ止ムヘケンヤ宜ク其不能力者ヲ扶ケ其權利ヲ暢達セシムルハ當然ナリ何ソ「テ」代人トナリテ告訴シタルヲ以テ法律ニ觸ルハノ罪人トナリト云フヲ得ンヤ然ルヲ裁判官ニ於テ干名犯義律ニ抵觸セシ者ト斷セシハ法律ノ見解ヲ誤リテ然ル者ト謂ハサルヲ得ス右ノ理由ナルヲ以テ該裁判ノ取消ヲ求ムル爲メ言渡書相添此ニ上告ス

辨明

渡邊作右衛門於テ亡渡邊「ユウ」記名ノ証書ヲ詐爲シタルハ改定律例第二百四十六條ニ掲載スル罪ヲ犯シタル者ナリ然リ而テ本件ハ亡「ユウ」長男當時失踪者渡邊音八妻「テ」代人實父渡邊甚藏外二人ノ告訴ニ係リ素ヨリ「テ」作右衛門ノ姪甚藏ハ實弟ニシテ各二等親ノ卑幼ニ係ルヲ以テ作右衛門カ所爲ハ犯罪自首條ニ照シ免罪スルト免罪セサルヲ判定スルニハ先ツ「テ」甚藏等ハ作右衛門カ所爲ヲ告言スルモ訴訟律干名犯義ノ限ニ在ルトアラサルト豫論セサル可カラス而テ干名犯義條第三項ニ曰ク其嫡繼母云々若シ二等親以下ノ尊長ニ財産ヲ侵奪セラレ云々并ニ告ルヲ聽シ告ラル者ハ各本罪ニ仍テ之ヲ科

ス干名犯義ノ限ニ在ラストアリ然ラハ則チ作右衛門カ証書ヲ詐爲シタル其所犯ノ思想如何ヲ識ルヘカラスト雖モ詐爲ノ証書面ニ對シ之カ解釋ヲ下スニ未タ財產ヲ侵奪シタル者ト爲スヘカラスト然ルチ二等親ノ卑幼ニシテ其所犯チ告言スルハ法律上聽サ、ル所ナリトス因之觀之ハ原裁判所カ犯罪自首條若クハ相容隱スルヲ得ル者爲ニ代首シ及ヒ告言スルハ各罪人自首法ノ如ク罪ヲ免ストアルニ照シ免罪シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十四年十二月十五日靜岡裁判所甲府支廳ニ於テ渡邊作右衛門ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第七十八號

○判文〔棄兒自首ノ件〕明治十四年九月廿二日上告
明治十五年二月十四日判決

神奈川縣橫濱區元町二丁目平民

富田泉

明治十四年八月廿七日橫濱裁判所ニ於テ右富田泉ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

明治十四年八月
三十三年十一月

其方儀當時八月月ナル實子新太郎ノ養育ニ差支ル迪テ橫濱區羽衣町巖島神社内ニ棄去ル后チ他人ノ知ル處トナリ官ニ聞レノ恐シ自首スルト雖モ首免ヲ與ウルノ限ニ非ス依テ右科律例第百十二條ニ照シ懲役百日ノ處情ヲ量リ五等ヲ減シ懲役五十日盲目ニ係ルチ以テ老少癡疾收贖律ニ照シ收贖金壹圓貳拾五錢申付ル

橫濱裁判所詰檢事安居修藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月五日付チ以テ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

漸律綱領自首條第三項ニ首免ヲ與ヘサルモノチ掲ケテ曰ク其人チ損傷及ヒ賠償ス可ラサルノ物チ毀棄シ若クハ姦スル者ハ並ニ自首ノ律ニ在ラスト然則此三事ヲ除クノ外何等ノ罪ト雖トモ都テ首免ヲ與ヘサル可カズ被告富田泉ハ盲人ニシテ食困ニ迫リ自ラ子ヲ養フ能ハサルヨリ人ノ收養ヲ僥倖シ竊カニ襦袢ノ兒子ヲ把テ戸長役場ノ前ニ棄テ追テ其所爲ヲ自首セリ而彼兒子ハ登時人ノ爲メニ見出サレ收養セラレテ現ニ教育所ニ有リ今泉ノ所爲固ヨリ改定律例第百十二條チ犯スモノナリト雖モ然レモ未曾テ其兒子チ損傷シタリト言フ可ラス則自首條第三項ノ要目ト正ニ干渉ナキモノニシテ其首免ヲ與フヘキハ固勿論ノミ然ルニ裁判官ハ例ツテ首免ヲ與フルノ限ニアラストナシ收贖金ヲ言渡セリ是其何ハ故ナルチ解セス或ハ其成跡僥倖ニシテ兒子チ損傷スルニ到ラサルモ其事固ト兒子チ損傷スヘキノ理アリトナシ而然ル乎看ヨ彼三項ノ字面唯ハチ損傷シ物ヲ毀棄シト云フノミ未曾テ人ノ損傷スヘキノコトナシ物ヲ毀棄スヘキノコトナシト云ハサルニ非ラヌヤ況ンヤ其所爲未必シモ其兒子チ損傷スヘキノコトナリト斷言スル能ハサルニ於テチヤ又或ハ其所爲兒子カ爲メニ果シテ生理ノ幾分チ損シ身体ノ幾分チ傷シタリト認メテ而然ル乎彼兒子ノ肥瘠強弱チ問フニ之チ棄ツルノ后之チ棄ツルノ前ト毫モ異ナルナシト言ヘリ要スルニ自首條律意ノアル所チ推考スルニ其首免ヲ與ヘサルモノハ事改正スヘカラサルノ所爲ニ限ル果シテ然ラハ仮令ヒ其所爲人チ損傷スヘキノコトニ屬スド雖モ未タ之チ損傷セサレハ

固ヨリ之レカ首免キ與ヘテ可ナリ論シテ此ニ到ラハ終ニ其裁判ノ不當ナルヤ明カナリ是レ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

名例律犯罪自首條第三項ニ其人ヲ損傷シ及ヒ賠償ヲ可ラサルノ物ヲ毀棄シ若シタテ姦スル者ハ並ニ自首ノ律ニ在ラズトアリ今泉カニ且棄兒ノ所爲アリト雖モ該兒ハ其當時他人ノ養育ヲ受ケ敢テ損傷アルニアラサル上ハ自首全免ヲ與フルヲ以テ相當ナリトス然ルニ原裁判所ノ裁判茲ニ致ラズ首免ヲ與ヘサリシハ不當ノ裁判ナリトス然リ而シテ所犯刑法ニ實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ依リ刑法ニ照スニ第三百三十六條ニ八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ又第八十五條ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ストアリ改定律例第百十二條ニ子女ヲ棄ル者ハ父母養父母ヲ分タズ並ニ懲役百日トアリ被告人泉ハ盲人ナルヲ以テ改定律例第四十五條ニ盲人罪ヲ犯セハ懲役ハ收贖シトアリ尙ホ自首セルヲ以テ名例律犯罪自首條凡ソ罪ヲ犯シ事未タ發覺セズシテ自ラ出首スル者ハ其罪ヲ免ストアルニ照シ舊法ニ輕キニ從テ處斷ス可キモトス

判決

右ノ如クナルニ依リ明治十四年八月廿七日横濱裁判所ニ於テ富田泉言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如ク

富田泉

明ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ改定律例第百十二條ニ依リ懲役百日自首ナルヲ以テ第四十五條ニ照シ收贖セシム可キ處自首スルニ依リ名例律犯罪自首條ニ照シ免罪スルニ依リ免罪スル

第七十九號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年十月七日上告
明治十五年三月十四日判決

石川縣越中國新川郡太田本鄉村 出生安五郎事平民

小 林 彌 彌 助

明治十四年八月
三十七年一月

右彌助ニ對シ明治十四年九月十六日横濱裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタルニ依リ其方儀原告鹽野檢事補ヨリ竊盜犯及ヒ警察署拘留中逃走スル旨公訴アリシニ付審理ヲ遂ル處

其方ニ於テハ明治十四年二月六日東京ニテ兼テ懲意ナル岡本龍乙ニ出會セ談話シ末戶塚驛ニ差置有之不正品買取與度旨龍乙ノ依頼ニ應シ龍乙外壹名同道シテ該驛ニ赴キ其方ハ宿外レニ待居タル處暫クシテ龍乙壹名ノミ反物ニ反包物壹個持參リタルニ付右反物ヲ受取歸途遂ニ追跡者ノ爲メ捕縛セラレ戶塚警察署ニ拘留中二月十三日看守者ノ隙ヲ視ヒ脱檻セシ等ノ儀ハ有之龍乙ト共謀シテ竊盜セシヨハ無之旨辨護スト雖モ其方龍乙ト再度戶塚驛ニ到タルルハ明治十四年二月六日午後十二時頃ニシテ夫ヨリ同驛宿外ニ至

居リ瀧乙ノ物品ヲ取來リ之ヲ受取シハ同夜鷄鳴ノ頃ト申立テ其開始ト五時間ヲ費シ單ニ他ニ在ル物ヲ取リ來ルモノト認メ難ク況ンヤ不正品ト云トモ之ヲ賣買スルノ時刻ニ非ラズ加之其前後ノ舉動且ツ警察官ノ證言被害者ノ申告等ニ據テ其實際ヲ推測スルニ其方ハ全ク瀧乙ノ誘導ニ從ヒ共ニ竊盜セシモノト認定ス右所爲ヲ以テ法律ニ參照シ賊盜律竊盜條ニ依リ贓金百九拾八圓六拾錢瀧乙ノ從トナシ懲役七年拘留中脱檻スルヲ以テ律例第二百九十三條ニ照シ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役終身ノ處情ヲ量リ三等ヲ減シ懲役五年申付ル

橫濱裁判所詰檢事安居修藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十四日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告小林彌助ノ一案竊盜贓金三百圓以上從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役十年警察署ノ拘留所ヲ脱逸スルヲ以テ二等ヲ加フルモ罪懲役終身ニ止マルニ依リ仍ホ終身ノ見込ヲ以テ求判ニ及フ處裁判官ハ竊盜贓金百九十八圓六拾錢ノ從トナシ七年ヨリ脱逸ノ二等ヲ加ヘ終身ニ終身トナシ仍ホ二等ヲ量減シテ懲役五年ト宣告セリ此ハ則纔カニ終身ニ入り彼ハ則留メテ終身ニ置其罪タル同是終身ナリト雖モ其犯情大ニ同シカラサルヲ以テ減等ノ權衡ニ至ツテハ則自ラ輕重ナキ能ハス故ニ該金額ノ差異タル亦等閑ニ付シ難キヲ以テ評價人安田禮助及當該官十三等出仕莊司鉄造ニ就テ其估計ノ頗末ヲ質スニ別紙戊己印ノ通贓品目錄ヲ評價セシ迄ニテ現ニ本物ニ就テ估計セシニ非スト答ヒタリ抑事主ノ價附ハ元ヨリ信ヲ置クニ足ラズト雖モ現品ヲ觀スシテ漫ニ價ヲ議スル如キ是最モ信ス可ラス今其一例ヲ舉ケンニ丙印上州八反二切事主ハ金五圓五拾錢ト陳スルモ甲印安田禮助ノ估計ハ則三

拾六錢トナセリ假令事主ノ信ス可ラサルモ豈如此ノ妄誕ヲ吐クモノナランヤ况ンヤ別ニ于印内田伊左衛門ノ評價アルニ於テキヤ因此觀之甲印評價ハ當テ得サル蓋シ論ヲ待タス夫レ本物流轉シテ所在ヲ知ラサルニ至ラハ則己ノ本案ノ如キハ別紙乙印ノ通其贓物保管シテ現ニ事主ノ手ニアリ然ルヲ現物ノ估計ナサシメス事主ノ價附ト莫大ノ差異アルヨモ拘ハラス漫ニ禮助ノ空言ヲ取リ其罪ヲ擬定スルハ所謂聽斷ノ定規ニ乖クモノト信ス是上告ノ已ナ得サル所以ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ原裁判所ハ評價人安田禮助ヲシテ贓物ヲ估計セシメ其價額ヲ贓ニ計ヘ罪ヲ斷シタル者ニシテ其估計金ノ高下ニ至テハ餘人ノ喙ヲ容ルヘカラス所ナリトス而テ改定律例第五十二條凡贓物現在シ及ヒ現在セスト雖モ事主本犯ノ口供ヲ審明シ評價人ニ估計セシム云々トアリテ必ス現品ヲ評價人ニ實見セシムヘキノ明文ナシ左スレハ原裁判所ニ於テ其現品ヲ實見セシメスシテ估計セシメ其價額ヲ贓ニ計ヘ罪ヲ科シタルハ不法トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月十六日橫濱裁判所ニ於テハ小林彌助ニ對シシタル裁判ハ不法ノ裁判ニアラストス

第八十號

○判文(犯姦ノ件)明治十四年十一月廿四日上告
明治十五年二月十四日判決

大分縣豊前國下毛郡萬田村平民

三ッ橋保次郎

明治十四年十月

二十八年十一月

同縣同國同郡高瀬村平民塚鶴次妻

ツ

明治十四年十月

二十年八月

明治十四年十月二十七日熊本裁判所中津支廳ニ於テ右保次郎「ツル」等ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

犯姦一件審問ヲ遂ケ裁判スル左ノ如シ

本夫塚鶴次ニ於テ犯罪ノ廉アリ明治十四年六月以來拘留セラレ其留主中其方共ニ於テ姦通ナシタル旨本夫鶴次ノ申告ニ係リ中津警察署ヨリ公訴ニ及フヲ以テ其方共ニ於テ犯姦ノ罪証アルヤ否ヤヲ審究スルニ抑モ本夫鶴次ノ告訴タルヤ只其職弟子植木吉次郎ノ告言ニ據ルノミニシテ他ノ証左アルニ非ラサレハ之ヲ吉次郎ノ告言ニ徵スルノ外ナシ然ルニ吉次郎ノ告言ニ於ケル亦只蚊帳ノ中ニ打臥シタル儘四疊ノ間ナル半枚戸ノ内ニテ姦スルヲ見認メタリト云フニ過スシテ當時之ヲ撞見スル歟又ハ他ニ其証據ヲ攪執セシモノニ非ラス殊ニ夜間假令點燈ノアルニモセヨ蚊帳ノ中ヨリ半枚戸ノ裏ヲ見認ル能ハサル勿論ナルニ依リ單ニ吉次郎ノ口頭ノ告言ノミヲ以テ犯罪ノ証據トスルニ足ラス其已ニ証據トスルニ足ラサル以上又他ニ徵スヘキ証據之ナキヲ以テ其方共ニ於テ姦罪ヲ犯シタル

モノト認定スルヲ得ス因テ罪ノ問フヘキナシ

大分縣十等警部梶原次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月一日附テ以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

右ノ者共通姦シタル科改定律例第二百六十條凡和姦夫アル者各懲役一年トアルニ該ル見込ヲ以テ明治十四年十月十日熊本裁判所中津支廳ニ求刑ニ及フ處明治十四年十月廿七日該廳ニ於テハ別紙ノ通略單ニ吉次郎ノ口頭ノ告言ヲ以テ犯罪ノ証據トスルニ足ラス云々因テ罪ノ問フヘキナシト言渡シタリ抑モ植木吉次郎ノ告言ハ眞實ノ供述ナレハコソ塚鶴治之ヲ信シテ告訴セリ右鶴治モ妻「ツル」ヲ調ヘタレハ「シモセイシヤア」ト云フ俗言ト自白セル供述アリ假令保次郎及ヒ「ツル」兩名訟庭ニ於テ自白セス又々鶴次ノ撞見シタルニ非ラス且ツ他ニ証據ノ攪執セシモノ非ラスト雖モ右鶴次并吉次郎ノ告言ハ犯罪ヲ証スルニ足ルモノナリト思量ス然ルヲ前述ノ通り裁判シタルハ不當ナリト見込候條成規ノ通り一件書類相添此段及上告候也

辨明

上告ノ旨趣ハ告訴人証人ノ供狀ヲ裁判官ニ於テ採用セザリシハ不法ナリトアルト雖モ告訴人証人ノ陳供ヲ取捨採擇スルハ承審官ノ權内ニアルヲ以テ之ヲ不當ナリト言テ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月二十七日熊本裁判所中津支廳ニ於テ三ッ橋保次郎外一

名へ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス
第八十一號

○判文(違式ノ件) 明治十四年十一月廿四日上告
明治十五年二月十四日判決

福岡縣筑前國那珂郡馬出村士族

八 木 元 長

明治十四年十月
三十三年八月

同縣同國同郡同村平民

木 原 吉

明治十四年十月
二十一年四月

明治十四年十月二十八日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ右元長床吉等ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シ
ク

八 木 元 長

其方儀明治十四年二月十五日木原床吉妻同年一月中遠賀郡蘆屋村親戚ノ方滯在中男子出生シタルニ床吉妻并出生ノ男子共馬出村ニ引取リ后床吉ノ頼ヲ受ケ同年二月生レテ同年二月十五日出生ト記シタル醫証交付シタル科雜犯律違式輕ニ問ヒ懲役十日士族ナルヲ以テ閏刑ニ換禁獄十日贖ヲ聽シ贖罪金七十五錢申付ル

木 原 床 吉

其方儀明治十四年一月中遠賀郡蘆屋村親戚ノ方ニテ其妻出産后自宅ニ引取同年二月十五

日八木元長ノ醫証ヲ取リ其筋へ届出タル科雜犯律違式輕ニ問ヒ懲役十日贖ヲ聽シ贖罪金七十五錢申付ル

福岡縣九等警部宮川轍次ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月一日附テ以テ大審院ニ上告スル爲ノ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル要旨左ノ如シ
右被告等カ犯迹ハ不實ノ書面ヲ取拵ヘ其筋へ届出タル者ナルヲ以テ嚮キニ長崎裁判所福岡支廳へ公判ヲ需メ置キタル處明治十四年十月廿八日別綴宣告書案ノ如ク雜犯律違式輕ニ問ヒ處斷シタリ之レ不當ノ裁判ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ例第二百四十七條ニ明文アル在レハナリ是ヲ以テ小官甚タ不當ノ公判ト考量ス仍テ上告破毀ヲ需ムル所以ナリ

辨明

改定律例第二百四十七條ニ凡對詔及奏事上書ヲ除ク外云々トアルハ專ラ官吏ノ公務上ニ係ルモノニシテ人民ヨリ其管轄廳ニ對スルノ所爲ニ適用スヘキ者ニ非ス故ニ原裁判所ニ於テ被告人ノ所爲ニ對シ違式律ヲ以テ處斷シタルハ不當ノ裁判ニテラヌトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月二十八日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ八木元長木原床吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第八十二號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年十二月一日上告
明治十五年二月十四日判決

石川縣加賀國金澤區小立野上野

町平民

小 松次 助
明治十四年十月
三十六年

右次助カ所爲ニ對シ明治十四年十一月十五日金澤裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シテ爲シタリ
其方義明治十四年十月六日金澤區尻垂坂貳丁目水橋政榮方へ忍入衣類ヲ盜ミ去ラント取
出セシモノアリシ事件ニ付方政榮留守居人菊井「フユ」ノ始末書并醫師ノ診斷書ヲ審案シ
檢事補松浦官藏ノ意見書ヲ熟閱シテ事實ヲ推測スルニ右ノ所爲ハ全ク其方ノ所爲ナルコ
トヲ認定ス盜賊四拾貳圓五錢ノ科竊盜條ニ依リ懲役百日申付ル

次助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十四日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如
シ

一明治十四年十月六日金澤區尻垂坂通り二丁目水橋政榮持家前テ同日午前第三時頃金澤
區水車町澤原甚吉方へ金錢貸借ノ談判ニ罷越居深夜歸宅途中不計右政榮持家前テ通り過
ルニ大戸壹尺余明ケ放チ之レアルヨリ不審ニ存シ回家留守人菊井「冬」ナル者ハ從來甚ダ
懇知ナル者ニ付家内如何ナルヤト相伺ヒタルニ豈ニ計シヤ二三ノ男子戸内ヨリ顯ハレ出
ツルニ付之レ果シテ盜ナラント直チニ相防キシニ闇夜ニシテ人体モ相分リ不申ヨリ其壹
人ヲ縛セントセシ際左ノ足ヲ踏マレ其痛症ニ耐ヘ難キヲ奇貨トシ盜ハ逃ケ去リタリ夫レ
ヨリ直様右「冬」方ニ保養罷在リシ際「冬」ノ申分ニハ自分ノ負傷シタルハ是レ全ク盜ヲ防
キタル爲ナレハ「冬」ニ於テハ自分ノ負傷快氣ニ相成迄何程藥代相懸リ候也「冬」ニテ相辨

シタル坏ト申居實ニ自分カ案内ナシタルニ付品物ハ盜マレヌ誠ニ近隣ノ者打寄リ悦ビ居
申候其際自身身体難耐ニヨリ衣類一枚「冬」ヨリ借受着用仕翌六日醫師ノ方へ罷越候節
「冬」ナル者人力車ヲ認メガセ自分ヲ乗セ吳レ其際ニモ金拾錢同人ヨリ借受ケ醫師桑原某
方へ罷越シ診斷ヲ受ケ其儘金澤區十間町宿屋塚本方ニ保養罷在候處同日午后二時頃金澤
警察署ヨリ御拘引ニ相成出頭仕候處右頼末御尋問ニ付其始末上仰セシニ診斷書可差出御
達シニ付同七日桑原方へ罷越候處留守ニ付歸宅仕同八日桑原方へ罷越シ診斷書ニ葉申受
ケ同九日持參出頭可仕處日曜日ニ付同十日曉天金澤警察署ニ出頭前醫師桑原方へ立寄リ
シニ醫師桑原申聞ケニハ八日認メタル診斷書未タ指出無之ハ取換ヘ相渡スヘシ段申ニ付
何心ナク書換タル診斷書ヲ以テ直様警察署へ捧呈仕候然ルニ八日調ヘタル診斷書ハ外部
ヨリノ負傷ト認メアリト覺ニ後取換タル診斷書ハ自分求メタル負傷トアリ之レ全ク曖昧
ノ診斷ナリ將又醫師ノ診斷違トセハ際限ナキ次第ニテ負傷ノ當時認メタル者ヲ實トスルカ
將タ翌日診斷モナク書換タルヲ實トスルカ實ニ自分於テ了解シ能ハサル所ナリ然ルニ今
回該盜難チ家主水橋政榮ヨリ訴ヘシニ段々御取調ヘノ末別紙宣告ヲ受ケタルト雖モ自分
於テハ元來通り掛ノ者ニシ且從來菊井「冬」ナル者ト三四年前ヨリ熟懇ニシテ昨十三年三
月ヨリ本年三月迄ハ月三圓宛ノ給料ヲ渡シ密通和姦チナシタル者ニ付該時見捨テ通り難
ク立寄リタル始末ナルニ目下水橋政榮ナル者ハ右菊井「冬」ナル者ヲ留守居ニ稱シ其實妾
同様謂ユル圍者トカニ當時召使ヒ有之者ニ付自分於テ前顯ノ次第モ之レアルハ全ク嫉妬止ヨ
リ右「冬」ノ始末書ヲ自調シ后来菊井方へ出入ヲ指止メルガ爲メト故意ヲ以テ自分盜ト見

倣製整シタル始末書ヲ呈シ斯ル難事ヲ引出シタル者ナレ元來冬ト自分ノ間柄ニ於ケル昨十二年七月ヨリ同年十月迄ニ養育料方立換金貳拾八圓七拾錢ヲ數度ニ貸附内五圓七拾七錢三厘同年十月請取タリ(是レハ則証據)其他若干金并ニ物品數品貸附有之其外本年三月冬長男順太郎北陸日報社配達人申該社ノ金員ヲ引負ヒセシ際ニモ金三圓立換タル事モ有之間ナレハ何爲レ冬ノ居宅ニ踏ミ入り物品ヲ窃取スル謂レ之アラソ然レモ之等ハ皆耻情ノ件々ニ付金澤裁判所檢事御調理ノ際及ヒ御糺問ノ際トモ上伸セサレモ今斯ノ累世ノ耻辱モ甚シク盜名ヲ呼ハレテハ實ニ遺憾ニ耐ヘサルニ付該宣告事實推測上御處分相成リタル上ハ明瞭上伸仕候將タ該宣告文中ニ竊盜條トアルモ何ニ依ツテノ御處分ナルヤ幾重ニモ難服ニ付此上ハ前顯ノ事情御憐察アツテ正理至公ノ御處分有之度此段上告仕候

辨明

上告事件ヲ察按スルニ被告小松次助ニ於テ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラス犯罪事實認定ノ不當ナルヲ述ベ覆審ヲ求ムルノ趣旨ナルヲ以テ明治十年第十九號布告第十條ニ適當セサル上告ナルニ付本院ニ於テ採用スベキ限リニアラス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十五日金澤裁判所ニ於テ小松次助ニ言渡シタル裁判ハ破毀スベキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也
第八十三號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十四年十二月二日上告
明治十五年二月十四日判決

兵庫縣播磨國栗原郡狹戶村平民

安

原 繁 松
明治十四年十一月二十三年

明治十四年十一月八日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ右繁松ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
神戸裁判所姫路支廳ニ於テハ檢察官ノ求刑ニ因リ被告人安原繁松ニ對スル事件ニ付証人ノ陳述相當官吏ノ作りタル調書ノ朗讀ヲ聽キ証據物件タル書簡ヲ檢シ被告人ノ答辨ヲ聽キ被告繁松ハ明治十四年一月七日曾テ田口勘兵衛ニ預ケ置タル米代金三百六十五圓村田丈吉ヲシテ從弟松下次郎吉ト詐稱シ受取ラシメ追テ自己ハ之ヲ知ラサル旨勘兵衛等ヲ欺罔シ更テ該金員ヲ騙取セントシ未タ遂ケサルモノト認定ス
依テ法律ニ照スニ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス罪流三等ニ止ル

同律竊盜條凡竊盜財ヲ得サル者ハ答四十

右ノ條目ニ依リ被告繁松ハ竊盜ニ準シテ論シ懲役四十日ニ處ス

安原繁松ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十七日附テ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

繁松謹テ開陳ス田口勘兵衛ナル者ハ身元モヨロシク私常ニ取引條ニモ安心ナリ其レ故預ケ置金正算ノ上ニ無之テハ空ニ覺ナヌトナシ又私ノ常ニ直實ナルヲ勘兵衛尤領知セリ

故ニ水魚ノ交リノ中何トテ勘兵衛ヲ欺罔スヘキヤ全ク村田丈吉ナル者ノ米五石ヲ私ヘ買
 吳レ候ト依頼ニ付買預リタリ然ルチ米直段下落ノ際トナル私手元薄スキ故右勘兵衛ヘ五
 拾圓ノ代金ト定メ預ケ置キタル處勘兵衛ニハ右村田丈吉ナル者ヲハ少シモ不知者ニテ私
 ト村田丈吉トハ知りタル者ノ處前陳スル米五石ノ代早ク渡シ吳レヨト丈吉ヨリ催促セラ
 レ私ニハ買タル米價該時下落シテ手元不都合ヨリ今シハラク待吳度ヨシヲ申セシ處該米
 ハ何處ニ有之哉ト疑カハシク申スニ付其レハ勘兵衛得方ヘ代金五拾圓ト定メ預ケ置タルナ
 リト餘リ催促ノ嚴シキニ付且ツハ疑カヒテ晴サソカ爲勘兵衛方ヘ行カレヨト申セシ事ア
 リ然ルチ丈吉狡猾ノ作意ヲ起シテ右勘兵衛ヲ欺ムキタルナラソ元ヨリ私從弟ニ松下次郎
 吉ト申セシ者等更ニ無之既ニ勘兵衛ニハ何者トモ不知松下次郎吉ト詐稱セラレテ實ハ村
 田丈吉ヘ渡セシ金員ノ始末ハ勘兵衛私ヘ申スニ渡シ方甚粗忽ナリシト言譯ケシテ該金ハ
 私ヘ返辨スヘキ旨ヲ申スニ付私モ右勘兵衛ヨリ返辨ノ譯ハ氣ノ毒ニシテ請取ヘキニハア
 ラスト申免ニ角詐稱シタル人ヲ探索スルニシカスト勘兵衛私共々探索ニ困勞シタリ爰チ
 以テモ勘兵衛ヲ欺罔シタルニハコレナキト顯然タリシガ爾チ宣告書ニ曰証據物件タル書
 簡ヲ檢シトアル書簡ハ既ニ御札問中私ハ無筆ナリト陳述ス然ルニ手跡ノ御檢査モ有之ナ
 カラ反テ丈吉ノ手跡御檢査ハ無之哉如何承領仕リカタク奉存候願クハ勘兵衛増太郎丈吉
 私ノ四名御突合セ丈吉ノ手跡御檢査ノ上御判決被下度奉存候宣告書ノ檢査官ノ求刑ニ因
 リ何ノ御求刑カハ証人ノ陳述相當何ノ相當カハ官吏ノ作リタル調書ノ朗讀ヲ聽キ何ノ聽
 方カハ証據物件タル書簡ヲ檢シ何ノ檢シ方カハ一モ承領仕カタク更ニ勘兵衛ヲ欺罔シタ

ル覺ヘハ毫モ無之也實ニ意外ノ運ヒト相成窃盜ニ準スルノ條殘快ノ至ニ不忍不服ノ始末
 上告仕候何卒御仁恤ヲ以テ更ニ正當ノ御判決ヲ被成下置度俯テ奉歎願候頓首

辨明

上告事件ヲ審接スルニ被告安原繁松ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラスシテ犯罪事實ノ
 認定上ニ付不服ヲ申立ルト雖モ總テ事實覆審ニ係ル請願ノ趣旨ナルチ以テ明治十年第十
 九號布告控訴上告手續第十條ニ適當セサル上告ニ付本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラス
 トス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十四年十一月八日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ安原繁松ニ言渡タル
 裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第八十四號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年十二月六日上告
 明治十五年二月十四日判決

熊本縣肥後國託摩郡本山村平民

水野勘吾

明治十四年十一月
 四十五年

右勘吾カ所爲ニ對シ明治十四年十一月十四日熊本裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シチ爲シタリ
 水野勘吾ニ對シ檢査官ヨリ公訴シタル詐欺取財從ノ事件ニ付審問ヲ遂ケタル處
 檢査官ノ申立及ヒ証憑ノ要領ハ被告人ハ清谷源八ノ發意ニ同シ若松伊七カ賣却ノ爲メ選

搬セシ處ノ摺若干ヲ詐取シタリト云フニ在リテ証告書糾明願書等ヲ提供セリ
被告人ノ申立ル處ハ該摺ニ於ケル素ヨリ正當ノ賣買ヲナシタルモノニテ決シテ詐取シタ
ルニアラスト云フニ在リ

然ルニ當初該摺賣買ヲナス時伊七ヲ藏主ニ源八ヲ賣主ニ假定シ賣買証書ヲ作為シタル所
爲ト又右代金ノ幾分カハ廣永壽三郎ヨリ受取直ニ源八へ引渡シナカラ故ラニ之レヲ伊
七ニ知ラシメサル等ノ行爲アルヲ見レハ決シテ正實ノ賣買ニ出テタルモノトハ見做ス
ヲ得ス

右ニ依ルニ被告人ハ明治十三年七月中估計金貳百四十圓ニ當ル摺ヲ詐取スル罪ヲ犯シタ
ル者ト確認ス

賊盜律詐欺取財條ニ曰凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ルモノハ賊ニ斗ヘ竊盜ニ準シテ論シ流
三等ニ止ル同律竊盜條ニ曰ク贓金百二十圓以上懲役十年名例律共犯罪分首從條ニ曰凡共
ニ罪ヲ犯ス者ハ造意壹人ヲ以テ首トナシ隨從者ハ從ト爲シ一等ヲ減ス

右ノ理由ニ基キ檢察官ノ意見ヲ難キ被告人水野勘吾ニ對シ懲役七年ノ刑ヲ言渡ス者也
勘吾ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如

一熊本裁判所御判文中然ルニ當初該摺賣買ヲナス時伊七ヲ藏主ニ源八ヲ賣主ニ假定シ賣
買証書ヲ作為シタル所爲ト又右代金ノ幾分カハ廣永壽三郎ヨリ受取直ニ源八へ引渡シ
ナカラ故ラニ伊七ニ知ラシメサル等ノ行爲アルヲ見レハ決シテ正實ノ賣買ニ出タルモノ

トハ見做スヲ得ストアリコレ不服ノ一點ナリ抑該摺賣買ノ約ヲ結フヤ被告勘吾ハ廣永
壽三郎ノ倚賴ニ付壽三郎ノ代人トノ紹介人本郷儀三郎同行摺船ニ至リ若松伊七清谷源八
此時初メテ等列席四百俵ヲ賣買壹俵六拾八錢貳厘ニ決シ内金貳拾圓ヲ拂入レ殘金ハ三日
面會ヲナス等列席四百俵ヲ賣買壹俵六拾八錢貳厘ニ決シ内金貳拾圓ヲ拂入レ殘金ハ三日
間ノ受引ト定メ賣渡証書ヲ領シタリ而シテ其賣渡証ハ歸路廣永壽三郎へ渡併セテ其契約
ノ順序ヲ陳ヘ置タリ

一摺代金ノ内百十五圓買主廣永壽三郎ヨリ清谷源八へ直接ニ拂ヒ入レタリ
一前陳ノ通りナレハ被告人勘吾ニ於テハ素ヨリ正當ノ賣買ナル廣永壽三郎ノ代人トノ該賣
買ニ關シタルモノナレハ伊七ヲ藏主源八ヲ賣主ニ假定シ賣買証ヲ作為スル等ノ行爲アル
ノ理ナキモノニシテ其源八等ハ不正ノ所爲アルニモセヨ勘吾カ其不正ニ關セサルハ一
目瞭然智者ヲ俟スノ明亮ナリ又摺代金ノ幾分ヲ壽三郎ヨリ受取直ニ源八へ引渡シナカラ
故ラニ伊七ニ知ラセシメサル云々トハ何ノ謂ソヤ被告勘吾ハ買主廣永壽三郎ノ代人ナレ
ハ摺代金ヲ拂ヒ而シテ其受取証ヲ領スルマテノ任ニシテ決シテ賣人ノ爲メニ金員受拂ノ
報告ヲナスノ任アラサレハ旁熊本裁判所ノ御判文不適當ナリト信認ス

辨明

上告事件ヲ審按スルニ上告人水野勘吾ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラストシテ犯罪事實
ノ認定上ニ對シ不服ヲ陳辨スト雖モ總テ事實ノ覆審ヲ請願スルノ趣旨ナルヲ以テ明治十
年第十九號布告第十條ニ適當セサル上告ニ付本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十四日熊本裁判所ニ於テ水野勘吾ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也
第八十五號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年十二月六日上告
明治十五年二月十四日判決

熊本縣肥後國八代郡八代袋町平民

本 郷 儀 三 郎

明治十四年十一月

三十年五月

右儀三郎カ所爲ニ對シ明治十四年十一月十四日熊本裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シテ爲シタ

本郷儀三郎ニ對シ檢察官ヨリ公訴シタル詐欺取財從ノ事件ニ付審問ヲ遂ケタル處

檢察官ノ申立及ヒ証憑ノ要領ハ被告人ハ清谷源八ノ發意ニ同シ若松伊七カ賣却ノ爲メ運

搬セシ處ノ擲若干ヲ詐取シタリト云フニ在リテ証告書糾明願書等ヲ提供セリ

被告人ノ申立ル處ハ該擲ニ於ケル素ヨリ正當ノ賣買ヲナシタルモノニテ決シテ詐取シタ

ルニアラスト云フニ在リ
然ルニ當初該擲賣買ヲナス時伊七ヲ藏主ニ源八ヲ賣主ニ假定シ賣買証書ヲ作爲シタル所

爲ト又タ右代金ノ幾分カハ廣永壽三郎ヨリ受取直ニ源八ヘ引渡シナカラ故ラニ之レヲ伊

七ニ知ラシメサル等ノ行爲アルヲ見レハ決シテ正實ノ賣買ニ出テタルモノトハ見做ス

テ得ス
右ニ依ルニ被告人ハ明治十三年七月中估計金貳百四拾圓ニ當ル擲ヲ詐取スル罪ヲ犯シタ

ル者ト確認ス
賊盜律詐欺取財條ニ曰凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ルモノハ賊ニ計ニ竊盜ニ準シテ論シ流

三等ニ止ル同律竊盜條ニ曰ノ贓金百貳拾圓以上懲役十年名例律共犯罪分自首條ニ曰凡共

ニ罪ヲ犯ス者ハ造意壹人ヲ以テ首トナシ隨從者ハ從ト爲シ一等ヲ減ス
右ノ理由ニ基キ檢査官ノ意見ヲ聽キ被告人本郷儀三郎ニ對シ懲役七年ノ刑ヲ言渡ス者也

儀三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十四日本院ニ上告ノ旨趣左ノ

如シ
一熊本裁判所御判文中然ルニ當初擲賣買ヲナス時伊七ヲ藏主ニ源八ヲ賣主ニ假定シ賣買

証書作爲シタル所爲ト又タ右代金ノ幾分カハ廣永壽三郎ヨリ受取直ニ源八ヘ引渡シナカ

ラ故ラニ之レヲ伊七ニ知ラシメサル等ノ行爲アルヲ見レハ決シテ正實ノ賣買ニ出タルモ

ノトハ見做スヲ得ストアリ之レ不服ノ主點ナリ故如何トナレハ抑該擲賣買ニ被告儀三

郎カ關係スル所以ノモノハ他ナシ清谷源八若松伊七カ依頼ニ付賣買取組スルノ紹介ヲナ

シタルモノニシテ御判文ノ如キ其賣買証書ヲ作爲シ又ハ其金員ヲ廣永壽三郎ヨリ受取故

ラニ伊七ニ知ラシメサル等ノ行爲ナキ辨解ヲ俟スノ明亮ナリ素ヨリ紹介人ナレハ啻ニ其

賣買契約ノ取組ヲナスマテニシテ其代金等ハ賣主買主ノ直接ニ受授スルモノナレハ儀三

郎カ故ラニ知ラシメサルノ理ナシ其賣買証書ヲ作爲スル等ニ至リテハ毫モ被告カ關係セカ

ルモノナレハ良シヤ源八等ハ不正ノ故意アリテ何等ノ行爲アルモ被告カ之レニ關涉セサルハ法理ノ尤トモ親易キモノナリ由之觀之熊本裁判所ノ言渡書ハ不適當ノ裁判ナリト確認ス

右ノ通ニ付熊本裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ公明ノ御裁判奉仰候以上

辨明

上告事件ヲ審按スルニ上告人本郷儀三郎ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラヌシテ犯罪事實ノ認定上ニ對シ不服ヲ陳辨シ破毀ヲ求ルト雖モ總テ事實覆審ヲ請願スルノ趣旨ナルヲ以テ明治十年第十九号布告第十條ニ適當セサル上告ニ付本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十四日熊本裁判所ニ於テ本郷儀三郎ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也
第八十六號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年十二月九日上告
明治十五年二月十四日判決

群馬縣上野國東群馬郡前橋天川

村字矢田町士族

高橋愛慈

明治十四年十一月

三十二年三月

右愛慈カ所爲ニ對シ明治十四年十一月三十日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲シタリ
其方儀金子忠右衛門ヨリ海苔壹万枚詐取セントシ又ハ小出勘四郎方外壹カ所ニ於テ畔上政次郎外一名所有ノ金錢物品欺取ル賍金六百四十八圓余右科ノ内詐欺取財條ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ除族ノ上懲役十年申付ル

但該金費用シタル分賠償ノ爲メ資力ヲ追徴ス

高橋愛慈ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月七日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年十一月三十日東京裁判所ニ於テ詐欺取財ノ科ニ因リ懲役十年處刑被申渡候處自分犯罪タルヤ金子忠右衛門ヨリ海苔壹万枚詐取セントシタル云々並ニ小野里萬之助一件右兩條詐欺ニ因ルト雖モ小出勘四郎方ニ於テ畔上政次郎ヨリ金六百貳拾圓一時相預リ自分所持ノカパンニ入夫ヲシテ宿主小出勘四郎ニ相預ケ置其夜同人ヨリ請取申候一畔上政次郎ニ不差戻シテ私擅ニ預リ金ヲ費用シタル儀ニシテ詐欺ニ因ル譯ニハ有之間敷ト奉存候條原告畔上ニ於テ詐欺ノ趣主張候義ナレハ何卒對審被仰付被下度右ノ場合ナルヲ以テ猶一應御再審被成下度此段奉上告候

辨明

上告人高橋愛慈ニ於テハ畔上政次郎ヨリ金六百二十圓一時相預リ私擅ニ費用シタルモノニテ詐欺ニアラスト申立ルト雖モ警察使ニ對シ爲シタル口供中（必ズ金圓ハ此内ニアラント思ヒ彼レノ油斷ヲ窺ヒ居候然ルニ政次郎ハ府下不案内ノ由ニ付幸ヒナリト存同日午

後九時頃淺草觀世音へ參詣セサルヤト申勸メ同意致サセ夫ヨリ再ヒ同人ニ向ヒ當旅店ハ殊ノ外雜踏スル故貴殿所持ノ風呂敷包ノ如キハ自分ノカバンへ入レ確ト戸主へ預ケ置ク方可然旨申タルニ承知セシニ付自分ヨリ右カバン並同人所持ノ茶色海氣張蝙蝠傘一本ヲ戸主ニ預ケ共ニ淺草ニ到リ暫ク觀世音前ノ水茶屋ニ休息致候其時自分政次郎ニ向ヒ曾テ此近傍ノ知人へ羽織一枚預ケ置タレハ暫ク當店ニ待テ居リ吳候様申欺キ急キ旅店へ立戻リ鉄砲洲ヨリ伊豆行ノ漁船出帆ニ付預ケ置タルカバン渡スヘキ旨戸主勘四郎ニ申聞ケシニ政次郎立會ノ上ナラテハ渡シ難キ旨答ヘタルニ付政次郎ハ鉄砲洲ノ船宿ニ待居候由虛言申聞ケ右カバン蝙蝠傘ヲ受取ニ云々トアルヲ以テ見レハ則チ其事實ハ詐欺ノ理由ニ成立チタルモノニテアサレハ原裁判所カ賊盜律詐欺取財條ヲ適用シタルハ至當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月三十日東京裁判所ニ於テ高橋愛慈ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第八十七號

○判文(地券書換犯則ノ件) 明治十四年十二月二十日上告
明治十五年二月十四日判決

島根縣石見國美濃郡中島村十五

吉村友三郎

村友三郎

明治十四年十一月

三十三年

對シ左ノ裁判ヲ言渡

明治十四年十一月二十八日松江裁判所濱田支廳ニ於テ右吉村友三郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十一年十二月中亡父品藏跡家督相續スルニ由リ讓受タル吉村利吉ト共有ノ地券狀壹通名前書換ヲ其期限内ニ願出サリシ旨檢事補松木堅葉ノ公訴ニ依リ取調フル處明治十一年十二月十日亡父品藏跡家督相續スルニ依リ讓受タル右地券狀一通ノ名前書ヲ六ケ月ヲ過キ即チ明治十四年七月三十一日戸長役場へ差出シ其規則ヲ犯シタル旨陳述シタリ依テ其科明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條ニ依リ証印稅三錢ノ五倍過料金十五錢申付ル

松江裁判所濱田支廳檢事補松木堅葉ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十二月二十九日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑モ該犯ハ明治十一年十二月亡父品藏カ家督ヲ相續シ讓受ケタル吉村利吉ト共有ノ地券狀壹枚ヲ其讓受ケタルヨリ六ケ月間ニ名前書換願出サリシモノナルニ付明治八年第五百十三號公布ノ第二條ニ違犯セシモノナレハ當時現行ノ証印稅則明治九年地租改正局甲第一號布達ニ明記アル証印稅壹錢ノ五倍ヲ科スヘキモノナルニ犯罪ノ後明治十四年第三十號公布ニテ更定相成タル重キ証印稅三錢ノ五倍ヲ科シタルハ不法ノ裁判ナリト量定ス今該裁判擬律原案ヲ閱スルニ明治十四年第三十號公布ニ該犯々罪後從前ノ証印稅則ハ廢止ストアリテ該公布以前ノ犯者ハ從前ノ規則ニ依ルヘキ規則ノ明文ナシ云々トアリ今其明

文ナキヲ以テ犯罪當時ノ法律ヲ適用スルヲ得サルモノトセン乎該犯者ノ如キハ宜ク免訴
ノ言渡ヲナスヘキナリ焉ノ犯罪後ノ頒行ニシテ犯罪當時ノ法律ヨリ重キ刑ヲ適用スルヲ
得可ノ乎蓋シ右第三十號公布ニ從前ノ証印稅則廢止トアルハ該第三十號公布ノ法律施行
後ノ謂ナルヘシ荷モ輕キニ就クニアラサル限リハ法律ノ既往ニ溯用スヘカラサルハ法理
ノ最モ見易キモノニシテ現ニ改定律例第百條及改定刑法第三條ノ設ケアルコトアラヌヤ該
犯ノ如キハ本律外ノ犯者ナルヲ以テ刑法ノ名例ニ從フヘカラストスルモ本律罪ノ兇惡ナ
ルモノスラ尙ホ如斯況ンヤ輕微ナル該犯則者ニ於テチヤ宜ク新舊ノ法律ヲ比照シ其輕キ
ニ從ツテ處斷スヘキヤ固リナリトス

辨明

吉村友三郎ニ於テ亡父品藏カ跡家督相續セシ上ハ其六箇月以内ニ地券書換ノ手續ヲ爲ス
ヘキニ其手續ヲ爲サ、リシハ明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條死亡者
失踪者ノ家督相續云々ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族ハ親族ナキモノト連印ノ上戸長役
場ヲ經テ地券書換願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺産相續ノ日ヨリ六箇月
以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ証印稅五倍ノ科料ニ處ストアリ又明治十四年第三
十號布告ニ左ニ掲グルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀壹通ニ付三錢トス代換授與
云々地券書換トアルニ照シ地券壹通ニ付証印稅三錢五倍ノ科料金十五錢ヲ科スルヲ相當
ナリトス何トナレハ友三郎カ家督相續セシハ明治十二年十二月中ニアリト雖モ明治十四
年七月三十一日マテ右書換ノ手續ヲ爲サ、リシハ即チ繼續犯者タルヲ以テナリ然レハ原

裁判所カ明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條ニ依リ証印稅三錢ノ五倍即
過料金拾五錢ヲ申渡シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

前辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十四年十一月二十八日松江裁判所濱田支廳ニ於テ吉村友三郎
ニ言渡シタル裁判ハ毀破スヘキ理由ナキモノトス

第八十八號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年十一月四日上告
明治十五年二月十五日判決

山形縣羽前國東村山郡大寺村平民

本田 助 左衛門

明治十四年九月
六十年六月

同縣同郡深堀村平民

山 富 藏

明治十四年九月
二十九年七月

明治十四年九月二十日福島裁判所山形支廳ニ於テ右本田助左衛門村山富藏ニ對シ左ノ裁判
ヲ言渡シタリ

本田 助 左衛門

其方儀賭博ニ用フル骨牌ヲ製造シ販賣スル科改定律例第二百七十一條ニ依リ懲役八十日
可申付處情法ヲ酌量シテ一等ヲ減シ懲役七十日申付ル

但製牌ノ器具及ヒ預ケ置タル筵包ノ骨牌五箇ハ取揚ル

村山 富藏

其方儀賭博ニ用フル骨牌ヲ買入レ販賣スル科改定律例第二百七十一條ニ依リ懲役八十日可申付處情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ懲役七十日申付ル

但所持骨牌七拾九組ハ取揚ル

山形縣六等警部伊地知季輝ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年九月二十八日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

明治十四年九月十七日ヲ以テ被告本田助左衛門村山富藏カ博器製造販賣セシ稜ヲ福島裁判所山形支廳ヘ公訴ニ及ヒタル處明治十四年九月二十日各懲役ニ處シ器具骨牌等ヲ取揚ルハ適當ナリト雖モ助左衛門富藏カ骨牌ヲ販賣セシ其賣得金現在スレハ官ニ沒収ス可キハ勿論費用ニ罹ルト雖モ素ヨリ應禁物ヲ販賣シ得タル處ノモノナレハ資力ノ限リ追徴ス可キモノト信認セリ然ルニ器具骨牌等ヲ取揚ケタルノミニシテ賣得金ヲ追徴セサルハ裁判其當ヲ得サルモノト見認タリ依テ及上告候也

辨明

上告事件ヲ審案スルニ應禁物ヲ販賣シ得ル所ノ金圓ハ已ニ費用スト惟モ當時ノ法律ニ在テハ資力限リ追徴スヘキモノニシテ原裁判所ニ於テ其處分ヲ爲サ、ルハ不當ノ裁判ナリト不然リト雖モ刑法第二條第二項ニ依リ之ヲ新法ニ照スニ刑法第四十四條ニ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時以外之ヲ沒收スルコトヲ得ストアリテ已

ニ費用セシ賣得金ハ追徴スヘキモノニ非サルニ因リ原裁判ハ破毀ノ限ニ在ラス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年九月二十日福島裁判所山形支廳ニ於テ本田助左衛門村山富藏ニ言渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニ在ラサルモツトス

第八十九號

○判文(竊盜私和ノ件) 明治十四年十一月九日上告
明治十五年二月十五日判決

茨城縣下總國豐田郡二本紀村平民

寺田 幸二郎

明治十四年九月
三十八年

明治十四年十月七日水戸裁判所管内下妻區裁判所ニ於テ右寺田幸二郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀岩田長藏カ飼置ク暹羅鶏ノ邸内ニ飛來ルヲ竊取スル賍金壹圓以下ノ科賊盜律盜田野穀麥條ニ照ラシ其穀麥ヲ盜ムト同シク竊盜ニ準シテ論シ懲役五十日ノ處事未ダ發覺セサル以前飯塚善兵衛ヲ頼ミ事主ノ處ニ首服スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免ス但賍費消スルニ付代價ヲ以テ取上ル將々首服セシ節長藏ノ乞ヒニ應シ善兵衛ヲ以テ相渡シタル金圓ハ追徴シ下渡ス

茨城縣十等警部山久知文次郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十月十五日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑モ本犯等カ罪ヲ斷スルハ受賍律枉法ニ準シ處斷スルモノナレハ岩田長藏飯塚善兵衛カ判決ハ其當ヲ得タリト雖モ寺田幸三郎ガ判決ノ如キハ竊盜罪ヲ免罪スルモ以財請求條ニ依リ坐賍ヲ以テ論スヘキモノナリ加之取與俱ニ罪アル枉法賍ヲ追徵シテ下渡シタルハ何等ノ法律ニ依テ然ルヤ或ハ長藏ヨリ乞ヒ受ケタル賍ナレハ與フル者ニ於テハ罪ナキモノト見認メ下ケ渡シタルカ果シテ然レハ枉法及ヒ說事過錢ノ刑名何ニ據テ付ケタルカ甲乙ハ枉法說事過錢ヲ以テ論シ丙ノニ單ニ竊盜罪ヲ免シタル迄ニ止メ其費用セシ賍金ヲ追徵シテ下渡シタルハ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス依テ該裁判ノ破毀ヲ求ムルタメ一件書類ヲ具シ上告候也

辨明

被告寺田幸三郎カ所爲ハ岩田長藏ノ蓄鷄ヲ殺シ竊ニ喫喰シ爾後事主ニ私和スルニ金拾圓送與シタル等罪盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ賍金一圓以下懲役五十日及ヒ以財請求條ニ準擬シ坐賍ヲ以テ論シ賍金五圓以上懲役二十日ニ該ル二罪ノ內鷄ヲ殺シ之ヲ喫喰シタルノ罪ハ事主ニ首服スルヲ以テ自首條ニ照シ其罪ヲ免スルモ私和送金ノ罪ハ懲役二十日ニ處斷ス可ク又其賍金拾圓ハ沒收スルヲ至當ナリト爲ス然ルニ原裁判爰ニ出テス單ニ自首條ニ依リ其罪ヲ免シ賍金十圓ヲ下付シタルハ不法ノ裁判ナリト雖モ之ヲ破毀シテ更ニ裁判ヲ爲スニハ刑法第三條第三項ニ依リ新舊法ヲ比照セサルヲ得ス然レハ新法ニ金圓ヲ送與シ竊盜ヲ私和スル者ヲ罰スルノ明文ナケレハ刑法第二條ニ依リ到底無罪ニ歸スル者ナルヲ以テ破毀ノ限ニアラスト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月七日水戸裁判所管内下妻區裁判所ニ於テ寺田幸三郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニアラストス

第九十號

○判文(誑賺ノ件) 明治十四年十一月十五日上告
明治十五年二月十五日判決

德島縣阿波國板野郡木津村平民

前田庄次郎妻

明治十四年九月
四十年十月生

明治十四年十月十三日高知裁判所德島支廳ニ於テ右「タケ」ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ

汝ニ對シ檢察官岡崎繁ヨリ公訴シタル竊盜事件ニ付審問ヲ遂ケタル處

被告ハ三原庄五郎妹「トメ」ナル者カ晝間ノニ同居致サセ吳レトノ賴ミニ依リ明治十四年四月ヨリ自宅ニ同居セシメ居リシニ明治十四年八月十六日夜「トメ」不在中盜賊忍ヒ入り自家所有ノ金錢反物ト并ニ會テ「トメ」ニ貸與ヘ置キタル戸柵引出シニ同人カ入レ置キシ衣類ノ內三點トナ併テ盜ミ去ラレタルニ付己ニ其旨御届及ヒ置キシニ明治十四年九月一日ニ買入レ内庭ニ積置キタル柴木ノ内ヨリ右盜難ニ罹リタル「トメ」所有ノ衣類三點ノニ明治十四年九月三日ニ發見セシヲ以テ直ニ之レヲ戸柵引出シニ差入レ然シテ親戚ナル岡村常吉方ニ至リ右發見ノ次第ヲ相囁シ至急御届及ハント該家ヲ去リ自宅ニ販リ見ルニ

不在中前顯「トメ」立飯リ被告カ柴ノ中ヨリ發見シ戸棚ノ引出シニ差入レ置キタル右衣類
 ナ「トメ」カ持去リシヲ近隣ノ者認メタリト聞知セリ右ノ次第ナルヲ以テ毫モ被告ニ不良
 ノ心意アルナキノミナラス又「トメ」并ニ宮川九平太等ニ對シ該衣類ハ四軒屋町ニ於テ賊
 品ヲ取扱フ者ヨリ買求メ來リシ杯言タル「トメ」更ニ無之旨開陳セリ
 証人宮川九平太忠津龜三郎ノ兩人ニ於テハ被告ト三原庄五郎トノ間ニ生シタル葛藤ヲ熟
 和セシメシト欲シ明治十四年九月四日被告ヲ江田寅七方ニ呼寄セシニ被告ハ昨日庄五郎
 方ニテ該衣類ハ賊品ヲ取扱フ者ヨリ取返シ來リタル旨申シタレモ其實ハ代金壹圓八拾錢
 ニテ買求メタル旨申出ルニ付甚不都合ナル旨ヲ以テ結問セシ處色々曖昧ナル答ヲ爲シタ
 リ尙ホ又明治十四年九月五日右江田虎七方ニ被告ヲ呼ヒ尋問セシニ被告ハ右衣類ノ儀ニ
 付是迄種々不都合ナルヲ申シタレモ實際ハ漬物桶ト柴木トノ間ヨリ之レヲ發見セシ旨
 申出ルヲ以テ斯ノ如ク度々申立ノ變スル上ハ被告ニ曖昧ノ所爲アル可シト推知シ仲裁ヲ
 斷リタリト陳述セリ

右証人ノ陳述ハ告訴人三原庄五郎并ニ三原「トメ」ノ陳述ニ符合スルヲ以テ被告ハ三原庄
 五郎三原「トメ」及ヒ証人宮川九平太忠津龜三郎ノ四名ニ對シ該三點ノ衣類ハ四軒屋町ニ
 於テ賊品ヲ取扱フ者ヨリ買取り來リシト陳述セシ「トメ」知ル可キナリ

被告ハ該三點ノ衣類ハ内庭柴木ノ内ヨリ發見セシ旨申供スレモ其柴木ハ明治十四年九月
 一日ニ買入レタルモノニシテ盜賊忍入リタリト言フハ明治十四年八月十六日ナリ然ラハ
 則チ其盜難ニ罹リシ節未ダ買入レナカリシ柴木ノ内ニ獨リ「トメ」カ所有ノ品ノミ隱シテ

ル可キ理由ナキヲ以テ被告カ之レヲ柴木ノ内ヨリ發見セシトノ答辨ハ事實ニ適セサル陳
 述ト爲サ、ル可カラズ「トメ」及ヒ証人宮川九平太等ノ陳述ヲ爲シ又ハ他ヨリ之レヲ買ヒ來リシト謂ヒ單ニ曖
 昧ナル申立ヲ爲スニ止リ現ニ該品ハ已レテ手裏ニ存在シ然シテ之レカ出所ヲ詳カニスル
 能ハサルヲ以テ被告ハ始メヨリ該三點ノ衣類ヲ詐取セン「トメ」謀リ盜賊ノ爲メ該衣類ヲ盜
 ミ取ラレタリト言フニ託シ窃カニ之レヲ取隱シ三原「トメ」ヲ欺キ以テ該三點ノ衣類ヲ詐
 賺セシモノト判定ス
 右ノ理由ニ基キ被告ニ對シ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ其誣賺シタル衣類
 ノ估計金五圓七拾錢ヲ贓ニ計ヘ懲役六十日ノ刑ヲ言渡ス者也

但シ贓品ハ追徴シテ事主ニ還給ス

德島縣九等警部岡崎繁ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月二十日司法卿ヲ經由
 シ明治十四年十一月十四日本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

前田「タケ」カ所爲ニ對シ竊盜ノ罪アリトシ高知裁判所德島支廳へ刑ノ適用ヲ要ムルニ裁
 判官ハ之ヲ賊盜律詐欺取財條ニ依リ衣類ヲ誣賺セシモノト判定シ懲役六十日ノ宣告ニ及
 ヒタリ夫レ被告「タケ」カ所爲タルヤ明治十四年八月十六日同居人三原「トメ」不在中盜賊
 忍ヒ入り自家所有ノ金錢反物暨ヒ會テ「トメ」ニ貸與セシ戸棚引出シニ同人カ入レ置キシ
 衣類ノ内三點ヲ併セ窃取セフ「トメ」旨官司ニ届出ル後三原「トメ」ハ被告カ使用スル處ニ
 戸棚引出シヨリ既ニ盜難ニ罹リシト云フ衣類悉皆發顯スルヲ以テ是レ必ス被告カ窃取シ

陽ニ他人ニ盜マレタリト詐言セシ旨ヲ以テ「トメ」カ兄三原庄五郎ヨリ被告ニ係リ告訴セ
リ而シテ三原「トメ」カ借り受ケ衣類ヲ藏スル處ノ戸棚引出シハ是レ「トメ」一己ノ使用物
ニシテ被告「タケ」カ更ニ關セサルモノナリ玆ニ由テ觀之被告ハ三原「トメ」カ衣類ヲ竊取
シ然ル後盜賊忍ヒ入り竊取セラレタリト詐稱セシモノニシテ其當初ヨリ「トメ」カ欺罔シ
財物ヲ詐取セルモノニ之レナク畢竟盜品ヲ事主ニ發顯セラレ其所爲ヲ遂ケ得サルヲ知覺
シ巧言以テ已レカ罪科ヲ免ガレントセシ事情タルヤ明ラカナリ夫レ如斯ノ事理ナルヲ以
テ被告カ罪ハ賊盜律竊盜條ニ依リ科斷スヘキハ言テ俟タズ然ルヲ裁判官ハ詐欺取財條ニ
依リ處分セシハ事實ニ適應セサル裁判ニシテ則チ不法ノ裁判ト見認メ候條該裁判ヲ破毀
セラレ更ニ當然ノ裁判ヲ要メシ爲メ別紙一件書類相副此段及上告候也

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告「タケ」カ所爲ハ三原庄五郎妹「トメ」所有ノ衣類二品ヲ竊取シ
其盜業ヲ湮滅セシメンカ爲メ詐爲ノ盜難届ケテ差出シタル者ナレハ賊盜律竊盜條ニ照シ
贓金壹圓以上懲役六十日ニ處斷ス可キモノトス然ルニ原裁判所ハ之レヲ誣賺ノ所爲ナリ
トシ詐欺取財條ニ依リ懲役六十日ト斷了シタルハ法律適用ヲ誤リタル裁判ナレトモ刑期
輕重ナキヲ以テ破毀ス可キ限ニアラスト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月十三日高知裁判所德島支廳ニ於テ前田庄次郎妻「タケ」
ヘ申渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニアラスト

第九十一号

○判文(雇人盜ノ件) 明治十四年十一月廿二日上告
明治十五年二月十五日判決

廣島縣安藝國加茂郡風早村平民

山重鶴松弟七千藏次女

山

重 ス ナ

明治十四年十一月
二十一年九月

右「スナ」カ所爲ニ對シ明治十四年十月三十一日松山裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シヲ爲シタ

其方儀雇主ニ宮佐一郎所有ノ着類盜取贓金拾錢同人雇人「ナヨ」外壹名ヲ欺キ衣類ヲ持逃
イタシ尙ホニ宮佐一郎雇人姓不知喜三郎外ニケ所ニテ着類品々盜取併贓金四圓七拾四錢
右科ノ内改正雇人盜家長財物條ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ杖六十申付ル
松山裁判所檢事補森田忠雄ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月五日附テ以
テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

山

重 ス ナ

右ノ者儀雇主ニ宮佐一郎ノ衣類及ヒ同雇人ノ衣類等竊取セルニヨリ爰ニ公訴及置候處去
ル十月三十一日別紙宣告書ノ通松山裁判所於テ刑名宣告セリ其竊盜ト九年第七十四號公
布改正雇人盜家長財物律ニヨリ二罪俱發以重論條ニ照シ處分セシハ卑職カ適用ヲ求メシ
ニ背反セスト雖モ抑婦女ノ犯罪ニシテ杖刑ヲ申付シハ實ニ失誤ノ甚シキ裁判ト云ハサル

ヲ不得如何トナレハ改定律例第三十九條ニ凡ソ婦女不孝云々徒罪以上ヲ犯ス者ハ各律ニ依テ斷決シ管杖ニ該ル者ハ日數ニ折シテ禁獄スル律ヲ改メ并ニ懲役ニ服ス云々トアリ然ルヲ裁判官於テ右條ニ照據セサルハ不當ノ甚キ裁判ト見込控訴上告手續第二十九條ニヨリニ件書類相具シ上告仕候也

辨明

例第三十九條(凡婦女云々管杖ニ該ル者ハ日數ニ折シ云々懲役ニ服ス)トアリ然レハ婦女ニシテ其科管杖ニ該ル者ハ懲役ニ服スハ勿論ナルニ原裁判所ハ山重スナカ料ノ内改正雇人盜家長財物條ニ據リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘタルハ相當ナレ其杖六十ニ實斷シタル者ハ不法ノ裁判ナリトス茲ニ本罪ヲ刑法ニ擬スルニ第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ而テ刑法第三條第二項ニ照シ明治十四年第八十一號布告第二條第一項舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フトアルニ據リ處斷スヘキモノトス

但明治十四年第八十一號布告第十條ニ據リ監視ヲ附加セス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十月三十一日松山裁判所於テ山重「スナ」ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

刑法第三百六十六條ニ據リ

山重スナ

重禁錮二月

第九十二號

○判文(結婚ヲナシ送籍ヲ爲サ、ル件)明治十四年十一月廿九日上告
明治十五年二月十五日判決
福岡縣豊前國企救郡長濱浦平民

天野富次郎

明治十四年十月
五十二年正月生

藤田宇之吉

明治十四年十月
四十五年十一月生

明治十四年十月廿七日長崎裁判所福岡支廳管内小倉區裁判所ニ於テ右富次郎外二名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方共儀明治十三年八月申富次郎ハ宇之吉妹「ヨシ」ヲ二男定吉ノ妻ニ貫ヒ宇之吉ハ妹「ヨシ」ヲ富次郎ニ男定吉ノ妻ニ差遣シ結婚ヲナシ各自送籍ノ届ヲサスト雖モ戶籍法ニ違犯ノ限リニ非サルヲ以テ無構

福岡縣十等警部城戸鏡之助ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月五日司法卿ヲ經由シ明治十四年十一月廿八日本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ

天野富次郎藤田宇之吉ノ犯罪タルヤ明治十三年八月申富次郎ハ宇之吉妹「ヨシ」ヲ二男定吉ノ妻ニ貫ヒ宇之吉ハ妹「ヨシ」ヲ富次郎ニ男定吉ノ妻ニ差遣シ結婚ヲナシタルモノニシテ爾後今日ニ至ル迄双方送入籍ノ手續ヲ怠リタルモノナルヲ以テ右ハ明治四年八月二十

三日太政官布告華族ヨリ平民ニ至ルマテ婚姻差許云々其時々戸長へ可届出事トアルニ據
リ改定律例第二百八十八條ニ據リ處斷スヘキモノト見込小倉區裁判所へ公訴セシニ該裁
判所ニ於テハ送入籍ノ届チナサト雖モ戶籍法違犯ノ限リニ非サルヲ以テ無構ト裁判シ
タリ之レ本職不當ト見認メ上告破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

上告事件ヲ審案スルニ妻ヲ娶リ女ヲ嫁シテ其入籍送籍ノ届チ爲サ、ル者ハ明治四年八月
二十三日ノ布告ニ違背スルニ依リ違令違式律ニ問擬スヘキモノニ原裁判所カ無構ト宣
告シタルハ不當ノ裁判ナリト然リト雖モ刑法第三條第二項ニ依リ之ヲ新法ニ照スニ刑
法第二條ニ法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコト得ストアリテ入送籍ヲ
爲サ、ル者ヲ罰スルノ法律ナキニ因リ罪ノ問フヘキナシ故ニ原裁判ハ破毀ノ限ニ非ラス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年十月二十七日長崎裁判所福岡支廳管内小倉區裁判所ニ於テ
天野富次郎藤田宇之吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニ在ラス

第九十三號

○判文(無届遲參ノ件) 明治十四年十一月廿九日上告
明治十五年二月十五日判決

岡山縣備中國上房郡松山村平民

川上 忠 右衛門

明治十四年十一月
三十二年

明治十四年十一月十一日神戸裁判所岡山支廳管内高梁區裁判所ニ於テ右川上忠右衛門ニ對
シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀詐告ノ事件警察官ノ公訴ニ依リ審判ヲ遂ル處川上郡福地村中川岑三外一名ヨリ當
區裁判所へ貸金催促ノ訴ヲ受ケ被告ト相成其義務ヲ負擔スルコトヲ自認シ延期ヲ申立ルモ
其期日不參スルニ付數度召喚狀差遣スト雖モ出頭セサルヲ以テ明治十四年十一月一日同
四日引致ノ者差遣ス處尙其義務ヲ等閑シカ爲メ出張ノ巡者福地鏈次郎へ對シ居宅及ヒ姓
名ヲ詐リ引渡ヲ遁レントセシ段ハ同人ノ復命書自己ノ自狀ニテ確明ナリ右科明治十年第
五號公布凡ソ裁判所ノ呼出シテ受ケ云々無届ニテ遲參不參スル者ハ五錢以上拾圓以下ノ
罰金ヲ科スヘントアルニ因リ罰金五圓申付ル

岡山縣六等警部丹羽次郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十一月十二日付テ以テ司法
卿ヲ經由シ本院詰擧事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

忠右衛門儀明治十四年十一月一日現ニ拘引ノ爲メ派出セシ巡查福地鏈次郎ニ對シ川上忠
右衛門宅ハ此隣家ナリト詐テ指示シ巡查ヲシテ己レノ宅ヲ立去ラシメ其虛ニ乘シ身ヲ遁
匿シテ遂ニ拘引ノ難ヲ免カレ同四日再ヒ拘引ノ爲メ福地鏈治郎同家へ到レハ身ハ近隣ヨ
リ雇ハレタル十藏ナリト尙ホ詐テ拘引ヲ免カレント謀ル者ニ付上告不實ノ見込ヲ以テ明
治十四年十一月七日神戸裁判所岡山支廳管内高梁區裁判所へ公訴ヲ爲シタルニ同區裁判
所ニ於テ明治十年第五號公布ニ照シ罰金五圓ノ判決ヲ下セリ右詐告規避ヲ以テ論ゼス單
ニ不參ヲ以テセシハ裁判不法ト謂ハサルヲ得ス依テ一件書類取束此段上告仕候也

辨明

被告人ノ所爲ニ對シ原裁判所カ唯不參ノ件ニ處シ其詐告規避ヲ以テ論セザルハ不法ナリトノ上告ナレハ被告人ノ本旨ハ偏ニ裁判所ノ召喚ヲ免ルヲ謀ルカ爲メニ出タル規避ニ止ルモトス其巡查ニ對シ假令規避ノ所爲アリシニセヨ是等例第二百四十七條ヲ以テ統律スルモノニ非ス即原裁判所カ不參ノ罪ニ就テ論シ明治十年第五號布告ニ照シ罰金五圓申付ケタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十一月十一日神戸裁判所岡山支廳管内高梁區裁判所ニ於テ川上忠右衛門ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第九十四號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年十二月八日上告
明治十五年二月十五日判決

埼玉縣武藏國北葛飾郡八甫村平氏

卷 島 鶴 之 助

明治十四年十月
三十二年二月

明治十四年十一月十六日熊谷裁判所浦和支廳ニ於テ右卷島鶴之助ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年七月十三日祖父權太郎所有ノ地券ヲ持出シ私擅ニ右權太郎ヲ賣主ト認メ保証人鈴木七藏ト認メ之レニ有谷セノ印影ヲ押捺シ西大輪村平民池田清五郎ヲ欺キ立

會人ト爲シ右証書ヲ以テ祖父權太郎所有ノ地所壹反貳畝貳步ヲ西大輪村平民角田七藏ヘ賣渡ノ契約ヲ爲シ右地所賣渡代ノ内金トシテ四拾壹圓ヲ受取ル右科ノ内文書ヲ詐爲スル罪ハ改定律例第二百四十六條ニ因リ不應爲ノ重キニ問ヒ懲役七十日右証書ヲ以テ受取タル金四拾壹圓ハ詐僞ノ手段ニ出ルヲ以テ賊盜律詐僞(原)取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役一百日因テ名例律二罪具(原)發以重論條ニ照シ一ノ重キ懲役一百日自首シテ贓徵ス可カラサルヲ以テ名例律犯罪自首條末項ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役八十日申付ル熊谷裁判所浦和支廳詰檢事補中谷倉太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十二月二十四日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送到シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ
右之者埼玉縣武藏國北葛飾郡東大輪村平民染谷九三外貳名ヨリ文書ヲ詐爲シテ金拾圓ヲ借受ケ尙又右同郡西大輪村平民角田七藏ヨリ田地壹反貳畝貳步ヲ抵當トシテ金九拾圓ヲ詐取シタル趣ヲ以テ自ラ其罪ヲ自白セリ仍テ元檢察掛八等警部提長應ハ明治十四年七月二十七日熊谷裁判所浦和支廳ニ向ツテ公訴ニ及ビタル處浦和支廳ニ於テ鶴之助ニ對シ裁判宣告ヲ爲シタルニ依レハ本犯鶴之助カ角田七藏等ヲ欺キ金圓ヲ詐取シタル罪ノミナリ處罰シ九三外貳名ニ對シ差入シタル文書詐爲ノ罪ハ不問ニ付シタリ而シテ該証書ハ之ヲ各事主ニ還付セントシタリキ此レ何ノ法律ニ依ルヤ得テ解スヘカラス抑各事主ノ陳述ニヨレハ該貸金ハ元來鶴之助ヲ目的トシタル者ニシテ其詐爲ニ係ル請人卷島吉兵衛長谷川惣八証人卷島太郎兵衛等ニ關係セサルナリト主張スルモ此レ唯已レカ損害ノ訴權ヲ棄損シタルノミニ是ヲ以テ其犯罪ヲ消除シ不問ニ付スル理ノアルヘカラス故ニ染谷九三外二名ニ

對指入レタル詐爲文書ノ罪ハ改定律例第二百四十六條ニ照シ不應爲問ヒ其証書ノ詐爲ニ係ル部分ハ裁判官ニ於テ之ヲ抹殺シ以テ各事主ニ下付セサルヘカラサルモノトス此レ本職カ該裁判ヲ認メテ不當ト爲シ上告スル所以ナリ

辨明

被告人鶴之助ノ所爲ハ詐欺取財ト詐爲私文書ノ二罪ニシテ一ノ重キ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金四拾圓以上懲役一百日自首シテ贓徵ス可ラサルヲ以テ名例律犯罪自首條末項ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役八十日ニ處シタルハ相當ナリトス而シテ祖父權太郎所有ノ地券ヲ以テ私擅ニ權太郎ヲ賣主鈴木七藏ヲ保証人ト書シ有合ノ印ヲ押捺シ角田七藏ハ賣渡シノ証書ヲ詐爲シタルト染谷九三杉山周三郎大宮清藏等ハ差入タル金圓借用証書三通ハ鶴之助借主ニテ卷島吉兵衛長谷川惣八卷父卷島太郎兵衛等ヲ請人又ハ証人ト書シ各有合ノ印ヲ押捺シタルトハ俱ニ私文書ヲ詐爲セシモノタルハ改定律例第二百四十六條ニ照シ不應爲問フヘキモノナルニ角田七藏ハ差入タル証書ノミチ不應爲重ニ問ヒ染谷九三外二名ハ差入タル各証書ハ不問ニ附シタルハ不相當ノ裁判ナリトス然レモ二罪俱發一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ因リ處斷ヲ受ケ詐爲私文書ノ罪ハ自首スルヲ以テ免罪ニ屬ス可キモノナレハ原裁判ハ破毀ス可キ限ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十六日熊谷裁判所浦和支廳ニ於テ卷島鶴之助ニ言渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス

第九十五號

○判文〔賭博ノ件〕明治十四年十二月九日上告
明治十五年二月十五日判決

靜岡縣遠江國城東郡川上村二拾

九番地

森

下 忠 平

明治十四年十一月
四十七年五月

明治十四年十一月二十二日靜岡裁判所管内掛川區裁判所ニ於テ右忠平ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十二年八月申中榛原郡管ケ谷村高塚富藏方ニ於テ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲シタル覺ヘ無之旨拒辨スレ共犯人山本伊之七外數名ノ者共於テ其方モ俱々手合致シタル趣申立アリテ相良分署詰二等巡查石塚善勝等ノ原由書ト適合スルノミナラズ現場捕獲ノ際往還ノ方ヨリ足音ノ聞ヘタルニ依リ立去リタリトノ申立ニ於テハ信ヲ措キ難ク共犯人共申立ノ如ク逃走セシモノニ外ナラス其景况狀ニ依テモ賭博ヲ爲シタルモノト認定スルニ足ルヲ以テ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日責付中逃走スルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日可申付處逃走罪ハ自首スルニ依リ加等ノ罪ヲ宥メ懲役八十日仍ホ情ヲ量リ三等ヲ減シ懲役五十日申付ル

森下忠平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月三十日本院ニ差出シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年八月十日夜私用在テ近隣へ罷出凡十一時トモ思頃私宅へ立歸リ候得ハ門先ニ四名居森下忠平ハ其方カト無二無三ニ繩ヲ掛ケントス私苔ニハ忠平ハ私ナリ何故ニ繩ヲ掛ントスル哉掛川警察署相良分署ノ御用ナルニ依リ繩ニ掛ルヘシト被申渡候ニ付速ニ繩ニ掛リ相良分署へ御引立ニ相成該夜御申渡ニハ去ル明治十二年八月廿四日中菅ケ谷村高塚富藏方ニテ賭博金錢ヲ掛手合致居際巡査發行ノ節現場ヲ逃走ニ依リ取調中拘留申付ルト被仰渡直様拘留ニ相成同ク十一日御尋問ニハ去ル明治十二年八月廿七日夜菅ケ谷村高塚富藏方ニテ右富藏山本伊之七水野忠三郎氏不知嘉平ナル者ト賭博ノ手合致シ候義有様ニ申上クヘシト被申渡候ニ付私ノ苔ニハ該日午後一時頃右山本伊之七ナル者私宅參依頼ニハ川上村横山儀三郎實母「チノ」成モノト姦通致シ露顯ニ及ヒ不服ヲ唱ヒ何分申譯ケ無之ニ付二三日前ヨリ高塚富藏方ニ世話ニ相成居ル處今日ハ殊ノ外近隣ノ者打寄テ我ヲ相尋候間居處ヲ相知ラセ吳候様依頼ニ付任其意同人ノ宅へ參リ候得ハ隣ナル宮脇丑松外五六名親類ニテハ山本勘七始ノ三四名集會致シ居私來リテ伊之七ノ依頼ヲ陳述シテ數名ト俱ニ横山儀三郎へ示談ヲ遂ケ事濟ニ相成ルト雖ヒ親類ハ別段ノ談示有之故是ヲ差シテ夜深ニテ立歸リ凡時間ハ午後二時過キ三時近キト思シ頃右山本伊之七方ヲ立寄留宅へ立歸ル道際ニ高塚富藏宅ナリ該家ノ前へ參リ候得ハ口聲致スニ付山本伊之七ヲ呼ヒ候得ハ同人障子ヲ明ケ面談致シ事濟ニ相成候始未ヲ物語立歸ル最モ其時往還ノ方ニテ足音致シ候ト相答候得ハ其趣ナル口書へ摺印致スヘシ旨申渡サレ依之摺印致シ候得ハ同ク掛川警察署へ御送リニ相成直様拘留被申付同ク十五日御尋問ノ故掛川宿山出喜三方へ宿預ケ被申付

同ク十九日掛川區裁判所糾問掛ヨリ御召換ニ相成出頭仕候得ハ御係矢野方丹殿御告諭ニ相良分署ニテ御尋問ノ通りナル御調ナリ自分儀ハ前同様ノ答該日ハ御用濟ニ相成同ク廿三日御召喚ニ相成御尋問ニハ富藏伊之七ノ兩人ヲ呼出尋問スルニ其方ト俱ニ賭博ノ手合致シ候ニ相違無之旨被申渡候ニ付然ル上ハ右兩人者ニ對談願候得ハ決シテ對談ハ不相成旨被申渡猶私申上候義ハ今回ニ不限固ヨリ賭博ニ關係之レナシ該証據ニハ明治十二年八月七日夜現場逃走致セシモノナレハ相良分署ニ於テモ御手當ハ當然ナリ是迄只一應ノ御召喚モナク該日不限其後ニ至リテモ私ノ名義ヲ以テ數通ノ書面差出アリ亦掛川警察署へハ去ル明治十二年六月申榛原郡切山村平民村松治平ヲ相手取証書持込ノ告訴致該前後ニ出頭致猶十二年五月中新野村平民樽林德次郎へ相係リ貸金催促ノ義出訴致財產押隠有之ニ付御裁判執行ヲ中止シ石原庄平増田万四郎ヲ相手取樽林德次郎ノ財產押隠シノ義告訴及ヒ數度御尋問ノ上本年四月七日ヨリ當御役所ニテ御札問中ナリ現行犯ヲ犯セシモノ該御係御役署へ出頭出來ヘシ謂ナシ亦該御係御役署ニ於テ犯罪人ヲ猶豫スヘキ道理ナシ是ヲ以テ現場逃走セヌ証據ナリト答辨ス依之該日ハ御用濟ニ相成タリ

爰ニ亦事件替リテ石原庄平増田万四郎へ相係告訴ノ義就テハ判事補濱中義郎殿御札問中樽林德次郎ノ財產ヲ増田万四郎長ノ偽名ヲ以テ樽林治平（同人義ハ德治郎ノ父ナリ）謀印ニテ横賣セシテ瞭々タルニ此罪ヲ不問本年八月卅日ニ無罪ノ宣告ニ相成タリ該日ヨリ私考スルニ相手方ノ大罪ハ無罪トナリタルハ不審ト思量ス折柄ニ亦賭博ノ御尋問ニハ高塚富藏山本伊之七ヲ呼出シ候處賭博ノ手合セシモノト口供差出タル故ハ証據ト相成ヘシ

候間速ニ申上ヘシト申渡サレ候ト雖モ私義ハ該日ニ不限賭博ニハ關係セズ前文申上候通
 ナ陳述ス是ニ因テ該日御用濟ニ相成タリ然リ而シテ能々思量スルニ實以テ壓制ト思詰本
 年九月四日夜誤テ同家ヲ逃走シ直様東京上等裁判所ヘ石原庄平増田万四郎ヲ相手取樽林
 徳次郎財産押隠ノ義奉出訴候處御採用ニ相成タリ亦能々熟考スルニ御責付中逃走セシ義
 ハ心得違ヒト相心得東京裁判所檢事局ヘ本年十月十一日自首仕同十月十二日東京上等裁
 判所ヘ出願致候得ハ東京警視第二局ヨリ御引立ニ相成候間直様相渡ス左様ニ心得ヘク猶
 告訴事件ハ却下致ヘク旨被仰渡告訴狀御下ゲニ相成第二局ニテ拘留被仰付同十月十四
 日掛川警察署ヘ着仕直様拘留被仰付同二十二日掛川區裁判所糺問掛ヘ御召喚ニ相成御係
 川口泰岳殿御告諭ニ警來ヨリノ營業ニハ今ニ至ルマテ御糺問アリテ後明治十二年八月七
 日夜菅ケ谷村高塚富藏方ニテ賭博ノ一條逸々申上ヘシト申渡サレ依之前條ノ如クニ上伸
 ス右口供ヘ摺印致ヘク旨被申渡則チ摺印仕候得ハ猶御係川口泰岳殿御讀聞ニハ去ル明治
 十二年八月七日夜菅ケ谷村高塚富藏川上村山本伊之七上朝比奈村水野忠三郎森下忠平氏
 不知嘉重右五名ニテ金二錢ノ金錢ヲ掛ケ賭博ノ手合致候趣口供ニアリト被申渡私御親候
 ニハ年號月日何年何月ニ御座候哉ト御親御係御答ニ明治十二年八月十二日ナリト被申聞
 猶私御親候ニハ何レノ御役所ニ有之哉ト御親候得ハ當役所ニ有之ト被申渡タリ然ル處高
 塚富藏(本年ニテ)山本伊之七(本年ニテ)水野忠三郎(無妻ニシテ一戸ノ家モ不持所有地ハ
 他人ニ任置日雇ヲ稼キ所々ヲ出歩
 行善惡ニ不拘依頼ニハ)右三名ノ者共ノ手續書ニ自分ト俱ニ手合致セシト皆一同ニ申立
 應シ安キ者ト私量ス)

辰藏トカ申者右五名ナルコ御召捕ニ相成シ後ハ人々能ク知ル處ナリ去ル二十二日御公判
 アリシニ相良分署詰メ三等巡查石塚善勝殿ノ原由書ノ如クナレハ直様御召捕ニ相成ヘク
 等勘シモ猶豫スヘキ道理ナシ亦去ル十月二十二日御係川口殿御讀聞アリシ口供ハ明治十
 二年八月十二日當御役所ニアリト被申聞候得共該時ニハ掛川區裁判所御開廳ニ不相成右
 三名ノ者共ハ靜岡裁判所ニテ御處分濟ニ相成候ニ相違無之前顯ノ如ク私ニ於テハ賭博手
 合勘モ不致石塚善勝殿山本伊之七外二名口供ノ如クニテ自分罪ヲ犯シ候ト御見込有之上
 ハ御召喚亦ハ御召捕ニ相成右三名ノ者共ト相談致シ候上ハ事實ニ基キ候儀ハ瞭々タリ亦
 今日ニテモ右三名ノ者共ト對談ニ及ヒ候上ハ明瞭致ト相心得再三對談ヲ相願フト雖モ御
 採用ニ不相成是ニ因テ假令幾日ヲ過ルトモ私罪御放免ノ上無實ヲ言渡シ者共ヘ壹人々ニ
 相係事實ニ基ツキ告發致スヨリ外ナシト思量ス然ルニ明治十二年八月七日ヨリ本年八月
 十日迄一應ノ御尋モナク御捨置至急御召捕ニ相成リ前條ノ如ク御公判有之ト雖モ前記載
 ノ如ク賭博ノ手合不致候上ハ御公判ニ難服候間何卒格別ノ御仁惠ヲ以テ至當公平ノ御裁
 判被成下置度此段奉願上候

辨明

森下忠平ニ於テハ明治十二年八月七日夜高塚富藏宅ニテ山本伊之七ニ面談シタルコアル
 モ賭博セシコ之レナク又明治十二年中以後明治十四年八月マテ展告訴事件ニ付自ラ掛川
 警察署ヘ出頭シタルヲ以テ之ヲ見ルモ逃走セサルノ証ナリトノ旨申立レモ當時現場ニ臨
 ミタル巡查石塚善勝外二名ノ原由書及ヒ共犯人山本伊之七外二名ノ調書等ニ由テ参照ス

レハ原裁判所カ忠平ハ現行賭博犯ニシテ一時其場ヲ遁逃シタル者ト認定シ雜犯例賭博條ニ依リ懲役八十日責付中逃走スルモ自首スルニ因リ加等ノ罪ヲ宥メ仍ホ情ヲ量リ三等ヲ減シ懲役五十日ニ處斷セシハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月二十二日靜岡裁判所管内掛川區裁判所ニ於テ森下忠平ニ言渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキニ因リ上告棄却下スルモノ也

第九十六號

○判文(無届遅參ノ件) 明治十四年十二月十二日上告
明治十五年二月十五日判決

岡山縣備前國岡山區古京町廿九番地士族當時大阪府北區堂島濱通一丁目廿六番地寄留代人

尾形兵太郎

明治十四年十一月二十八日

明治十四年十一月廿五日大阪裁判所ニ於テ右兵太郎ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ
其方儀明治十四年十一月廿四日民事訴訟上被告代人トナリ例刻當廳へ出頭シ訟所ニ至ルモ詞訟人群集シ着到テ届ル不能ハス一旦扣席ニ退キ再ビ入ノ散スルヲ待テ名刺ヲ差出シタルハ午前十時ナリ遅參セシメ無之旨陳述スト雖モ更ニ其証憑ヲキミナラズ訟訟人訟所へ着到テ届ケ名刺ヲ差出シタル時間ヲ以テ出頭ノ時間ナリトス然ルニ訟所ニテ

出頭時間ヲ朱記シ其方カ調印セシ名刺ニ仍ルルハ其方カ出頭セシハ午前十時四十五分ニシテ遅參セシメ明白ナルニ付明治十年第五號公布ニ依リ罰金貳拾錢申付ル

尾形兵太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二日本院ニ差出シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

大阪裁判所宣告書中ニ(其方義明治十四年十一月廿四日民事訴訟上被告代人トナリ)云々トアレレ自分カ當日民事課エ出頭セシ詞訟ノ件ハ岡山縣美作國眞島郡神代村平民武村茂七郎ヨリ大阪府西成郡難波村平民橋本清三郎エ係ル貸金催促ノ一件ニ付キ原告武村茂七郎ノ代言タリシナリ左スレハ原告代言人ノ資格ヲ以テ出頭セシトアルモ決シテ被告代言人タリシトナシ然ルニ大阪裁判所カ被告代言人トナリ云々ト宣告サレシハ審理忽卒ナル失誤ノ裁判ト思量仕候

第二條

大阪裁判所宣告書中ニ(然ルニ訟所ニテ出頭時間ヲ朱記シ其方カ調印セシ名刺ニ仍ルルハ其方カ出頭セシハ午前十時四十五分ニシテ違參セシメ明白ナルニ付)云々トアレレ別冊証據寫即チ自分カ大阪裁判所ニ呈出シタル上伸書但書ノ如ク該名刺ノ朱記ハ決シテ自分カ覺知セサルモノニシテ獨リ受付掛ノ吏員カ躬自ノ時間ヲ記入シ以テ該官濱田判事補へ提出シタルモノナレハ自分カ遅參ノ事蹟ヲ証明スルノ要具トナスヲ得サルモノナリ然ルニ大阪裁判所ニ單ニ該名刺ニ朱記シアル時間即チ十時四十五分トアルニ依リ自分ヲ

遅参セシモノト速了サレシハ不當ノ裁判ト思量仕候

第三條

大阪裁判所訟所ノ慣行ハ實ニ別冊上伸書中ニ縷述ノ如キ實況ニシテ假令十時已内ニ出頭スルモ着到名刺ヲ受附掛出シ之ニ認印ヲ受ク迄ニハ數百ノ詞訟人中ニ就キ最後ノ者ニ至リテハ實ニ多少ノ時間ヲ費ヤシ即チ十時十分乃至二十分ニ至ルハ該手數中事止ムナキノ時間ニシテ決シテ着到ノ怠慢ニアラサルナリ然ルニ大阪裁判所ハ恬トシテ斯ノ事實ヲ審査セス殊ニ依ルチ得ヘカラサル名刺ノ朱記ニノミ偏倚シ自分ヲシテ遅参セシモノト速了サレシハ事實ニ背反シタル不當ノ裁判ト思量仕候

第四條

前條々陳述ノ理由ニ候間偏ニ大阪裁判所ノ裁判ヲ破毀アラントテ奉仰願候

辨明

上告事件ハ午前何時ノ徵喚コシテ何時迄ニ出頭ヲ届出サレハ遅参トナルヤヲ識別スルヲ要ス然ルニ原裁判所ノ宣告及ヒ尾形兵太郎カ上伸書ニ徵喚ノ時限記載ナケレハ明治十四年十一月二十四日兵太郎カ提出セシ名刺ニ十時四十五分ト朱記アルノミヲ以テ遅参明白ト云フ可ラス且兵太郎カ該名刺ニ第二千三十四號原告代言人トアリテ原裁判所ノ宣告ニハ被告代言人トアリテ吻合セス到底大阪裁判所ノ裁判ハ未ダ審理ヲ尽サ、ルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月二十五日大阪裁判所ニ於テ尾形兵太郎ニ言渡シタル

裁判ヲ破毀シ擧輕罪裁判所ニ於テ審判スヘキ旨達シタルニ因リ尾形兵太郎ニ於テハ擧輕罪裁判所ノ審判ヲ受ク可シ

第九十七号

○判文〔詐欺未得財ノ件〕明治十四年十月十四日上告
明治十五年二月十六日判決

鹿兒島縣日向國那珂郡伊比井村

當時鹿兒島西千石馬場町九十番

戸寄留平民

木

村 玄 劑

明治十四年九月
二十七年六月

明治十四年九月二十二日鹿兒島裁判所ニ於テ右玄劑ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタル
其方儀義ニ口永良部島人民ヨリ買受ケタル斃シ松木八千五百本伐出資本金無之迎二木彦助ノ所有地ヲ讓リ受該地所ヲ以テ金融セント謀リ右彦助ヨリ田畑貳町四反三畝三步ヲ代金千圓ニテ買受右代金ハ兒玉剛藏ヨリ彦助ヘ宛金千圓ノ預リ証書ヲ交付セシメ其代リトシテ其方ヨリ剛造ヘ差入タル金千圓ノ借用証書ヘ無實ノ檜木三百挺及ヒ所有權ノ全移セサル牧馬六百疋ヲ抵當ト爲シタル所爲ハ兒玉剛造二木彦助ヲ欺キ金千圓ノ預リ証書ヲ交付セシメ而シテ該田畑貳町四反三畝三步ヲ詐取シタル者ト斷定ス依テ該地所ヲ估計セシムルニ金三百五拾三圓九錢余ナルヲ以テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年申付ヘキ處情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役五年申付ル

但シ兒王剛造へ抵當ト爲シタル松木八千五百本ヲ谷川市郎左衛門へ重テテ抵當ト爲シ
金百三拾五圓借受ルモ剛造ニ於テ代義務者トナリ該金ニ對スル預リ証書ヲ交付セシテ
以テ其罪ヲ論セス且ツ被害者安藤八郎左衛門へ賠償ノ爲資力限リ追徴ス
木村玄卿ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十九日附テ以テ大審院ニ上告
爲シタル要旨左ノ如シ

第一條

夫今般宣告ヲ受タル事件ノ要領ハ過ル明治十三年六月中當縣士族二木彦助ナルモノ、田
畑二町四反三畝三步ヲ賣買ノ定約ヲ取結ヒ右代金自分手元ニ無之處ヨリ當縣士族兒玉剛
造へ相談シ檀木三百挺牧馬六百疋ノ賣買鑑札斃松木八千五百本ノ抵當トシ金千圓ノ預リ
証ヲ乞受ケ右二木彦助へ相渡シ右地處買取タリ然リ曩ニ兒玉剛造へ抵當ニ差入置タル品
斃松木ヲ除クノ外二品履行スル能ハサルニ至リタリ而モ斃松木ハ自分所有中ノ品物ナリ
遂ニ兒玉へ對シ其約ヲ果スヲ得サルニ至リ殆ト悔悟ニ居ル處へ右兒玉剛造モ頻リニ詐僞
ノ段相語リ豫テ拙子へ抵當ト致シ置タル口永良部島ニ買入在ル右斃松木八千五百本ヲ金
三千圓ニテ拙子へ賣却シ吳ル様トノ請求ニ依リ速カニ其請求ニ應ジ然ニ始メテ松木賣買
契約ヲ定メタリ

第二條

抑兒王剛造ト契約ヲ爲シタル旨趣ハ概ニ疎漏ノ契約ニシテ稍詐僞ノ形ヲ現ハスカ如キト
雖モ全ク始メヨリ盜心有ルニ非ス則陳忽ノ失策ニシテ其目的タル一朝口永良部島斃松木本

取出シ方着手ノ節ハ假令萬圓ノ融通モ出來ス况ヤ千圓ノ負債ニ於テチヤ是二木彦助ノ地
所估計金三百余圓ノ價額千圓ニ買受ケタル所以也果シテ然ルハ契約疎漏ノ處ヨリ一旦
ハ詐僞ノ形ヲ現ハストモ前陳ノ如ク已ニ兒玉モ前ノ千圓ハ松木買入ノ内金ト定メ其節青
森縣士族當時當縣鹿兒島郡加治屋町寄留山屋源吾カ仲裁人加之殘リ貳千圓ノ金ハ二木彦
助名宛ニテ千六百圓ノ預リ証書玄卿名宛ノ預リ証及ヒ谷川一郎左衛門へ義務者タルヲ以
テ明瞭セリ然ルチ兒玉剛造ニ於テ一時金策ノ出來セサル處ヨリ一旦消失シタル前約ヲ再
ヒ口實トシ以テ已カ負債ヲ免レントスルノ精神果シテ其責ヲ免レントスルノ精神無
ンハ曩ニ檀木并牧馬賣買鑑札違約ノ時松木賣買ノ定約ニ重ネテ二千圓ノ預リ証ヲ出スノ
理由ナカラントス天道人理ノ直示スル處也

第三條

今一步ヲ轉シ進テ兒玉カ精神ヲ察スルニ曩ニ檀木牧馬違ノ時ニ當テヤ果シ今日ノ意有テ
ハ千圓ノ預リ証書取戻スハ固ヨリ違約ノ廉チモ合セテ其筋ハ訴ル可キニ時日久シキ其事
無ク之ヲ以テ之ヲ觀レハ右兒玉ニ於テモ曩ニ預リ証ニ出スノ時ハ十分該口永良部島松木
ヲ使テ十分ニ高利ヲ得ルノ目的ナレ已ニ預リ金請求嚴ナルヲ以テ頓クニ其求メニ應ジ
難ク實際已ムヲ得サルニ付寧ロ高利ヲ投棄シ目今ノ急場ヲ遁ル、ニ如スト覺悟シ再ヒ前
約ヲ口實トシ告訴シタルモノナラン

第四條

凡ソ法律ノ淵源ヲ察スルニ苟モ犯罪シタルモノハ各其惡意ノ事物ニ抵觸スル處ノ處爲チ

律文ニ照シ而テ其情ノ輕減ス可キト加重スヘキトハ各法官ノ腦髓ニ在ルモノナリ然リ而
テ竊ニ我邦法律書端ニ其成文ヲ見ルニ凡ソ罪ヲ犯シ未タ官之ヲ聞知セズ若クハ聞知スト
雖モ未タ其罪名ヲ知ラサルキハ犯人其職ヲ以テ自首スルキハ自首上効力ヲ有スル分ハ其
罪ヲ免ストアリ是其情ヲ酌量シタルノ法律ニシテ決シテ其職ヲ以テスルト以テセサルト
ノ而已ニ非ス必ス悔悟シタルトノ推測ヲ包含スルニ過ス是レ我邦ノ法律ハ人ノ權利ヲ妨
害スルト其惡意トチ合セテ罰スルノ原則ク然ラハ我輩事件ノ如キ已ニ斃松木賣買契約
上双方間詐偽錯誤無之上ハ其松木ノ賣買上便利不便利ハ是亦賣主買主ノ意見ナリ
前陳ノ如クナルチ己ニ鹿兒島裁判所ニ於テ懲役五年申付シハ是レ不盡不法ノ裁判ナリ依
テ奉上告候條何卒相當ノ御裁判奉仰候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ閱スルニ木村玄劑カ兒玉剛造ヨリ借受ケタル金千圓ノ借用
証書ニ抵當ノ不足ナルヨリ無實ノ楡木三百挺所有權ノ全移セサル牧馬六百疋ヲ書加ヘタ
ルハ剛造チ欺キタル所爲アリト雖トモ二木彦助ノ田畑二町四反三畝歩チ買受ケタルハ彦
助剛造モ承諾ノ上公正ノ手續ヲ經テ賣買チ爲シ了リタルモノナレハ詐取シタルモノトハ
認メカダシトス然ルチ原裁判所ニ於テ該田畑二町四反三畝歩チ詐取シタル者ト斷定シタ
ルハ何ニ依テ斷定シタルモノナルヤ茲ニ見ルヘキノ證ナシトス凡罪チ斷スル證ニ依ルヘ
キモノナルニ其儀ナクシテ斷決シタルハ改定律例改正第二百十八條ニ定メタル規則ニ乖
キタル裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルチ以テ明治十四年九月二十二日鹿兒島裁判所ニ於テ木村玄劑ニ言渡シタル裁
判ヲ破毀シ宮崎輕罪裁判所ニ於テ更ニ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付玄劑ニ於テハ宮崎輕罪
裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ

第九十八號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十四年十月十四日上告
明治十五年二月十六日判決

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡下荒田
町百十三番戶士族

二

木彦助

明治十四年九月
二十七年六月

明治十四年九月二十二日鹿兒島裁判所ニ於テ右彦助ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀兒玉剛造ニ對シ木村玄劑カ所有ノ口永長部島ノ松木チ伐リ出ス資本金無之ニ付千
六百圓ノ預リ金証書チ差出シ貰ヒ度然ル時ハ該証書チ以テ他ニテ金策スヘシ玄劑ニ於テ
モ承諾ナル旨詐言シ同人ヨリ金八百圓ノ預リ金証書貳通チ受取而シテ剛造ヘ係リ民事詞
訟ニ及ヒ該預リ金証書ノ効力チ遂シメントセシ所爲ハ詐欺シテ財ヲ得ントシタル者ト斷
定ス依テ右科賊盜律竊盜條竊盜未得財ニ準シテ論シ士族ナルニ付改正閩刑律ニ照シ除族
ノ上懲役四十日ノ處情法ヲ酌量シ一等チ減シ懲役三十日打決ニ換ヘ答三十申付ル
但シ該証書ハ取揚ル且剛造ヨリ受取置金千圓ノ預リ証書ハ木村玄劑カ詐欺ノ手段チ以

テ授與セシメタル者ニ付尙ホ取揚ル又玄劑へ賣渡シタル地所ハ同人カ詐取ニ係ルヲ以テ下渡ス

二木彦助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十九日附ヲ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

第一條

自分儀曾テ木村玄劑へ金千六百圓貸付期限ニ至リ返却致サハルニ付屢々催促ニ及處玄劑申ニ兒玉剛造へ對シ自分所有ノ松木代價三千圓ニテ賣渡ノ契約致シ置キ該代金ノ内ヲ以テ返却ノ見込承諾ノ上ハ右剛造直ニ談判致シ吳レトノ依頼ニ付自分ヨリ剛造へ右ノ趣照會セシニ果シテ玄劑カ陳述ノ如ク松木買受ノ約定取結居ルニ付該代金ノ内ニテ自分へ差遣スヘキ所當時現金調達兼ルニ付預リ証書差入度旨剛造ノ望ニ任セ即日金八百圓ノ預リ証書貳通受取り右玄劑ヨリ兼テ受取居候証書ト交換シタリ於是全ク玄劑カ負債ヲ剛造カ負擔シタルナリ然ルニ該預リ金ノ証書ニ對シ時日遷延ニ涉リ義務尽サハルニ付強テ請求ニ及ヒシニ民法上身分限ヲ以テ濟方可致杯ト頗ル不當ノ應答ニ依リ止ムテ得ス民事詞訟ヲ仰キ御審理ニ際シ右剛造ヨリ該証書ハ不正ニ出テタル旨ヲ以テ告訴シタリ依テ原裁判所カ本件ヲ賊盜律窃盜未得財ニ準シテ論シ云々ト宣告下シタリ是レ不服ニシテ取消ヲ求ムルノ第一ナリ

第三條 剛造ト玄劑トノ松木賣渡シ契約ノ原因ノ成立如何ハ素ヨリ自分ハ知ラサル處ナリ第一條并ハ該証書ヲ以テ他ニテ金策スヘシ玄劑ニ於テモ承諾ナル旨詐言シ云々ト宣告セシ如キハ抑モ是レヲ何ニ下カ云ハ豈不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ンヤ如何トナレハ玄劑ト剛造トハ契約ノ當初ヨリ玄劑カ詐欺ニ出テタルモ自分ハ固ヨリ眞成ノ契約ト見認メハヨソ玄劑へ貸付タル金千六百圓ノ借用証ヲ全人へ差返シ該証ニ代ルルニ剛造ヨリ金八百圓ノ預リ証書貳通ヲ領受シタリ玄劑カ剛造ヲ詐欺セシト爲メ自分モ玄劑ト均シク詐欺者ト見認シハ果シテ何レノ點ニカアル是レ不服ニシテ取消ヲ求ムルノ第二ナリ

第三條 剛造ト玄劑トノ松木賣渡シ契約ノ原因ノ成立如何ハ素ヨリ自分ハ知ラサル處ナリ第一條ニ陳述スル處ノ如ク當時契約ノ有無如何ヲ照會セシ迄ニ止リ剛造ニ於テモ契約セシ旨確答シタルノミナラス其當時右剛造ナル者自分宅へ來リ該松木伐リ出シ方ニ付仲間致シ度ト強テ申勸メタリ而シテ后チ該契約全ク玄劑カ詐欺ノ所爲ナルヲ察知シ故ニ右預リ証書へ對シ義務盡サハルニ付自分ハ剛造へ係リ民事ノ詞訟ヲ起シタルハ當サニ然ラシムル處ナリ何トナレハ玄劑ト剛造トノ契約ハ不正ニ出ルモ當初承諾ノ上玄劑カ負債一千六百圓ヲ剛造カ引受け甘シテ負債主トナリタル上ハ更ニ玄劑へ係リ請求スルノ理由ナケレハ剛造へ係リ詞訟ヲ起シタルハ至當ナリ然ルニ原裁判所カ該預リ金証書ノ効力ヲ逐テシメン所セシ所爲ハ詐欺シテ財ヲ得ントシタル者ト斷定シタルハ不法ノ裁判ナリ是レ不服ニシテ取消ヲ求ムルノ第三ナリ

右陳述スル處ノ如ク原裁判所ノ裁判ハ不服ニ付這般上告仕候條至當ノ御裁判奉願候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ閱スルニ上告人カ明治十四年七月三十日鹿兒島裁判所糺問掛ニ於テ爲シタル口供ニ自分儀兒玉剛藏ヨリ金千六百圓ヲ預リ書、金八百圓ヲ受取リタル譯ハ自分ヨリ木村玄劑ヘ貸金アレハ返償セス且同人所有ノ口ノ永良部島ノ松木ヲ伐リ出ス資金モ無之ニ付千六百圓ノ預リ証書差出シ吳レ候ハ、他ニ於テ金策可致間尤木村玄劑モ承諾ニ付該預証書差出シ吳レ候様剛造ヲ申欺キ終ニ前顯預証書ニ通テ同人ヨリ受取リ置キタル儀ニテ云々トアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ兒玉剛造ヲ欺キ金八百圓ノ預証書ニ通テ受取リ民事詞訟ニ及ヒタルヤ明晰ナリトス故ニ原裁判所ニ於テ賊盜律竊盜條竊盜未得財ニ準シテ論決シタルハ不法ニアラスト雖モ兒玉剛造ヨリ受取タル金千圓ノ預証書ハ木村玄劑カ上告人ヨリ買受ケタル地所ノ代價ニ充テタルモノナルコトハ剛造モ承諾ノ上ニテ上告人ヘ相渡シ而シテ地所ハ公正ノ手續ヲ經テ上告人ヨリ玄劑ヘ賣渡シタルモノナレハ取揚ケ又ハ下渡スヘキモノニアラサルチ原裁判所ニ於テ剛造ヨリ受取リタル金千圓ノ預リ証書ハ玄劑カ詐欺ノ手段ヲ以テ授與セシメタルモノニ付取揚ル又玄劑ヘ賣渡シタル地所ハ同人カ詐取ニ係ルチ以テ下渡スト處斷シタルハ何ニ依テ斷定シタルモ又ナルヤ茲ニ見ルヘキノ証ナシトス凡罪ヲ斷スルハ証ニ依ルヘキモノナルニ其儀ナクシテ斷決シタルハ改定律例改正第三百十八條ニ定メタル規則ニ乖キタル裁判ナリトス

右ノ理由ナルチ以テ明治十四年九月廿二日鹿兒島裁判所ニ於テ二木彦助ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ宮崎輕罪裁判所ニ於テ更ニ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付彦助ニ於テハ宮崎輕罪裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ

第九十九號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年十月廿八日上告
明治十五年二月十六日判決

福岡縣筑前國遠賀郡馬場山村平

民半六長男

吉田藤太郎

明治十四年九月
二十四年三月

明治十四年十月十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ右藤太郎ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年八月申居村石橋鹿平偽造ノ地券書及ヒ借金証書ヲ以テ松尾寛作外二名ヲ欺キ金圓借用セシ事ハ曾テ承知セサル旨申立ルト雖モ畢竟陳述迄ニシテ之カ証左無シ
明治十四年九月二十六日飯塚警察署ニ於テ摺印セシ口供ニ福岡縣廳以下ノ印及ヒ地券ヲ偽造シ之ヲ幫助セシニ依リ鹿平ヨリ禮金三拾五圓贈ルチ受ケタリト申立レハ眞實ノ白狀也ト認定ス右科賊盜詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金貳拾圓以上懲役十年從ト爲シテ論シ二等減シ懲役七年申付ル

但縣廳以下ノ印及ヒ地券借金証書等ヲ偽造シ且他人ノ地券ヲ竊取スル科ハ輕シ論セス
贓金百八拾壹圓八拾壹錢九厘ノ内九拾貳圓五十錢ハ預リ主加藤五平ヨリ直ニ取上ル殘

金八十九圓三拾壹錢九厘ハ資力限り追徴ス尙該件ニ關スル書類下器具ハ取上ル
吉田藤太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月十八日附ヲ以テ大審院ニ上告
爲シタルノ要旨左ノ如シ

一藤太郎儀本年九月十日在宿罷在候處自分方へ探偵掛壹名入來リ自分へ御用之義候ニ付
穂波郡飯塚警察署へ出頭可仕旨被相達候ニ付即刻右探偵掛リ同行ニテ出頭仕候處該署警
部ヨリ御尋問有之ニハ石橋鹿平ノ偽造シ地券証及ヒ借用証書之印形彫刻ナシタルニ相違
アル間敷旨御尋問ニ相成候得共自分儀曾テ印形彫刻製造仕タル覺へ無之候ニ付自分ハ
決テ製造仕タル覺へ無之旨ヲ上申仕候處警部ヨリ御達ニハ昨年冬モ鞍手郡野面村戸長役
場之印形ヲ偽造ナシタル事有之ニ付此節ノ印形偽造致シタルニ相違有之間敷眞直ニ白
狀可致旨嚴敷御達ニ相成夫ヨリ退々ト拷問ニ相成數度手強ク鞭ヲ打セテ誠ニ苦痛難堪
有之候猶白狀致サ、ルニ於テハ打殺ス迄ハ拷問致ストノ趣ニテ御嚴達ニ相成申候且又自
分ヨリ上申仕ル廉ハ一言モ御採用ニ不相成實ニ難堪ノ至ニ御座候然ルニ石橋鹿平ナル者
今程脱籍致シタルニ熊本縣山鹿村へ罷在候ニ付召喚致置候ニ付無程出頭致スニテ可有之
ト警部ヨリ御達ニ相成申候ニ付右鹿平出頭致スニ於テハ同人ト對決致シ候得者自分義該
印形ヲ彫刻致不申處ハ直チニ判然致ス事ニ付如斯キ拷問ヲ受シヨリ先ツ苦痛ヲ遭フ爲メ
ニ該印彫刻致タルト偽ヲ申上シト存心外ニハ有之候得共無實ナカラ印形ヲ彫刻製造ナシ
タル趣ヲ反リニ上申仕候併長崎裁判所福岡支廳へ罷越候テ印形彫刻製造仕タル覺へ無之
旨ヲ實際ヲ明白ニ上申可仕決心仕候テ偽テ印形製造ナシタル旨ヲ上申仕タレトモ該事

實自分決テ存知タル事ニテハ無之候

一本年舊正月中自分實印ヲ兼テ掛少硯箱ニ入置候處一圓相見タル石橋鹿平ナル者
自分近隣ノ義ニ有之候得者毎々右ノ硯ヲ借用致居候ニ付同人ヨリ盜ニ取ラレタルニ相
違無之ト存居候處今般借用金偽造ノ借用証書ニ自分儀借主ノ印形ヲ調印ナシタル旨飯塚
警察署ヨリ御達ニ相成承知致候之レハ鹿平ノ全ク欺偽ニ有之候
一自分父吉田半六儀栗山愛三ナル者ヨリ畑地買受ケ右地券証ヲ所持致居リ候然ルニ未ダ
地券名前換相願居不申分ヲ自分ヨリ鹿平へ相渡之レニテ金子壹貳圓借用致遣シ吳候様依
頼ニ及置候得共日數ヲ過キ候得共金子モ借受ケ不遣地券証モ返却不致依テ毎々地券証返
却ノ催促ニ及ヒ候得共遂ニ延々ニ相成居タル處右ノ地券証裏面ヲハキトリ今般借用金抵
當ノ偽造地券ニ張り付居タル趣飯塚警察署ヨリ御達ニテ承知仕候
一本年本月八日長崎裁判所福岡支廳ヨリ御召喚被仰付候ニ付出頭仕候處印彫刻ノ件委敷
御尋問被仰候ニ付自分儀該事實一切承知致タル儀ニハ無之候得共飯塚警察署ニテ嚴敷拷
問ニ相成候ニ付苦痛ニ堪兼全ク無實偽言ヲ上申仕口供摺印仕タル旨上申候處然ラハ右ノ
次第此口供ニ摺印仕候様御達ニ相成候ニ付則口供ニ摺印仕置候處本月十一日福岡支廳ヨ
リ御召喚ノ上別紙ノ通竊盜ニ準シテ懲役七年宣告ヲ受ケ候得共何分服シ難ク儀ニ有之候
就テハ何卒石橋鹿平ナル者ヲ至急御召喚被仰付該印形彫刻製造方之儀篤ト御糺問被仰付
度若自分へ彫刻依頼等致タル旨申立ルニ於テハ一應自分ト對決之上コト別紙之通懲役七
年宣告ヲ受ルニ於テハ一言ノ苦情ハ無之候得共前述ノ通全偽ノ口供ナルニ今般福岡支廳

シタルコ有之旨吐白シ辨駁致シタルトモ更ニ聽容ナク汝カ如キ奴ハ一疋二匹殺スル恐ル
 ヲ足ラス如此スルモ白狀セサルヤト繫縛ノ儘釣リ上ケ之レニ加フルニ棒ヲ以テ毆打サ
 レ己ニ精神ヲ失ヒ治命モ如何ヤト存シタルニ付其拷問ヲ免レンカ爲メ一時不實ノ仲供ヲ
 ナシタリ仍テ爾來大阪裁判所へ交付サレタルニ付檢事局及ヒ糾問掛リニテ先キニ警察署
 ニ於テ拷訊ノ苛酷ナル廉々ヲ伸述シ之レカ爲メ不實ノ仲供ヲ爲シタレモ其有体ノ事ニ於
 テハ上告人カ行盜シタルニ非ラス尤明治十一年四月十八日頃大阪府久寶寺町塚筋ノ角姓
 名不知者方ニ小山竹次郎カ發意ニ從ヒ若干ノ物品盜取タルコアルモ其他行盜シタルコ
 シ亦山田庄吉中村高助カ依頼ニヨリ盜品賣却ノ世話致シタルコ有之旨伸供シニリ糾問
 テ爲シタルコ然リ而シテ爾後糾問掛リニテ御尋問ノ際法官曰曾テ山田庄吉中村高助等カ
 供ニテ詳ナリ居リタレモ今ニ於テ右兩人ハ其方ノ依頼ニヨリ不實ノ自首シタル旨申立
 タルハ個々如何ノ譯ナルヤト御尋問有之タルニ付上告人ニ於テハ毫モ右ノ依頼シタル覺
 へナシ彼等カ上告人へ冤ヲ誣ヘタルモノナラント相答タル此ニ於テ自分債々相考ユルニ
 自分儀松屋町監獄分署ヨリ中ノ島監獄分署へ交附サレシ時其以前同房囚山口幸太郎岸田
 富吉山田庄吉中村高助賭博シ右兩名ヨリ紺カスリ單物壹枚白木綿八尺余リ勝得居リタル
 ニ付該二品ヲ所持シテ中ノ島監獄分署へ至リタルヨリ其後該品ニ付兩監獄分署ノ間
 ニ於テハ數々文書ヲ往復有之自分儀該品ニ付御尋問ヲ受タルニ付有体ニ伸述シ併シ該品
 ハ己ニ松屋町監獄分署ニテ自分所持品ニ改帳簿ニモ其旨記載有之候得ハ自分所持品ナ
 ル旨相答候テ其後度々兩監獄分署ノ間文書ノ往復有之趣ニテ數々御手數ヲ掛ケ却テ恐入

ル譯ニ付終ニ返却致候然ルニ該品ハ相違スル云々ニテ又々御尋問ヲ受候得共自分ニ於テ
 ハ他品ヲ返濟シタル者ニ無之候間該品ニ相違ナキ旨申答事濟ニハ相成候得共右等ノ人名
 ニ於テハ之レチ格別ニ遺恨ニ思ヒ之レカ怒リヲ以テ上告人ニ對不實ヲ誣ヒタルモノト相
 考申候
 右之理由ナルヲ以テ其始末ニ於テ凡テ裁判所ニテ爲シタル口供ノ通り相違無之先キニ
 警察署ニテ爲シタル口供ハ御糾問ノ嚴ナルニ耐へ兼不實ヲ申立致タル義ニ有之候間今一
 應御再審ノ上事實ニ應當ノ御裁判被成下度此段只管歎願候也

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告菊井彌太郎ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラス犯罪事實ノ認
 定ニ對シ破毀ヲ求ムルノ趣旨ナルヲ以テ明治十年第十九號布告控訴上告手續第十條ニ適
 當セサル上告ニ付本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月二日大阪裁判所ニ於テ菊井彌太郎ニ言渡シタル裁判
 ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第二百一號

判文(窃盜ノ件) 明治十四年十一月廿五日上告
 明治十五年二月十六日判決

兵庫縣攝津國川邊郡別所村平民

新平長男定七事

明治十四年十一月二日大坂裁判所ニ於テ右竹松ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
明治十四年十一月
二十三年二月

其方儀檢事ヨリ公訴スル竊盜及ヒ故買事件遂審理處

檢事ニ於テハ明治十一年二月以來四ケ度富森源兵衛木村榮助等ヨリ盜贓タルヲ知テ買取
ノミナラス同年七月九日及ヒ十九日ノ兩度木村榮助菊井彌太郎等ノ勸メニ任セ伊藤清助
方土藏外壹ヶ所へ忍入り金品窃取シタルハ其方及ヒ共犯彌太郎カ警察署ニ於テナシタル
口供被害者ノ届書等ニ依リ明カナルヲ以テ竊盜律及ヒ賊盜窩主律ニ依リ處斷ヲ求メタリ
其方ニ在テハ野田善兵衛ヨリ盜贓故買セシト相違ナシト雖モ竊盜ヲナシタルト決シテ無
之故ニ檢事ノ求ムル如ク竊盜律ニ依リ處斷セラル、所以之旨無陳述ス

右其方カ辨護スル竊盜ニアラスシテ故買スルノ反証更ニ無之ノミナラス共犯彌太郎カ警
察署ニ於テナシタル口供モ其方先キノ口供ト符合スルヲ以テ先キノ口供ヲ直實ノ白狀ト
確認シ竊盜贓金六百三拾八圓余ノ科竊盜律ニ依リ懲役終身ノ處第二次ノ盜首徒ノ別分ヲ
サルヲ以テ第一次ト同シ榮助等ノ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役十年申付ル

但故買贓金一千圓以上賊盜窩主律末項ニ依リ座贓ヲ以テ論シ懲役三年竊盜贓ヲ併ス仍
ホ輕シ論セス且贓金賠償ノ爲メ資力限制取揚ル
渡邊竹松ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月十三日附テ以テ大審院ニ上告
爲シタル要旨左ノ如ク

本件上告人ニ對シ竊盜從犯ノ科ニヨリ懲役十年ノ刑御宣告相成タル此獄ニ於ケルヤ大
阪裁判所法官ノ誤斷ニシテ抑上告人ニ於テハ先キ檢察署ニテ爲シタル口供ハ凡テ御亂
問ノ苛酷ナルヨリ其苦ニ堪兼一時不實ノ伸供ヲ爲シタル譯ナシハ其事實ヲ確實ナルハ大
阪裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ通りニ有之毫モ不實ノ供述ニ無之候抑上告人ニ於テハ盜
贓ナルヲ知リ之レヲ賣得シタル者ニ付之レニ應當ノ御處刑ヲ受クルハ止ムヲ得サル義
ニ有之候得共行盜トハ更ニ形迹モ無之事ニ候然ルニ先キ檢察署ニ於テハ御責問ノ嚴ナ
ルニ苦ニ只顔見合有之者ノ氏名ヲ指シ共ニ行盜シタルト申立タレ共其木村榮助富森源兵
衛等ニ於テハ更ニ關係無之候實ニ本件盜罪ニ科セラレタルハ冤罪ナルニ付大阪裁判所ニ
於テ爲シタル口供ニ應當ノ御處刑被成下度此段不願恐縮上告仕候也

上告追願
第一條

一 宣告文中ニ明治十一年二月來四ケ度富森源兵衛木村榮助等ヨリ盜贓名ヲ知テ買取タル
ノミナラス云々ト有之候得共全ク右源兵衛榮助等ニハ一切關係無之然レ共警察署ニ於テ
ハ嚴シキ拷問ニ堪兼右兩名並ニ住所氏姓ヲ不存「保」ナルモノ右三名ノモノヨリ買取タル
段申立候得共全ク拷問ノ苦ニ堪兼止ムヲ不得同所ニ於テ源兵衛榮助兩人申立ルト同商業
ニテ是迄數度取引致シタル廉有之熟懇ナルヲ風ト心付一時ニ苦ミテ免ルタメ關係ナキ人
名ヲ申立ルト雖モ御尋問相成候ハ、情實明瞭ナルト存シ無實ノ白狀仕候右兩名モ無實
ナル難負ヒ候義ニ相違無御座候然ルニ亂問御掛リニ於テ眞實白狀ニ及ヌル人名ニ應御

取調モ無之更ニ少シモ關係コレナキ源兵衛榮助等ヨリ買取タルトシテ御裁決相成候ハ甚
タ以テ不取調ノ至リカト想像仕候

第二條

明治十一年七月九日及同十九日ト兩度木村榮助菊井彌太郎等之勸メニ依リ伊藤清助方土
藏外壹ヶ所ニ忍入金品窃取シタル云々ト有之候得其自分ニ於テハ窃取シタル覺更ニ無之
右彌太郎ノ周旋ニテ買取タルニ相違無御座該証ハ大阪府下内久寶寺町三丁目古着商野田
善兵衛申陳ルニハ明治十二年七月九日彌太郎ナルモノ自宅へ來リ物品買取吳レル様申陳
ト雖モ手元金圓不都合ノ申陳致シ候ハ、彼レ然ハ渡邊定七呼寄セ吳レ候様申コ付右善兵
衛直ニ自分方へ罷來リ前書ノ事由申聞ケ同伴ニ致旨申ニ依リ自分義ハ金圓懷中致シ同道
ニテ善兵衛方へ罷越同人店先キニテ右彌太郎ヨリ物品百點余金八拾五圓ニテ買取タルニ
相違無御座尤モ善兵衛ハ店口錢トシテ金五圓相渡シ候然ルニ彌太郎ヨリ盜犯シ名前ハ
正ニ不承候得共府下康物町邊ノ品ノ由聞及置候該日善兵衛方神事祭典ニテ馳走ニ相成大
ニ酩酊致シヨリ善兵衛ハ彌太郎ヨリ買取タル物品背負自宅迄送り吳レ候同七月十九日分
ハ約定致シ置キ善兵衛宅へ罷越シ是又彌太郎ノ周旋ニテ買取タルニ相違無御座尤モ彌太
郎ヨリ盜犯ノ名前ハ不聞取ト雖モ彌太郎見當トナシ買取タルニ相違無之尙又善兵衛ハ
店口錢金五圓相渡然ルニ自分明治十二年三月故買ノ科ニ依リ懲役十年ノ御處刑ヲ請ケ服
役中檢事御局ヨリ御呼出シ付管殿御掛リニテ明治十二年七月廿旬菊井彌太郎周旋ニテ
物品買取タルヤ否ヤ御尋問ニ付自分先ニ警察署ニ於テ右彌太郎自分ト申合セ竊盜犯

ノ口供ヲ致シタリト雖モ今檢事ニ於テ自分買取タルヲ判然致シタルト相心得盜犯ハ何レ
ノモノナルト相尋候ハ、紀州邊ノモリナルト承リ檢事局於テハ右彌太郎ノ周旋ヲ以テ買
取タル爪印仕尙其後糾問所都地殿御掛ニテ御取調相成候處是亦彌太郎周旋ニテ買取タル
ノ爪印仕候

第三條

一 公判ノ御席ニ於テ檢事ノ公訴ヲ承ルニ警察署ノ口供ヲ以テ眞實ノ白狀トナシ處分及フ
ヘシト承リ自分儀ハ明治十二年二月兵庫縣尼崎警察署ニ於テ自分及菊井彌太郎ト申合
セ金品窃取ノ御取調相成處右彌太郎ノ周旋ニテ野田善兵衛宅ニ於テ買取タルノ手續書差
上置キ該書一通ハ大阪警察本署へ奉呈致シ置キ候大阪警察署於テハ拷問嚴シキニ依リ不
實口供致シ候ニ依テ大阪裁判所公判ノ御席へ右善兵衛御呼出シノ上自分買取タルヤ否ヤ
ノ御取調糾シノ義願上ル處右善兵衛死去ノ由初メテ承リ實以テ驚入然ルニ木村榮助ヨリ物
品買取タル義更ニ無之且ツ竊盜犯シタル義モ無之只警察署ノ口供ニハ右榮助ノ明文有ル
カ故明治十一年七月ヨリ本年十一月マテ警察裁判兩所ニ於テ榮助ノ事由壹ヶ度ノ御取調
モ無之第壹條ニアル四ヶ度ノ物品モ榮助等ヨリ買取タルトシテ御處分相成候得共壹ヶ度
ニテモ買取タル義一切無之尤モ榮助ニ内意シテ竊盜ナシタルハ覺聊カ無之候ニ何ソ榮助
ノ從トシ御處分相成候段甚々疎漏ノ至リカト想像仕候

第四條

一 宣言文中ニ其方及共犯彌太郎カ警察署ニ於テナシタル口供被害者ノ届書ニ依リ明ナル

云明治十一年七月廿七日大阪府下久寶寺町野田善兵衛宅ヨリ木村榮助郵便葉書ヲ以テ品
 モノ有之候趣申入候ニ付翌日右善兵衛方へ罷越候ハ、右榮助菊井彌太郎居合セ今日ハ品
 モノ無之候ト申ニ依リ左スレハ自分ハ歸宅ノ旨相告レハ右榮助彌太郎ノ兩人陳ルニハ品
 モノ明日入手ノ都合ナレハ今夜ノ處止宿致シ吳レヘト申候間應其意該日夕方ヨリ自
 分及彌太郎榮助三名共大阪道頓堀邊へ遊歩ニ參リ右善兵衛方へ歸路ノ途中自分ハ大阪心
 齋橋上ニテ砂糖水ヲ吞ントセシ際右兩人へ別レテ告ケ彼等兩人先ニ立自分ハ暫ク後ヨリ
 歸路ナル處巡查御尋ニ相成ニ依ヨリ自分先キニ參リシ兩人ノ連レナル旨申立ツレハ該場
 ニ於テ捕縛相成警察署ニ於テ竊盜ニ這入タラントノ御訊問嚴シク候得共自分ニ於テハ竊
 盜ニ這入タル覺更ニ無之古着商ノモノニテ右野田善兵衛方へ參リ居候モノト相答候ハ、
 然レハ右善兵衛方ニテ取引致シタルコト申立ヘントゾコト故第一條ニアル四ケ度第二條
 ニアル右彌太郎ノ周旋ヲ以テ買取タルニケ度申立ツレハ然レハ右彌太郎ヲ尋問可致ト有
 之其際右彌太郎ガ不實ノ申立ヲ致シタルヨリ自分初メ彌太郎榮助等ト竊盜犯シタルモノ
 ト御見込ニ相成夫レヨリ拷問日々嚴シキ故病氣差起リ身體堪兼ルヨリ右彌太郎へ該苦ヲ
 相咄シ何レ裁判所ニ於テ事實申立ル間該苦ヲ免ル爲メ爪印致シ吳レ候ト相頼ミ候ハ、右
 彌太郎承諾致シ吳レ依テ警察署ヨリテハ不實ノ口供ニ爪印仕候其際右榮助ハ行方不相当
 依之右等ノ事情裁判所ニ於テ止申可仕存心ニ候得共明治十一年七月ヨリ明治十三年迄裁
 判所ニ於テ壹ケ度ノ御引出シモ無之故拷問ノ疵モ相治リ本日ニ至リ候テハ拷訊ノ証跡モ
 不相当候得共警察署御掛リハ一等巡查松井殿ノ御掛リニ有之依テ右御取調被成下度候

第五條

ニ宣告文中ニ其方ニ在テハ野田善兵衛ヨリ盜匪故買セシト相違ナシト雖モ竊盜ナシタ
 一決テ無之云々トアルハ自分ニ於テハ右善兵衛ヨリ故買致シタル事無之右善兵衛ハ店貸
 ニ而已ニテ只口錢ヲ貰情ルモノナリ右善兵衛ヨリハ一度ノ取引モ不仕候
 一宣告文中ニ其方カ辨護スル竊盜ニアラスシテ故買ナルノ反証更ニ無之云々トアルハ自
 分ニ於テハ故買ナルノ証ハ右善兵衛カ自宅へ參リ野田善兵衛同伴致シタル藤有之併シ善
 兵衛義ハ死去致スレハ是非ナキトニ候得共木村榮助ナル者へ御尋問有テ明瞭ナリ右彌太
 郎ノ周旋ニテ買取タル品モノニ相違無御座候
 一宣告文中ニ榮助等ノ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役十年申付ルトアルハ自分榮助ノ從
 トナル謂レ更ニ無之何トナレハ榮助等ト竊盜犯シタルモノナレハ明治十一年七月ヨリ明治
 十四年十一月マテ一ケ度ノ御取調モ無之只大阪府警察署ノ口供ノミニテ榮助從トナシ御
 處分相成候ハ自分不服ニ御座候
 上告再追願

明治十二年十二月廿日大阪裁判所ニ於テ故買ノ科ニ依リ懲役一年御申渡相成明治十三年
 十二月廿五日大阪裁判所ニ於テ故買ノ科ニ依リ懲役一年半ノ處先ニ御申付ニ相成タル一
 年ヲ除キ殘ル半年御申付相成其節不服ニ付上告仕翌明治十四年三月十三日却下ニ相成候
 處同日懲役場へ御送付ニ相成同三月十三日ヨリ同七月上旬迄服役中ニ糺問掛リヨリ御曳
 出シ御調ノ上直ニ中ノ島監獄分署へ拘留ニ相成明治十四年十一月二日大阪裁判所ニ於テ

竊盜律ニ依リ懲役十年御申渡ニ成候ニ付裁判言渡書ヲ閱スルニ先ニ故買ノ科ニヨリ服役致居候日數白日ヲ御記載無之前顯服役日數ハ除去スヘキ旨ト愚考ス此段奉追願候也

辨明

上告人渡邊竹松ハ先ニ盜賊故服ノ科ニ依リ服役致居候日數白日ヲ除去セラレサルハ不當ナリト言フト雖モ今回處刑ヲ受ケタルハ則チ竊盜罪ニシテ其宣告狀但書ニ故買賍金一千圓以上賊盜窩主律末項ニ依リ坐賍ヲ以テ論シ懲役三年竊盜賍ヲ併ス仍ホ輕シ論セストアツテ原裁判所カ二罪俱發ヲ以テ論セラレタルハ明瞭ナレハ相立、サルノ申立ナリトス其他請願ノ條々ハ總テ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラスシテ單ニ事實覆審ニ係ル趣旨ナルヲ以テ本院ニ於テ採用スヘキ限リニアラサルナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月二日大坂裁判所ニ於テ渡邊竹松ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第百貳號

○判文〔役限内逃走ノ件〕明治十四年十二月八日上告
明治十五年二月十六日判決

福井縣越前國丹生郡三本木村出
主無籍平民

田中仁太郎

明治十四年十月
二十九年十一月

明治十四年十一月十六日金澤裁判所福井支廳ニ於テ右仁太郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀竊盜四犯ノ科ニ依リ懲役終身處刑中懲役場ヲ逃走シ郷貫氏名ヲ詐稱シ客塵ニ投宿スルノミナラス同逃囚渡邊熊之助等ヲ申勸メ又壹人立又ハ寺尾文右衛門ノ發意ニ同シ松井五兵衛方外五ヶ所ニ忍入金圓其外盜取ル賍金千百貳拾壹圓余右科ノ内首從ノ賍ヲ併スルモ首賍仍ホ三百圓以上ナルニ付減等セズ一ノ重キ改正懲役人又犯罪條ニ照シ捧鎖十日申付ル

金澤裁判所福井支廳諸檢事補吉澤良藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十九日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ
抑本犯ハ懲役終身ノ囚ニシテ懲役場ヲ逃走シ外ニアリテ仍ホ終身ノ罪ヲ犯スモノニ付懲役人逃條例及ヒ懲役人又犯罪條例ニ照シ逃走罪捧鎖三日ト終身ノ罪捧鎖十日併セテ十三日ノ捧鎖ヲ科スヘキハ喋々論ヲ俟タス然リ而シテ本裁判タル逃走罪ヲ科セサルハ全誤脱セシモノニシテ裁判官ニ於テモ蓋シ失誤ヲ固執セサルモノト推測スルニ足ルモノアリト雖憾ムラクハ出スニ失スルモノハ貼斷スルヲ用井ストアル明文ニ遮斷セラレ、テ前條ノ理由ナルニ付則チ檢事章程第二條及上告手續第二十九條ニ照準シ上告仕候間更ニ至當ノ御處分有之度此段具申仕候也

辨明

被告人カ犯罪ハ懲役人逃條例凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ捧鎖三日明治十年第二十五号布告改正懲役人又犯罪條例懲役終身ノ囚人又懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ捧鎖十日

トアルニ照シ逃走罪棒鎖三日ト懲役終身罪棒鎖十日ト併セテ十三日ノ棒鎖ヲ科スヘキモノナルコ原裁判所ノ裁判茲ニ出テス懲役終身罪棒鎖十日ノミヲ科シ逃走罪棒鎖三日ヲ科セサルハ不當ノ裁判ナリトス而シテ之ヲ刑法第三條第二項ニ依リ刑法第四百十二條及第三百六十八條第三百六十九條第三百七十六條第九十五條ニ比照スルモ舊法輕キニ因リ仍ホ舊法ニ從ヒ明治十四年第八十壹号布告第十三條ニ依リ棒鎖十三日ニ處斷スヘキモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月十六日金澤裁判所福井支廳ニ於テ田中仁太郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

田中仁太郎

右懲役人逃走條例及ヒ明治十四年第二十五號布告改正懲役人又犯罪條例ニ照シ

棒鎖十三日

第三百三號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年十二月八日上告
明治十五年二月十六日判決

岡山縣備前國邑久郡牛窓西町平民

田村房五郎

明治十四年十一月二十五日

右房五郎カ所爲ニ對シ明治十四年十一月十一日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ

爲シタリ

神戸裁判所姫路支廳ニ於テハ檢察官ノ求刑ニヨリ被告人田村房五郎ニ對スル事件ニ付事主ノ申立書參証人八木「マサ」ノ陳述書相當官吏ノ作リタル調書明治十四年十月廿八日付ノ當廳ノ言渡書ヲ以テ被告人ノ答辯ヲ聽キ被告人田村房五郎ハ明治十四年十月廿三日前田「スマ」ヲ欺キ同人方ニ於テ飲食シテ其代金三十四錢五厘ヲ拂ハス提燈壹張ヲ詐取シ而シテ明治十四年十月廿八日右賍ヲ盡サス他ノ詐欺取財ノ賍金二圓八十錢ノ罪ニヨリ懲役六十日ヨリ三等ヲ酌減シ懲役三十日ノ言渡ヲ受ケタルヲ明白ナルヲ以テ賍品ヲシテ公商人平福富五郎ニ命シ估計セシムルニ提燈壹張金三錢ナル旨申立タリ之レヲ法律ニ照スニ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ并ニ賍ニ計ニ竊盜ニ準シテ論ス云々賊盜律竊盜條壹兩以上杖六十
改定律例第七十三條凡二次盜ヲ爲シ一次先ニ發シ及ヒ先ニ審決シテ賍ヲ尽サ、ル者論決ノ後發覺スレハ俱ニ後發ノ賍ヲ以テ前賍ニ併セ罪加フヘキ無ケレハ論セス若シ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ス
右ノ條目ニ因リ被告人田村房五郎ハ更ニ懲役六十日ニ處斷シ已ニ役スル十三日ヲ扣除スル者トス

神戸裁判所姫路支廳詰檢事補河野通信ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月十七日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
右裁判ヲ檢審スルニ抑モ被告事件ノ先ニ論決ヲ受ケタル賍金貳圓八十錢後發ノ賍三十四

錢五厘ナルヲ以テ前贓ニ併スモ等ク壹兩以上ニシテ罪加フヘキ無キモノニ付改定律例第七十三條凡二次盜ヲ爲シ一次先ニ發シ及ヒ先ニ審結シテ贓ヲ盡サ、ル者論決ノ後發覺スレハ俱ニ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セ罪加フヘキ無ケレハ論セストアルニ比照シ裁判スヘキモノトス然ルチ右ノ明文ニ比照セスシテ更ニ懲役六十日ニ處斷シ已ニ發スル十三日ヲ扣除スト言渡シタルハ事實ト法律ノ適用齟齬セリトス當クニ齟齬セリトスル而已ナラス已ニ確定セシ前裁判ノ懲役三十日ニ處セシチ不當ト認メ貼斷シタルモノ、如シ若シ前裁判ハ出スニ失スルト認メ之ヲ貼斷セシトスルモ改定律例第三百十四條ニ明文ノ有ルアツテ貼斷スヘカラス況ヤ前裁判ハ出スニ失スルニ非ラスシテ本刑ヲ酌減セシニ於テチヤ右ノ理由ナルヲ以テ本按ノ裁判ハ不法ノ裁判ト認視セリ

辨明

被告人田村房五郎ノ犯罪事實ニ對シ原裁判所カ賊盜律詐欺取財條及ヒ改定律例第七十三條ヲ適用セシハ允當ナリト雖モ更ニ懲役六十日ト宣告シ既ニ役過スル十三日ヲ扣除シタルハ法律明文ニ違ヒタル不法ノ裁判ナリトス何ントナレハ例第七十三條ニ凡二次盜ヲ爲シ一次先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ一次後ニ發シ及ヒ先キニ審結シ贓ヲ盡サ、ル者論決ノ後發覺スレハ俱ニ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セ罪加フ可キ無ケレハ論セス若シ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ストアリテ被告房五郎ハ先ニ詐欺取財條ニ依リ懲役六十日ノ所刑ヲ受ケ而シテ後發ノ詐欺取財條ニ日合セテ三拾七錢五厘之ヲ前贓ニ併スモ壹圓以上罪ノ加フヘキナケレハナリ然、而、所犯刑法施行前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十

四年第八十一號布告ニ依リ之ヲ刑法ニ比照スルニ第三百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス云々第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ係ル事實ナリトス然ルニ前ニ舊法懲役六十日酌量減輕シテ同三十日ノ處斷ヲ經タルヲ以テ第百二條一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若シクハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス云々トアルニ依リ後發ヲ以テ前發ノ刑ニ通算シ處斷スヘキモノナリ如斯新舊法輕重相等シキニ付新法ニ依リ處斷スヘキモノナルモ前ニ受ケタル舊法懲役六十日ノ刑ハ減刑シテ同三十日ナルヲ以テ明治十四年第八十一號布告第十二條ニ依リ其輕キ舊法ニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ因リ罪ノ加フ可キナキモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十一日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ田村房五郎ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田村房五郎

賊盜律詐欺取財條贓金壹圓以下前ニ贓金壹圓以上懲役六十日酌量減輕シテ同三十日ノ處分受ケタルヲ以テ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併スモ罪等シキニ因リ例第七十三條ニ依リ罪ノ論スヘキナシ

第四百四號

○判文(失火ノ件) 明治十四年十二月十五日上告
明治十五年二月十六日判決

秋田縣羽後國仙北郡大曲村平民
最上長之助妻

水 牧 サ ト
明治十四年十一月
四十九年

明治十四年十一月二十八日弘前裁判所管内大曲區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年十一月十六日夜自宅外數十戸罹災シタルハ其方カ失火シタルニアラサ
ル旨抗辨スルト雖モ巡查江田貞吉其他見証人ノ陳述ニヨリ其方カ水風呂ノ火ノ消止方粗
漏アルヨリ失火シテ右數十戸ニ延焼シタルモノナリト認定スルヲ以テ右科ヲ雜犯律失火
條ニ照ラシ懲役四十日婦女ナルヲ以テ例ニ照ラシ收贖金壹圓申付ル
水牧「サト」ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月七日附テ以テ大審院ニ上告
爲シタル要旨左ノ如シ

抑モ其火災ノ要領タル明治十四年十一月十六日午後第八時夫長之助ナル者外出ノ折柄其
歸宅ヲ待タズ寢臥セント此時子供等己ニ熟眠ニ有之然ルニ該日自宅ニ於テ水風呂ニ火焚
キタルモ其前即チ午後第八時頃暁ト消火セシト雖モ尙火ノ要心ヲ堅固ナラシムル爲メ又
候水風呂ノ火管ニ水ヲ注キ埋火滅盡ヲ確認シ果シテ臥床セシモノナリ然ル折柄俄然火勢
ノ猛烈ナルニ驚キ起床セシニ自家厨ノ側ナル東方伸板外ト(即東海林茂)ヨリ火熾ニ内
桁ニ燃付タルヨリ狼狽實ニ東西ヲ忘心シ須臾ナラサルニ已ニ屋內皆ヲ燃延リ到底消防ニ

術計ナク直チニ小兒ヲ抱出セント表戸ヲ押開キ外街ニ走驅セシニ其時間ハ已ニ隣佑東海
林茂吉宅モ共ニ火屋ニ突燃シ火烟空ニ漲リ此時甫メテ大曲警察署ニ於テ非常火災ノ鐘號
ヲ示サレタリ折柄巡查ノ方一名御出張相成リタル迄心得後チ直チニ親類最上富治方へ參
リタリ然シテ鎮火ノ後自分方火元ナル旨ヲ以テ出火ノ原由詰問セラレ、ニ付前陳ノ如ク
火災ノ景狀ヲ開陳シト雖モ警察官ニ於テ飽迄右水風呂ノ火消止ノ粗漏アルヤヲ怪ミ單ニ
洩火セシモノ、如ク云フト雖モ該水風呂設置ノ場所ハ別紙繪圖面ノ如ク裏出口傍ラニシ
テ土藏ニ通シル道巾凡九尺ナリ又其土藏ト離隔シタルト壹間有餘ナク斯ナル所ヨリ若シ
假リニ出火シタルモノトセハ輒ク夫長之助カ猛火ノ音ヲ聞テ起床シ其尤モ熾シナル火ヲ
侵シテ其土藏ニ至リ曾テ閉鎖シアル板戸ヲ開キ入り窓及ヒ表裏ノ土戸ヲ閉チ土泥ヲ塗ル
暇ナキト知ルヘシ然ルニ難ナク壞燒ヲ防キ終ニ其全キヲ得タルナリ由之觀之右水風呂場
ヨリ出火シタルニアラサルト明瞭ナリ又巡查カ駈ケ來タリシ時ハ前陳ノ如ク兩家共ニ屋
上ニ燃ヘ上リタル場合ナレハ焉ソ能ク火ノ根原ヲ認ムルト能ハサルヘシ尙且ツ其他見証
人共手其深原ヲ認メタリト云フ如キ實ニ其寄ル處ヲ知ラサルナリト雖モ單ニ夫長之助カ
頭額ヲ燒爛セシハ最モ狼狽セシヨリ怪我シタルハ汝カ火元ナルノ一証ナリト云フト雖モ
其怪我シタルハ最初土藏ノ燒壞ヲ禦キ果シテ帳簿等ヲ持出サントシテ室ニ入ラントスル
際茅葺屋根ノ燒落タル激火ニ觸レタルナレハ其燒疾最モ薄症ナリ唯狼狽ノ景狀ヲ推測シ
テ其火ノ因ヲ知ルモノトセハ獨リ自分方而已ナラシヤ反テ隣佑東海林茂吉方ニ於テハ土
藏ノ目塗リスル暇隙ナキト見ユ土藏一棟ヲ燒毀セリ尤モ狼狽燒毀ノ急ナル其他ハ推テ知

ルヘシ素ヨリ是等ノ事實ハ敢テ信証スルニ足ラサルモノコシテ其火ノ起出シタル場所ハ曾テ火ノ因アラサル所ナリ如斯理由アル何ノ水風呂ノ火消止方租漏ヨリ失火燒毀ニ至リタルモノナリト明治十四年十一月二十八日弘前裁判所大曲區裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判不服ニ付破毀ヲ求需スルタメ上告仕候以上

辨明

上告人「サト」ハ罹災當日自宅ニ於テ水風呂ニ焚火爲シタルモ其殘火ハ消止メ決シテ疎漏ノ所爲アルコトナシト陳辨スト雖モ其火氣ノ全ク消滅シタルヤ否ハ確認スルニ由ナケレハ見証人ノ陳述ニ據リ原裁判所カ事實ヲ推測シ該火ノ滅盡セサルヨリ終ニ家宅燒失ニ至リシ者ナリト認定シ雜犯律失火條ニ照シ裁判爲シタルナレハ敢テ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月廿八日弘前裁判所管内大曲區裁判所ニ於テ最上長之助妻「サト」ヘ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ
第五百五號

○判文(賭博ノ件) 明治十五年一月七日上告
明治十五年二月十六日判決

山梨縣甲斐國東山梨郡七里村平民
民仁助父
池田福平
明治十四年十二月
五十五年五月

同縣同國同郡西保村平民吉正父

西川瀨兵衛
明治十四年十二月
五十五年五月

明治十四年十二月十五日静岡裁判所甲府支廳ニ於テ右池田福平西川瀨兵衛ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方共ニ對シ原告官澁谷孝正ニ於テ汝等ハ明治十四年十二月七日同村石原健甫方ニテ青柳丑太郎等ト財物ヲ賭シ博戲ヲ爲セシコト巡査ノ手續書ニ因テ明カナリトテ公訴セリ依テ取調ル處青柳丑太郎外三名ハ汝等ト手合セシコト無之旨申立ルコトミナラス巡査ノ手續書ヲ閱スルコト只八九名ノ者輪坐シテ博戲致シ居ルト云フニ止リ現ニ汝等カ手合セシヲ認メタルト云ニ非ラサルヲ以テ汝等ニ於テ財物ヲ賭シ博戲セシ者ト認メ難キニ依リ無罪
静岡裁判所甲府支廳詰檢事補澁谷孝正ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二十一日附ヲ以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル要旨左ノ如シ

右之者共明治十四年十二月七日午前第二時山梨縣甲斐國東山梨郡七里村平民石原健甫宅ニ於テ同村平民青柳丑太郎外五名ノ者等ト金錢ヲ賭シ骨子ヲ以テ博戲ヲ爲シ居ルヲ山梨縣石和警察署七里巡査交番所詰三等巡査若生景友外三名巡羅(モト)ノ際其現場ヲ確認シ池田福平西川瀨兵衛及ヒ村松勝吉青柳丑太郎ノ四名ヲ取押ヘ其餘ノ者ハ現場逃走セシヲ以テ該四名ヲ石和警察署ニ引致シ同署長七等警部宮部維ニ於テ訊問シ未當職ニ送致セ

シニ因リ尙ホ一應ノ訊問ヲ爲シタル處福平瀨兵衛ノ兩名ニ於テハ賭博手合ニ加ラサル旨主張スト雖モ巡查ノ現ニ確認セシ者ナルヲ以テ當職ノ意見ヲ付シ明治十四年十二月十日靜岡裁判所甲府支廳へ公訴及ヒタル處明治十四年十二月十五日右池田福平西川瀨兵衛ニ對シ如左裁判言渡ヲナシタリ

宣告書略ス

右裁判言渡ノ旨趣ヲ按スルニ一ニ共犯者カ該兩名ヲ曲庇セシメントシテ手合セシナシシト云フ一點ノ僞供ヲ偏信シ現場臨檢巡查手續書ニ八九名輪坐ヲ爲シ骨子ヲ以テ博戲致シ居ルト云フニ止ルト云フ以テ被告カ現ニ手合セシヲ認メタルニアラストスルハ何ソ事理ヲ誤ルノ甚シキヤ夫レ賭博犯ヲ捕ルヤ數人相集リ博器ヲ弄スルヲ目撃シ逮捕スルニ非ラスシテ其能ク彼此對手ノ氏名ヲ詳ニシ捕得シタルニアラサレハ其効ナシトセハ焉ソ賭博犯ヲ治スルコヲ得ンヤ該犯者ヲ捕得シタル巡查手續書中八九名ノ者輪坐ヲ爲シ骨子ヲ以テ博戲致シ居ルヲ認メ速ニ手配リ現場ニ踏入リ誰々ヲ押ヘタリト明記セシム即チ博器ヲ手ニ取り對手者ト相應シ賭博罪ヲ犯シタルモノト確認スヘキノ明証ナリ若シ之ヲ以テ証トスルニ足ラサル者トセハ他ニ之ヲ証スル者眞ニ稀ナリ況ンヤ其反証ヲ擧ケス輒ク相當官吏ノ證明書ヲ捨テ、單ニ共犯者ノ一言ヲ信シ無罪ト判決ヲナシタルハ斷罪依証ノ法ニ背クト謂ハサルヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ池田福平西川瀨兵衛ニ對シ言渡シタル裁判ハ違法ト判決ナリト思慮ス因テ該言渡ノ取消ヲ求メンカ爲メ此ニ上告ス

辨明

上告ノ主點ハ被告人カ犯罪ノ明証タル巡查手續書ニ依ラスシテ共犯者カ被告人ヲ曲庇セントスル僞供ヲ偏信シテ無罪ト判決セシハ斷罪依証ノ法ニ乖キタルモノナリト云フニアレハ其巡查ノ手續書ニハ唯八九名ノ者輪坐ヲ爲シ骨子ヲ以テ賭博致居ルト云ニ止リ現ニ被告人カ賭博致居ヲ認メタルト謂フニ非ラサルヲ以テ被告人カ犯罪ノ明証ナリトハ認メカタク而シテ共犯者青柳丑太郎外二名ノ口供ヲ閱スルニ被告人ト手合セシト無之トアリテ即チ被告人カ口供ニ賭博セシト無シトアルニ吻合シ其被告人ヲ曲庇セシメ爲メニ爲シタル僞供ナリト認ムヘキモノ毫モアルコトナシ故ニ原裁判所カ共犯者ノ口供ヲ參照シ被告人ノ口供ヲ眞實ノ白狀ナリト信認シ無罪ト判決シタルハ斷罪依証ノ法ニ適シタル裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年十二月十五日靜岡裁判所甲府支廳ニ於テ池田福平西川瀨兵衛等へ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第百六號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年十月廿一日上告
明治十五年二月十七日判決

兵庫縣播磨國飾東郡鍛冶町平民

澤武六郎

明治十四年九月
三十五年二月

三百十七

右武一郎ニ明治十四年九月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
 其方儀明治十四年三月中畑「ウノ」ヨリ衣類等拾五點損料借致ス際証書ニ質入等セサルノ
 文意アレヒ「ウノ」於テ口約ナルモ融通ス許シタルモノニシテ其証據ハ時節ニ適セサル帷
 子モ有之ヲ以テ質入等ニ爲シタル旨辨護スレヒ該品ノ内拾壹點ハ「ウノ」許諾ノ証左ヲ得
 スシテ名前不知者ニ賣却シ代價費用スル處ノ所爲ハ冒認ナリト認定シ右衣類拾壹點ノ賍
 金貳拾九圓拾錢ノ科賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ云々人ノ財物ヲ冒認シテ己レノ
 物ト爲ス者モ賍ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアルニ照シ懲役八十日ノ處明治七年第三百三
 四號公布ニ照シ情狀ヲ酌量シ二等ヲ輕減シ懲役六十日申付ル

但シ官ヨリ探偵セラル、ヲ聞キ自首スルモ其自首狀ノ文意タル衣類等融通ヲ許サレタ
 ル旨云々申告シ他ニ賣却セシ等ノ「書載無キヲ以テ觀レハ不實ノ自首ニ付聞據自首ヲ
 以テ論スルノ限ニアラス且名前等詐稱シ容塵ニ投宿スル罪ハ輕キニヨリ論セス仍ホ冒
 認スル衣類等拾壹點賠償ノ爲メ資力ヲ追ス其他冒認セシ者ニアラサル四點ハ「ウノ」ニ
 返還スヘシ

武一郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月六日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

一畑「ウノ」ヨリ衣類ヲ借り得ルハ本年三月中都度々ナリ該實自分ヨリ「ウノ」ニ金融ヲ示
 談セシニテ彼レヨリ物品ヲ貸シ與ヘテ金融ニ換シモノ也然ルチ「ウノ」カ許諾セシ証ナキ
 トテ冒認セシ所爲ト裁斷アルハ自分不服ニ堪ヘサルノ一端ニテ既ニ借用品ノ内寒天「帷
 子」ヲ貸シ呉レタル等現ニ費用融通ヲ許シタルノ証明ナレハナリ

一畑「ウノ」ヨリ自分ニ係リ節磨區裁判所ニ勸解出願ノ際ト云フモ自分カ手許不如意ヲ以
 テ當郡籠野町三丁目數田善次郎ナル者仲裁シテ約定証ヲ渡シ該訴願下ケテ成シタリ該証
 ノ文意タル延期違約ヲナシ遲滞ノ節ハ請人ノ者償却シテ損雖掛ケ間敷ト明記アリ償却損
 難トアレハ果シテ事實費用ヲ許シタル証明ナリ然ルチ名前不知者ニ賣却シテ代價ヲ費用
 シタリ云々ノ宣告ハ自分カ不服ニ堪ヘサル所以ナリ素ヨリ費用融通ヲ許諾セシナレハ自
 由賣却スルハ無論借主ノ權内ニ在ルアレハナリ且「ウノ」カ告訴ナスニモ約定証ヲ隠藏シ
 自分カ上伸ニヨツテ法庭始テ証書ヲ差出スハ其素費用ヲ詐シタルモ告訴ノ事實ヲ掩ハン
 爲メノ所以ト云ウヘシ然リ而シテ冒認セシト認定セラル、ハ不當ノ裁判ト云ウ可カラサ
 ルヲ得ス

一拾壹點ノ衣類ニ付「ウノ」ヨリ融通許諾ノ証ヲ得サルト云フモ定約以後自分分濟方ヲ等閑
 シ故請人數田善次郎ニ迫ツテ辨償方ヲ督責シ善次郎カ金濟セシモ背セシテ賣却金ノ高
 低ヲ論シ却テ善次郎ニ對シ定約証ノ請人タレハ必ス犯罪ヲ可請者ト恐怖セシメ是レカ爲
 マ善次郎ハ相對上ノ仲裁ニ立入請人トナリ金調シテ濟方ヲナスモ彼レヨリ違約肯セスシ
 テ共ニ犯罪者ナリト脅迫セラル、ハ心得スト雖モ萬一犯則ニ當リ自然罪科ノ在ルアレハ
 相當御處分モ請ケ度ト警察署ニ自首セリト豫テ自分ニ通知モシ自分モ亦タ之レカ爲メ自
 首セシチ物品他ニ賣却セシ云々書載ナキトテ不實ノ自首ナリト宣告アリテ「賊盜律詐欺
 取財條凡官私ヲ詐欺シテ云々人ノ財物ヲ冒認シテ己レノ物ト爲ス者モ賍ニ計ヘ窃盜ニ準
 シテ論ス」トアル裁斷ハ自分ニ於テ不當ノ所置ト思量シ將タ自首ニ於テ決シテ不實ト云

ラ可カラサルヲ得ス
前陳ノ事實這回上告ニ暨ヒ候條何卒姫路支廳ノ御裁斷ヲ更正セラレ公明ノ御所置ヲ下サ
レントナ

辨明

本案ハ原裁判所ニ於テ適用セシ法律ノ當否ヲ上告スルモノニアラスシテ專ラ事實認定ノ
當否ノミヲ上告セシニ止マルモノナレハ本院ニ於テ採用スル限ニ在ラス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ米澤武一郎ニ言渡シ
タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スル者也
第七七號

○判文(懲役人逃走ノ件)明治十四年十一月廿一日上告
明治十五年二月十七日判決

石川縣越中國射水郡小杉三ヶ村

平民長右衛門三男

懲役人

杉本 敬 卯吉

明治十四年十月
二十七年

明治十四年十一月五日金澤裁判所ニ於テ右卯吉ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀懲役終身處刑中再逃ノ刑ニ處ゼラル、身分尙又不慎明治十四年九月二十八日小松

監獄署附屬地字竹島ニ使役中同因吉井榮次郎ノ發意ニ同シ終ニ逃走シ鎌ヲ遺失シタル科
懲役人逃條例并棄毀器物稼穡條ニ依リ遺失シタル三錢竊盜ニ準シ官物ナルヲ以テ一等
ヲ加フル上ヨリ三等ヲ減シ懲役三十日ノ處懲役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖ニ換ヘ逃走罪ニ
併テ棒鎖十一日申付ル

但懲役終身ニ從前ノ通且遺失セシ鎌代三錢取上ルル事ニ依リ
杉本卯吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十四日附テ以テ大審院ニ上告
爲シタル要旨左ノ如シ

一 宣告書中ニ鎌ヲ遺失シタル科云々ト有之ニ既ニ御召捕ノ上直様御用係リ石本嚴殿ニ對
シ該品ハ逃走ノ際一旦持參致シタルハ脱監ノ上直ク石川縣能美郡向本折村行キ付キ某ノ
家名ハ承座敷ノ亭ニ該鎌ヲ差置キタル義上伸仕候處是ハ廻リ道ノ事故跡ヨリ取寄セ可申
知不仕旨御達其後小松監獄署ニ於テ該品ノ義御取糺モ無之金澤裁判所檢事ニ於テモ小松監獄署
ノ通リ相違無之哉旨御達ニ付捺印仕候然ル處該品ハ何ノ御取調ヘモナク斯ノ御裁判ハ
不服ニ付此段奉 上告候間更ニ御再審ヲ奉仰候

辨明

本犯カ逃走ノ際携提セシ鎌ハ家名承知セサル座敷ノ亭ニ差置キタル云々原裁判ヲ不服ナ
リトノ上告ナレトモ明治十四年十月十四日小松警察署ニ於テ爲シタル口供ニ(右逃走ノ際
携ヒタル處ノ鎌ハ奔走中何レニ遺失仕タルヤ覺無之)トアリ而テ金澤裁判所ニ於テハ小
松警察署ニ於テ捺印シタル口供ノ通り相違無之旨申立タルニ非スヤ况ヤ石本嚴ニ鎌ノ事

ナ云々申立タリト云フモ何等証憑ノアルナレ即原裁判所カ棄毀器物稼穡條ニ問ヒ而テ判
文但書ニ鎌代價三錢取上ルト申渡シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十一月五日金澤裁判所ニ於テ杉本卯吉ニ申渡シタル裁判
ハ破毀スヘキ理由ナシ即上告狀却下スルモノトス

第百八號

○判文(骨牌販賣ノ件)明治十四年十一月廿二日上告
明治十五年二月十七日判決

山形縣羽前國東村山郡元北高橋

村平民

岡

崎吉藏

明治十四年九月
五十六年七月

明治十四年十月一日福島裁判所山形支廳ニ於テ右岡崎吉藏ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀自宅及ヒ東村山郡南高橋村齋藤惣五郎所有ノ小屋ニ於テ博奕ニ用フル骨牌ヲ製造
シ販賣スル科改定律例第二百七十一條ニ依リ懲役八十日情ヲ量リ一等ヲ減シ同七十日申
付ル

但骨牌製造ニ用フル器械ハ悉皆取止ル
本院檢事林三助右ノ裁判ヲ不法ナリト認明治十四年十一月廿二日期限外ノ上告ヲ爲シ其
意見書左ノ如シ

山形縣平民岡崎吉藏犯罪ノ件明治十四年十一月一日福島裁判所山形支廳ニ於テ改定律例
第二百七十一條ニ依リ博奕ニ用フル骨牌ヲ賣ル科懲役八十日情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役七
十日但骨牌製造ニ用フル器械悉皆取上ルト處斷ニ及ビタル處右賣得金ハ犯罪ニ因テ得
ルモノナレハ費用ニ係ルト雖モ資力限り之ヲ追徴セサルハ法律ニ違フ不當ノ裁判ナリト
ス其期限外ニ在ルヲ以テ明治九年太政官第八號布告ニ依リ破毀ヲ求ム

辨明

上告事件ヲ審按スルニ應禁物ヲ販賣シ得ル所ノ金圓ハ已ニ費用スト雖モ當時ノ法律ニ在
テハ資力限り追徴スヘキモノニシテ原裁判所ニ於テ其處分ヲ爲サルハ不當ノ裁判ナリ
トス然リト雖モ刑法第三條第三項ニ依リ之ヲ新法ニ照スニ刑法第四十四條ニ犯罪ニ因テ
得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ストアリテ已
ニ費用セシ賣得金ハ追徴スヘキモノニ非サルニ因リ原裁判ハ破毀ノ限ニアラス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年十月一日福島裁判所山形支廳ニ於テ岡崎吉藏ニ言渡シタル
裁判ハ破毀ノ限ニアラストス

第百九號

○判文(出產無届ノ件)明治十四年十一月廿五日上告
明治十五年二月十七日判決

愛媛縣伊豫國和氣郡古三津村平民

遠

藤半六

明治十四年十月卅一日松山裁判所ニ於テ右半六ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十三年十月中孫女ノ出生届ヲ怠ルノ科戸籍法ニ違フヲ以テ雜犯律違式輕ニ問
ヒ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢申付ル

松山裁判所檢事補東野秀彦ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二日司法卿ヲ
經由シテ明治十四年十一月廿五日附本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ旨趣左ノ如シ
愛媛縣伊豫國和氣郡古三津村平民遠藤半六ニ於テハ過ル明治十三年二月中同縣同國伊豫
郡西埴生村平民大原吉五郎カ弟今吉ヲ娘「カメ」ノ婿養子ニ賞イ受ケ其際戸籍上互ニ加除
ノ手續ヲ爲ササル而已ナラズ尙ホ半六ハ明治十三年十月中娘「カメ」カ女子出產ノ届ケヲ
モ亦怠リシ段他ノ取調ニ由テ發覺シ右半六及ヒ吉五郎俱ニ戸籍法違犯ノ者トシテ松山警
察署長愛媛縣五等警部檜山義繁ヨリ其待罪書ヲ添へ送致スルヲ以テ書類點檢仍ホ其事件
ノ性質ヲ按スルニ抑々出產死亡及ヒ其他戸籍上ノ出入ハ人生ノ大事凡ソ百ノ基礎ナレハ
之ヲ明ラカニスヘキハ理ノ當サニ然ルヘキヲ以テ苟モ等閑ニ付シ去ル可カラサルモノト
ス然レモ明治四年四月四日制定ニ係ル所謂戸籍法ナラズモ今按スルニ（今般府藩縣一
般戸籍ノ法別紙ニ通改定被仰出候條管内普ク布告致シ可申事）トアリテ其体方今一般ニ
布告セラル、又文意ト異ナルハ蓋シ戸籍編製ヲ爲ス當時其取扱ヲ爲ス可キ即チ主務官地
方官吏ニ達セラルシモノトシテ直ニ人民ニ般ニ告知セラルル布令書トテ自認異ナルハ
シ左スレハ半六及ヒ吉五郎カ如キ其實戸籍法ニ違背ナルモ直ニ之以テ違令違式ノ罪トシ

テ起訴ノ手續ヲ爲スノ限リニアラサルヘシ但シ愛媛縣ニ於テハ明治十年甲第百九號ヲ以
テ別紙ノ如ク布達セシ以上ハ敢テ之ヲ布達ニ戻ルコトヲ得ヘカラスカモノトス故ニ半六カ
其娘「カメ」ノ分娩ノ届ケ出サリシハ即チ縣令スル處ヲ行ハサルモノト付明治十年第十
三號公布ニ照ラシ處分スヘキモノトシテ公訴及ヒシテ裁判官ニ於テ之ヲ雜犯律違式ノ輕
キニ問ヒ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢科スル旨申シ渡シタルハ刑ノ適用ヲ誤リタルモ
ソト考量スルニ
然レモ半六ニ於テ其娘「カメ」カ分娩ノ届出ヲ爲ササルハ直ニ戸籍法ニ違フモノトシテ
違式輕キニ問擬セシテ假リニ不當ナラサルモノトスレハ吉五郎カ其送籍ノ手續ヲ爲サ
リシモ亦均シク戸籍法ニ背戻スルヲ以テ檢察官ノ公訴ナキモ尙ホ附帶ノ犯罪トシテ罰セ
サルヲ得サルモノニシテ而テ半六ハ別紙松山公立病院醫員永井雅郎診斷書ノ如ク十年以
前ヨリ眼疾ニ罹リ到底不治ノ症ニ陥リシ者ナレハ即チ癱疾者トシテ收贖スヘキモノトス
尤モ本件ノ如キハ事實ノ觀易キモノトシテ警察官吏ノ送致ニ係ル書類ヲ搜查スルニ既ニ
起訴ノ手續ヲ爲スニ足ルヲ以テ直ニ裁判官ニ交付及ヒシニ同官ニ於テハ一回ノ尋問モ無
之其儘健康ノ人ト同シク贖罪ノ裁判ヲ下タセシニ依リ公判ノ手續刑ノ適用ト併セテ不法
ノ者ト思考シ爲念松山裁判所長判事與山政敬へ一應問合セ及ヒシニ右ハ微罪ノ者ニ付習
慣ニ隨ヒ別段本入呼出シ取調ニ不及且ツ公訴狀ニ診斷書モ添へ無之故兩眼失明ノ儀ハ更
ニ承知不致裁判及ヒタル儀ニ有之旨掛判事補森脩ノ書面ヲ添へ別紙ノ通回答有之抑々
檢察官ハ其罪証ヲ得ハ直ニ公訴スヘキヲ以テ本案ノ如キ其實事ノ點ニ於テ他ニ取調ヲ要

ナル所ナキモノト思料スル上ハ更ニ本人ヲ喚問セヌ直ニ公訴ノ手續ニ及ビ且ツ條規違犯ノ者トシテ科スヘキ罰金ハ所謂一種ノ法ニシテ刑法トハ自然殊別アルヘキニ依リ故テニ疾病ノ有無ヲ調査シテ其公訴狀ニ添ヘサルモ敢テ妨ケナカルヘシ但テ裁判官ハ獨立不羈檢察官ノ意見ニ拘束セラル、モノニ非レハ審問上其疾病アルコトヲ知覺スルキハ直ニ其處分ヲ爲スヘキハ論ヲ俟タサルヘシ若シ微罪ノ者ト雖厄止テ檢察官ノ送付スル書類而已ニ据リテ先ツ刑ノ言渡書ヲ作り后チ初メテ被告人ヲ召喚シ一應ノ尋問等モナク直チニ其宣告ヲ爲スノ謂レアル可カラズ此等ハ最モ治罪法ノ精神ニ背クヘキヲ以テ縱令習慣ト雖モ豈ニ甘ンシテ隨フノ理アラシヤ蓋シ聽斷ノ定規ニ背クモ亦甚タシト云フ可シ因テ控訴上告手續第二十九條ニ循ヒ一件書類壹綴并ニ奥山判事ノ回答書及ヒ爲念徴収セシ醫員ノ診判書相添及上告候也

辨明

被告人ノ所爲ハ戶籍法違犯ニ係ルヲ以テ違式輕ニ問擬スヘキ者ニシテ縣廳ヨリ布達スル條規ニ違犯スル者ト爲スヲ得ス何トナレハ明治十年愛媛縣甲第九號布達ハ戶籍法ノ定規ヲ反覆論達スル者ニシテ其布達ニ戻ルハ即戶籍法ニ違フ者ナレハナリ然リト雖モ醫員ノ診斷書ニ依ルニ被告人ハ癡疾者ナルヲ以テ例ニ照シ收贖スヘキ者ナルヲ原裁判所ニ於テ凡人贖罪例ニ照シ處斷セシハ不法ヲ裁判ニシテ破毀セザルベカラズ而シテ刑法第三條第二項ニ依リ之ヲ新法ニ照スニ刑法第五條ニ法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ストアリテ今法律ニ於テ出產届ヲ爲サザル者ヲ罰スルノ正條ナキニ因リ刑

法に問フべきは非也

右以理由ヲ以テ明治十四年十月卅一日松山裁判所於テ遠藤半六ニ言渡シタル裁判決平翻スル左ノ如シ

法律ニ正條ナキニ因リ

無罪

第一百十號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十四年十二月五日上告
明治十五年二月十七日判決

滋賀縣近江國犬上郡芹橋十三丁

目士族

佐

藤 立 次郎

明治十四年八月

二十四年十一月

右立次郎ニ明治十四年十一月二十一日京都裁判所彦根支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル其方ニ對シ公訴アリタル無實ノ貸金証書ヲ詐爲シ詞訟未得財事件審理ヲ遂ル處ニ其方ニ對シ要旨明治十三年四月二日付負債主平田庄三保証人西尾藤藏名義金三拾五圓借金証書ハ明治十三年五月廿二日右藤藏ニ貳拾五圓貸金ノ抵當品トシテ受取置キシ者モ同年七月廿二日ニ至リ右庄藏ヨリ直接ニ頼談ヲ受ケサレ厄其保証人タル藤藏ヨリ陳述スル決信シ

之レニ拾圓金ヲ増貸シ部合金三拾五圓更ニ右庄三ノ貸與セシ姿ニ相改メタルヲ相違ナキニヨリ明治十四年二月右庄三ヲ被告トシ該貸金催促出訴セシ者ナリ且明治十三年十一月二十日付貸債主右藤藏名義金四拾貳圓五拾錢貸金証書ハ既ニ受取ルヘキ月賦殘金拾圓アルト及ヒ同日新ニ三拾貳圓金ヲ貸與セシニ因リ成立セシ者ニシテ右三拾五圓貸金ニ拘ハラサル旨陳述ス又本件共犯者トシテ公訴セラレタル西尾藤藏於テ左ノ事項ヲ供述セリ第一明治十三年十一月廿日ニ至リ右貳拾五圓金及ヒ月賦殘金拾圓都合三拾五圓ニ息金及ヒ手数料ヲ加ヘ合計四拾貳圓五拾錢借金証書ヲ差入レ爰ニ渡シアル月賦金及ヒ右貳拾五圓ノ証書共返戻ヲ受ケタリトノ第二右証書ヲ更改セシ際其方ハ右負債主庄三名義ノ証書ハ其實該金額貸與シアラサルモ裁判所へ出訴スレハ必ス其請求相立ツ可キ旨申聞ケタリトノ第三右同時藤藏ハ其保証人ナルニ付其請求ノ方法如何ト問ヒタルニ其方ハ自ラ債主ト爲リ出訴スルニ付藤藏引合トシテ召喚サレタル節右負債主庄三名義ノ証書ハ正ニ其金額借用セシニ相違ナキ旨答辨致ス可ク其請求金額ハ折半握手スヘキ旨申聞ケタリトノ第四其方ハ明治十四年六月八日右藤藏彦根警察署ヨリ歸宅セシ際警察署ニ於テ尋問サレタル次第ヲ聞キ其翌日右藤藏ニ對シ百圓或ハ貳百圓位イノ金子ニ關ハリ入監スルハ忌ム可キニヨリ右負債主庄三名義ノ証書ハ遺失届ケテ爲スニ付爰ニ返戻セシ右貳拾五圓ノ証書ヲ返シ吳レ可キ旨申聞ケタリトノ而シテ其遺失届ケハ現ニ其町戸長役場へ申出テ其翌々日頃尙又所在分明致シタル旨申出テタル旨其戸長水谷常三郎於テ証言セリ又其方ハ明治十四年六月九日平居幸次郎ナル者へ對シ右負債主庄三名義ノ証書ハ右藤藏へ貸金貳

拾五圓ノ抵當ニ取附置キシモ其本証即チ右貳拾五圓ノ証書ハ右藤藏手許ニ在ルヲ以テ之レカ取戻方ヲ掛合スニ藤藏之レ肯セザルニ付其取戻方チ右幸次郎ニ依頼爲メ右幸次郎ハ其手數ヲ爲シタル旨証言セリ右幸次郎如欲増廣カ以テ之レヲ證據ト事實ニ照スニ其方ハ右出訴ノ際彦根支廳へ呈出セル辨駁書ノ事實ヲ詳述セズ單ニ其金額ハ明治十三年四月全ク貸與セシ旨反駁セシハ事實ヲ隱避シタルモノト見大又其方於テ明治十四年六月九日ニ至リ尙ホ右負債主庄三名義証書ハ右貳拾五圓金ノ抵當品タルヲ自白スルヤ右庄三名義証書ハ無實ナルト以テ徵スルニ足リ加之若シ其方於テ爰ニ右藤藏へ貸與セシ貳拾五圓金ニ拾圓金ヲ増貸シ右庄三名義証書ニ更改セシト眞實ナリトセハ何ヨ再ヒ右貳拾五圓証書ノ取戻シヲ要ス可キ情理アルヤ然ルニ其方ハ尙ホ之レカ取戻シヲ要スルヤ必竟該貳拾五圓証書上右庄三名義証書ハ其金額貸與セシ者ニ非ラスニテ右貳拾五圓貸金ノ抵當品タルト明記アルヲ忌憚スルニ外ナラス夫レ之ヲ忌憚スルヤ右庄三名義証書ニ對シ實際其金額貸與シアラサルニ仍ホ之レアリトシ之レカ償却催促ノ詞訟ヲ提起シ其請求ハ相立タルモ以後本件ニ關シ右藤藏等カ警察署ニ於テ取調及ハル、等ノ一釀生スルヨリ右明記アル証書ヲ他ニ存在セシメナハ事實發露セシトシテ恐懼シ眞心安堵スル能ハサルニ起因セシヤ証徴スルニ足レリ是ヲ以テ其方ハ爰ニ右藤藏へ金貳拾五圓貸與セシ節右庄三名義証書ヲ其抵當品トシテ受取置キ爾后其貳拾五圓ハ之レニ月賦金拾圓及其息金手数料等ヲ合計シ右藤藏名義四拾貳圓五拾錢ノ証書ニ更改シ原ヨリ右庄三名義証書ニ對シテ其金額貸與スラサルニ偶々其証書自己ノ手ニ存在スルヲ奇貨トシ其保証人右藤藏ヲ同意セシメ其証

書記載ノ金額ヲ詐取セシ爲ノ既ニ其手段ヲ行ヒ未タ遂ケサル犯罪者ナリト認定ス仍テ右科賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ未タ財ヲ得サルヲ以テ竊盜未得財者ト同ク論シ士族ナルヲ以テ改定律例改正第十三條ニ依リ除族ノ上懲役四十日答ニ換ヘ答四十二處ス

立次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十九日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

明治十三年四月二日付金三拾五圓家屋敷抵當借主平田庄三証人西尾藤藏連署タル公正証書ニ自分貸主ノ對名ヲ以テ受取タル原由ハ明治十三年五月廿三日豫而知ルル人西尾藤藏自家ニ來リ申出候ニハ拙者ヨリ發シ平田庄三懇意上貸金モ有之處返金方不都合ノ由ニ付如此公正証書ヲ以テ他ニテ金融致吳レ以テ返金ニ充而度由依頼ナレト即今金方ノ目的無之右証書ニ拙者証人トナリ連印致置候間之レヲ抵當トシテ金貳拾五圓貸與吳レ候様頼談ニ任セ貸金致シタル後同年七月二十一日猶又申出候ハ拙者ヨリ兼々平田庄三ニ貸金セシヲ勘定スレハ殆ト右抵當証ノ金額ニ等シク相成ルヲ以テ熟談ノ上右証文ニ其許貸主ノ名義ヲ記入シ庄三カ單一ノ借用分トナシ義務更改ヲナス可キナレバ証面ノ金額三拾五圓ナルモ未タ貳拾五圓ヨリ借用無之ニ付後金拾圓増貸致シ吳レ度ト云フニヨリ熟々勘考スルニ藤藏ヨリ右庄三ニ業ニ已ニ相當金ノ用途モ有之趣左スレバ右抵當ノ証書ニ其儘預リ置クヨリモ直接貸借ト改メルガ一層便利ナル可キト思料シ都合金三拾五圓貸シ渡シ其儘証書

返還シ茲ニ於テ先ニ抵當タル証書ニ名義記入致シ來ラセ候義ニ所固々藤藏ノ言ヲ信シ最初ヨリ庄三ニ直接應對シサリシハ其証役場ノ公証判然ナルト何事モ民事上ノ義務タルハ証書ヲ以テ見認ス可キモノナリト偏シ過信シ証面四月二日付ナルヲ其儘トシテ更ニ同七月ニ宛名ヲ入ルルモ其實五月以來ニ貸金ニテ利子滞モアルハ元金額ノ証書ニテハ不足スレバ其滞利ヲ元金ニ引直サハル換リ本証日付四月二日付ナルヲ以テ一月利子ノ餘分モ有之ニ付差タル過不足ニモ無之間別段書替ノ手順ヲ盡サハルナリ然レモ平田庄三ハ西尾藤藏ノ爲メ遁ル可カラサル事情有テ自カラ重劇ノ義務ニ干渉シタル狀勢ナラハ民事訴訟中ハ偏ニ証面ニ依着シ別段其成立ヲ詳述セサルモ貸金ノ實ナルハ違フコト固々故意奸情ノアルニアラサル義ハ本件民事訴訟ノ顛末ニ照考シテ明カナリ如何トナレハ第一号ノ通明治十四年二月八日民事証中辨駁書ニ曰ク(該金タルハ保証人西尾藤藏ヲ以テ懇篤ノ依頼ニヨリ云々西尾藤藏ニ相渡シ)ト申立タリ其月日ノ如キハ庄三ニ於テ之ヲ承諾スル以上ハ素ヨリ該月日以來ノ義務ヲ負擔セシモノナレハ爲メニ利害ノ來ス可キニアラズ之レ民法上承認ノ義務ヨリ論スルモノト前顯推測上タリ証面ニ依着セシモノナリ倘シ自分ヲシテ有心故造詐爲取ノ念アルモノトモ何レ庄三ニハ相渡サス藤藏ニ渡シタル云々ト不權利ナル事實ヲ申立可キヤ是レ其故造ナキ精神ヲ知ルニ足ル可キノ徵憑ナリ然ルニ京都裁判所彦根支廳ニ於テ詐僞取財條ニ論セラレタルハ實ニ殘念至極ニ存候

第三條

右判文ニ曰ク(又本件共犯者トシテ公訴セラレタル西尾藤藏ニ於テ右ノ事項ヲ供述セリ

云々)トアル第一點乃至第四點及ヒ平居幸次郎ノ証言云々ノ如キニヨリ事實信認セラレタルハ尤モ不當ノ判斷ナリ抑モ藤藏ノ如キハ已ノ罪惡ヲ述テ罰ニ當ランイヲ好ム者ニシテ其之レヲナスヤ必ス他ニ目的ノアルアレハ決シテ可信ノ言語ニアラス何トナレハ藤藏ハ本証三拾五圓ニ對シテハ元該金ヲ請取タルモノニテ証面モ又借主ニ亞シテ証人タル義務者一部ナラス凡ソ義務者其責ヲ免レシトシテ遁辭ノ申立ヲナスハ貸借者流ノ通義ナレハ敢テ怪ムニ足ラス如斯申立ハ自己ノ事ニ付テ証人タルニ等シキモノナレハ之レヲ信ナリト聽セラルハノ如キハ不當最モソ太シキモノナリ

第三條

本件公訴ノ起ルヤ平田庄三ノ自首ニヨルモノナリ其自首タルヤ何ヲ目的タルヲ舉ナルヤ之レカ深意ヲ探糺スレハ本件ハ何レカ奸曲ナルヤ知ルヘシ依テ其事情ヲ述ラレハ平田庄三ノ業ニ已ニ其義務難進ノ裁判ヲ受ケ一時不服ヲ届ケルモ期限控訴ヲナサス是レ其裁判ヲ服從セシハ言ヲ俟タス當不服云々ハ返金姑息ノ一段ニ外ナラス然リ警察署ハ重典云々自首ナルヲ以テ見レハ本証ハ益々信ヲ確スルモノナリ何トナレハ自首ハ悔懼ノ精神ニ起ル其恐ルヤ他ニ同物件ヲテ抵當ニナシアルカ故重不テ爲ス處ヲ抵當則本証ノ爲メニスルモノナリ左スレハ藤藏ハ庄三ノ間更際金圓ヲ受授ニ至テハ是迄藤藏ノ言ヲ信シタルモ今又庄三ノ申立ト矛盾スルヲ見シハ現今如何カ之ヲ豫知スルコ能ハサレハ姑閣キ該証ハ初メ藤藏ニ相渡シ而シテ自分ハ差入アルハ登時庄三ニ於テ承諾ナルハ尙尙於庄三ニ於テ該証所在ヲ知ラス又藤藏ヨリモ何等應答ヲナサレハ苟モ公正証書ヲ他人ニ渡シ自々對

顔ノ間柄數月ノ久シキ其訴ヲ受クル迄無故黙許スルノ理由ナカラシ加之第貳号証ノ通り明治十四年六月四日執行ヲ爲メ財產取調ノ節戸長立會止何人ノ故障ヲ申ス者無之庄三ハ甘シシテ調書捺印ヲナシモ該家屋宅地財產等他ニ抵當賣却アルヲ申述スルコトナシ今初メテ重典云々出首スルヲ聞ク其債主ハ庄三カ實姉ナリ斯ル親屬間ハ骨肉ノ情義ヲ以テ隨分事ノ容隱同謀等ハ間有之モノニテ退テ該件今日迄ノ實況ニ就キ全体ヲ觀察スレハ本件證書ニ對シ損害ヲ蒙ラシムルノ計策カト庄三ノ意底ヨリ又疑フ可シ情勢ナリ況シヤ藤藏ノ如キハ只々証人ノ義務ヲシトスルモ右庄三ニ於テ斯ク抵當品ハ先ニ他ニ賣却スアル重典物トスレハ他ニ又取ル可キノ財產無之ヲ以テ忽チ辨償ノ責藤藏ノ負擔スル所ナリトス顧テ又庄三ノ申立ル如ク藤藏ヨリ金圓請受タルコアラサルモノトスレハ悉皆藤藏ノ詐術ニ陥リ自分并ニ庄三モ共ニ其難ヲ蒙リタルモノナリ之レニ依テ之レヲ觀ルハ一ハ証人トシテ目下辨償ノ義務アリ一ハ詐僞ノ罪人トナリ耻ヲ追徵セラル可キノモノナレハ兩岐何レモ其責ヲ免レサルヨリ急迫此界ヲ脱スルハ該証全權ヲ無効タラシメシトスルハ外術ナシトス爲メ事實ヲ變更シ其共犯ト云ヒ同夥ト云フモ是皆自己ノ義務ヲ免レシトスルノ狡智ニ出ルナルヘシ然ルチ警察官ニ於テハ原告者ノ自ラ權利ヲ抛テ自首スルモノハ如ク最良ノ証人ト見認メ自分ヲ供犯者トシテ公訴セラレタルヨリ漫然藤藏ノ申立ニ信用セラレタレ共之レ事實推測ノ違フ可キモノナリ如何トナレハ藤藏ハ權利者ノ位置ニ在テ自ラ之レヲ出首スルニアラス義務者ニシテ其權利者ニ對シ損害ヲ與ヘントスルモノナリ如此モノハ其反証スル確乎証徴アルニアラサレハ決テ無証口頭ヲ信シ斷テ可キモノニ

アラス然ルニ藤藏ノ申供一トシテ其証アルアラス之レ過信至大シキモノナリ同文ニ曰ク明治十四年六月九日平居幸次郎ナル者ニ對シ右負債主庄三名義以証書ハ右藤藏ニ貸金貳拾五圓ノ抵當ニ取置キシモ其本証即チ右貳拾五圓ノ証書ハ右藤藏手許ニ在ルヲ以テ之レカ取戻方ヲ掛合フモ藤藏之レヲ肯セサルニ付其取戻方ヲ右幸次郎ニ依シ爲メニ有幸次郎ハ其手數ヲ爲シタル旨証言セリ云々幸次郎ナル者ハ平素訟事ノ代人ヲ業トシ至而密託云々ニ付應シ易シ其例証モ可有之人物ナリ証人ノ如キハ尤モ其人々憑而信チ置クモノナルハ藤藏佐擔者中假令若干ノ証人アルモ徒ラ信スヘキニアラス其申述ノ果シテ據ル可キヤ否ヲ考ヘ之ヲ取捨ス可キモノトス然ルニ幸次郎ノ証言ニヨレハ貳拾五圓ノ証書ハ藤藏手許ニ在ルヲ取戻方要メタル如キト雖モ其之ヲ要メテ何ノ効アルヤ今其西尾藤藏ノ申立ニヨレハ元々貳拾五圓ノ借金アリシ處増金拾圓ヲ借受ケ都合金三拾五圓ナルニ該利金ノ滞リテ手數料ヲ加算シ合計金四拾貳圓五拾錢ノ証書ニ相改メ明治十三年十一月廿日自分ニ渡シタルハ右三拾五圓ノ証書ハ舊借用証ト共ニ返還ヲ受ケタル際自分ノ教唆ニヨリ宛名ヲ記入訴訟ニ及ヒ其請求金額ハ折半握手ニキキ約ナリト云ニアラスヤ然リ四拾貳圓五拾錢ノ証書ハ右三拾五圓証書ニ不抱以貸金ニテ是又返却違約スルヨリ明治十四年四月勤解ヲ經テ不調ノ儘今尙所有セリ斯以ノ事實ナルハ平居幸次郎カ申立ノ如ク右三拾五圓證書戻ス可ト云モタルモ何ソ其換書シテ貳拾五圓証書要ムルノ故ナシ知シヤ之レ夫望ムモ藤藏申供ニヨレハ已ニ四拾貳圓五拾錢ノ證書ヲ猶其上ニ貳拾五

圓ノ證チ可渡ノ故アルヤ之レ證書ノ據ル可キキモノニシテ固ヨリ取ルニ足ラサルモノナリ

第五條

前條述ル如ク明治十三年十一月二十日付金四拾貳圓五拾錢西尾藤藏ノ借用證書ト本件三拾五圓ノ平田庄三借主證書トハ判然區別アルモノニテ決シテ混合スルモノニアラス己ニ民事ノ裁判ヲ受ケ執行ノ場合ニ臨ミタル權利ノ證ナリ然ルチ證人藤藏カ通辭ノ一舉ヲ妄信セラレ右判文ノ如ク反テ自分ヲ辱刑ニ處セラレタルハ裁判法律ニ違フモノト信ス願ハ原裁判ヲ破毀セラレ度此段謹テ奉告候也

上告追願書

明治十四年十一月廿一日京都裁判所彥根支廳ニ於テ除族ノ上答四十二被處候所不伏ニ付同年十一月廿九日上告仕候處像テ結約有之同縣下同國阪田郡番場村平民富田甚九郎方ニ養子ニ罷越シ別紙戸籍寫ノ通ニ候此段御届申上候就テハ養父義當七十五歳三ヶ月ノ老衰殊更多病ニ罷在他ニ侍養ノ子孫モ無之候間自分義尙シ上告破毀ヲ蒙ラサルノ場合ニ於テハ養父侍養ノ爲メ何卒寛典ノ思召ヲ以テ本罪収贖ノ御處分被成下度此段奉追願候也

辨明

上告事件ヲ審按スルニ上告人佐藤立次郎ハ法律適用ノ當否ヲ訴フルニアラスシテ犯罪事實ノ認定上ニ付不服ヲ陳辨スルモ到底事實覆審ヲ請願スルヲ趣旨ナレハ明治十年第十九號布告第十條ニ適當セサル上告ニテ本院ニ於テ採用スヘキ限アリ之ヲ將又上告追願書ヲ

以テ養父老衰ニ付侍養ノ爲メ收贖處分ヲ願出ルモ上告ニ併セ出願スルモ之ヲ
ス原裁判所權内ニテ處分スヘキモノナレハ共ニ採用スヘキ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月廿一日京都裁判所彦根支廳ニ於テ佐藤立次郎ニ言渡
タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第百十一號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年十二月七日上告
明治十五年二月十七日判決

廣島縣安藝國廣島區竹屋村平民

木

村 增 藏

明治十四年十一月
二十五年

明治十四年十一月五日廣島裁判所ニ於テ右増藏ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀竊盜ノ科ニ依リ再度處刑ヲ受タル身分尙ホ懲止セス明治十四年九月中廣島區鷹匠
町山木大三郎方材木屋ヘ忍ヒ入り杉板盜取ル贓金六拾錢且ツ廣島區橋本町川原徳次郎方
ニ於テ無代ニテ飲食スル贓金二拾錢余右二罪ノ内一ノ重キ竊盜三犯贓金五拾圓以下ノ科
賊盜律竊盜條ニ依リ懲役十年申付ル

廣島裁判所檢事補吉岡美秀ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十一日司法卿
ヲ經由シ明治十四年十二月六日付本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ
被告人増藏ハ竊盜律ニ依リ兩度刑ヲ受クル後明治十四年九月三十日廣島裁判所ニ於テ詐

欺取財律ニ依リ懲役五十日ヲ打決ニ換ヘ答五十ニ處セラレタリ然レテ其際山本大三郎方
ニ於テ杉板二間ヲ竊盜セルコトヲ包藏シ同十月四日裁判確定打決放免セラレ歸宅ノ途次川
原徳次郎方ニ到リ金錢ノ所持ナクシテ飲食シ隙ニ乘シ逃走セントシ現時捕獲セラレ廣島
縣警察官訊問ノ際襲ニ包藏スル竊盜罪發覺シ既ニ竊盜三犯ニ係レリ依テ本職ニ於テハ被
告人ノ所爲ハ詐欺取財律及ヒ竊盜律ヲ適用シ二罪俱發以重論條ニ依リ處斷スヘキ者ト思
料シ公訴ニ及ヒタリ蓋シ二罪俱ニ發覺シ各贓罪ニ係ルヲ以テ竊盜贓ヲ詐欺取財ノ贓ニ併
スルモ仍ホ罪等シキノミナラス竊盜ハ三犯ナルヲ以テ一ノ重キ竊盜三犯ヲ以テ論シ贓金
五十圓以下例圖ニ照シ懲役十年ノ處其犯罪ハ明治十四年九月二十日以前ニ在ルヲ以テ二
罪俱發以重論條中「若シ一罪先キニ發シ云々重キハ更ニ論シテ前罪ニ通計シ後數ニ充ツ」
ト云ニ照シ爰ニ斷決ヲ經タル答五十即チ懲役五十日ヲ本罪内ニ通算シ既ニ受斷ヲ經タル
ヲ以テ其日數ヲ扣除シ余ル懲役九年ト三百十五日ニ處斷スヘキモノナリト念料スレハナ
リ然ルニ廣島裁判所ハ前掲出スル如ク一ノ重キ竊盜律ニ依リ處斷セシハ適當ナリト雖モ
前罪ニ通計セスシテ單ニ懲役十年ト斷決セシハ擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ス是レ廣島裁
判所カ被告人増藏ニ對シ言渡タル裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

被告木村増藏ハ前ニ賊盜律竊盜條ニ依リ兩度處刑ヲ受ケタル後チ明治十四年九月三十日
廣島裁判所ニ於テ詐欺取財律ニ依リ懲役五十日ノ所刑ヲ受ケ而シテ今回無錢飲食ノ犯罪
糾問中前ニ包藏セン山本大三郎方ニ於テ杉板竊取シタルコト發露シ其犯罪タル則明治十四

年九月初旬タリシハ被告増藏及ヒ事主大三郎増藏ヨリ杉板買受ケタル松尾久次郎ト申述
吻合シ果シテ然ラハ前ノ詐欺取財律ノ所斷ハ今回犯罪後タル明瞭ナルハ檢事補吉岡美秀
ノ論告ノ如ク窃盜三犯懲役十年ノ刑ト二罪俱發例ニ依リ懲役五十日ヲ通算シテ處斷スヘ
キニ原裁判所ノ論決茲ニ出テサルハ法律適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス而シテ所犯
新法施行前ニアルニ因リ之ヲ刑法第三條第二項及明治十四年第八十一號布告ニ依リ新法
ニ比照スルニ第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年
以下重禁錮ニ處ス第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月
以上二年以下ノ監視ニ付ストアルヲ適用シ處斷スヘキモノトス然ルニ前ニ舊法懲役五十
日ノ處斷ヲ經タルヲ以テ第百二條一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若シ
クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス云
々トアルヲ適用シ新法輕シ其輕キ新法ニ依リ處斷スヘキモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月五日廣島裁判所ニ於テ木村増藏ニ言渡シタル裁判ヲ
平翻スル左ノ如シ

刑法第三百六十六條ニ依リ

重禁錮四年

但第百三條ニ依リ前ニ受ケタル舊法懲役五十日ノ刑ヲ通算ス明治十四年第八十一號

木村増藏

第百三十二號

○判文(服役中逃走及盜盜ノ件) 明治十四年十二月八日上告
明治十五年二月十七日判決

茨城縣常陸國東茨城郡野田村平民

長谷川

平兵衛

明治十四年十一月九日水戸裁判所ニ於テ右平兵衛ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀強盜ノ科ニ依リ懲役終身申付置ク處逃走等他ニ在テ黨類申合セ兇器ヲ携ヘ郡村姓
名不知農家ニケ所へ押入金錢物品奪取ル科改定律例第百二十七條中改正條款ニ依リ懲役
終身可申付處懲役終身ノ囚ナルヲ以テ懲役人逃條例及懲役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖十三
日自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免ス

但シ贓ハ資力ヲ以テ追徴ス

水戸裁判所詰檢事高澤重道ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十二日附テ
以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

茨城縣平民長谷川平兵衛外役先ニ於テ逃走シ同夥ト共ニ持兇器強盜ヲ犯シ後チ自首スル
ニ依リ之カ刑ノ適用ヲ求メントシテ公訴ニ及ヒタル處該法衙ニ於テハ別紙ノ如ク擬律ヲ
附シ免罪ノ言渡ヲ爲セリ仰平兵衛ニ於テハ竊盜強盜ノ科ニ依リ懲役終身ノ刑ヲ受ケ役場
ニ在リテ逃走シ更ニ又強盜ヲ犯シタルハ即チ律例第百二十七條改正款及ヒ懲役人逃條例

役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖十三日ニ擬シ而ノ自首スルニ於テハ第三百三條ニ依リ外ニ在
ツテ犯セシ強盜ノ罪棒鎖十日ノ刑ヲ免シ本罪ニ逃走ノ罪棒鎖三日ヲ科ス可キ者トス然ル
チ茲ノ正條ニ依ラズシテ犯罪自首條ニ照シ首免ヲ與ヘタルハ不當ノ裁判ナリトス因テ裁
判破毀ヲ求ムル爲メ上告ニ及ヒ候也

辨明

懲役終身服役中逃走シ外ニ在テ更ニ強盜罪ヲ犯シタルモノ即チ被告人平兵衛ノ如キハ例
第二百二十七條改正條款及増補懲役人逃條懲役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖合テ十三日而テ自
首ニ係ルチ以テ其又犯罪ヲ免シタルハ相當ナレトモ其逃罪ハ事既ニ發覺シアリシチ以テ首
免ヲ與フノ限ニ在ラズ然ルニ原裁判所ハ之ヲ犯罪自首條ニ照シ合テ其罪ヲ免シタルハ不
法ノ裁判ナリトス而テ平兵衛カ當時ノ罪ヲ刑法第三條第二項新舊ノ法ヲ比照スルノ例ニ
照シ明治十四年第八十一號布告第十三條舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ストア
ルニ據リテ處斷スヘキモノトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十一月九日水戸裁判所ニ於テ長谷川平兵衛ニ申渡シタル
裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

長谷川平兵衛

律例第二百二十七條改正強盜律増補懲役人逃條懲役人又犯罪條例及犯罪自首條ヲ適用シ之
ヲ刑法第三條第二項ニ照シ明治十四年第八十一號布告第十三條ニ據リ

棒鎖三日

但シ資力限り追徴スルハ原裁判ノ通り

第一百十三号

○判文(窃盜ノ件) 明治十四年十二月九日上告
明治十五年二月十七日判決

滋賀縣近江國滋賀郡上北國町平民

足

立玉吉

明治十四年八月

四十年十月月

右玉吉カ所爲ニ對シ明治十四年十一月二十六日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ
爲シタリ

其方儀坂下安吉等ヲ同意セシメ又ハ其發意ニ從ヒ池田文吉方外拾三ヶ所へ忍入り物品盜
ミ取ル首贓金九圓九拾壹錢從贓金百四拾貳圓拾八錢ノミナラス石山寺門前外三ヶ所ニ於
テ看守ナキ物品盜取ル首贓金貳圓五拾錢從贓金拾六圓又ハ内田伊之助カ盜贓品タルヲ知
テ吉原榮助ニ代金三圓ニ賣拂ヒノ世話ヲナシ因テ受ル贓金壹圓右犯罪ノ内一ノ重キ竊盜
首從ノ贓金併セテ百五拾貳圓九錢ノ科賊盜律竊盜條ニ依リ懲役十年首從ノ贓併發スルニ
付改定律例第七十二條ニ照シ一等ヲ減シ同七年ノ處量テ一等ヲ減シ同五年申付ル
足立玉吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十日本院ニ上告ノ旨趣左ノ
如シ

抑坂下安吉ナル者ヲ同意セシメタリトアレモ同意セシメタル覺更ニ無之ヲ何ニ依テ斯ク

ノ判決ヲ下サレタルヤ尤其發意ニ同意シ池田文吉外八ヶ所へ忍入りタルコトアレハ外六ヶ所へ忍入りタル義ハ無之其八ヶ所へ忍入り此首贓金九圓九拾壹錢盜ミ取タルハ相違ナシ然ルニ從贓金百四拾貳圓十八錢ノ窃盜ノ從贓金ト認定セラレ盜贓品ノ故買不故買ヲ問ハス押シテ窃盜贓ニ併贓サレタルハ頗ル不服ノ一點ナリ判文石山寺門前三ヶ所ニ於テ看守ナキ首贓金貳圓五拾錢其他從贓金拾六圓ト并内田伊之助カ盜品ト知り吉原榮助へ代金三圓ニ賣拂チナシ贓金壹圓受取タルハ判文ノ如シ右犯罪ノ内一ノ重キ窃盜首從ノ贓金併テ百五拾貳圓九錢ノ科賊盜律窃盜條ニ依リ懲役十年首從ノ贓金併發スルニ付改定律例第七十二條ニ照シ一等ヲ減シ同七年ノ處量カテ五年ニ處セラレタルハ前顯判文ニアル從贓金百四拾貳圓拾八錢ハ窃盜贓金ニアラス盜贓品ヲ情ヲ知り或ハ知ラスシテ買取ナシタル者ニシテ前件百四拾貳圓拾八錢ノ内情ヲ知テ故買ナシタル贓金三拾六圓拾八錢ナリ又情ヲ知ラスシテ買取ナシタル贓金百六圓ヲ從贓金ト認テ窃盜贓金ト一概ニ見做サレタルハ不當ノ處置ニシテ不尽ノ判決ト不言ヲ得ス即窃盜贓金モアリトハ雖モ三拾圓未滿ニシテ盜贓品ヲ故買或典賣ナシタル者ナレハ窃盜窩主條例第五百六條ニ凡盜贓タルコトヲ知テ典賣ノ牙保ナス者ハ典賣スル所ノ贓ヲ計へ坐贓ヲ以テ論シ若シ別ニ金ヲ受ル者ハ窃盜準シ從トナシ重キニ從テ論ストアリ茲ニ因テ愚考スルニ窃盜首從贓金併テ貳拾九圓四拾壹錢ナレハ窃盜三拾圓以下懲役九十日亦盜贓品ヲ典賣故買スル者ハ坐贓ヲ以テ論ストアリ則坐贓金百四拾圓以下懲役九十日トス然ルニ窃盜贓金坐贓金ト兩贓ノ區域ヲ立サセラレス膏ニ併贓チナサシメ窃盜贓金ト見做シ改定律第七十二條ニ照ラサレ減等ノ處斷ヲ蒙リタ

リト雖モ前條ノ如ク尙ホ不服ニ付大津支廳御裁決ヲ破棄願度依テ何分ノ御覆審ヲ奉仰候也

辨明

上告人足立玉吉カ上告ノ主點ハ第一裁判宣告書ニ阪下安吉ヲ同意セシタリトアレトモ同意セシメタルノ覺ナシ第二從贓金ト認定セラレタル百四拾圓余ハ盜贓故買ニ係ル贓金ナリト云フニアリ上告書類ヲ審按スルニ玉吉於テハ始終承招ニ服セサルモ共犯人安吉カ甘結シタル口供中ニ(明治十四年五月廿九日足立玉吉發言内田伊之助自分同意)云々(又明治十四年六月日不覺足立玉吉發言六角庄次郎自分同意)云々トアリ内田伊之助六角庄次郎ニ於テモ同様甘結シタル口供ニ明載アルヲ以テ安吉ヲ同意セシメタル覺ナシトノ申分ハ相立タス第二從贓金百四十圓余ト認定セラレタル云々ハ前辨明ノ如ク共犯人各甘結スル口供ニ玉吉カ共犯人タルノ申立ハ明載アルモ盜贓故買者タルヲ申立アルコトナシ故ニ原裁判所カ共犯人ノ申供ヲ証トシ從贓百四拾圓余ト認定シタルハ法律ニ違ヒタルコトナシ因テ上告ノ趣旨共ニ相立、サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月廿六日京都裁判所大津支廳ニ於テ足立玉吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第四百十四號

○判文(酒類犯則ノ件)明治十四年十二月十四日上告
明治十五年二月十七日判決

愛媛縣伊豫國北宇和郡吉田魚棚
町平民

高月定太郎

明治十四年十一月
二十四日

右定太郎カ所爲ニ對シ明治十四年十一月十五日松山裁判所宇和島支廳ニ於テ左ノ裁判言渡
ヲ爲シタリ

其方儀明治十三年第四十號公布酒造稅則第十一條ニ背キ八月三十一日迄ニ銘酒ヲ皆造セ
サル旨警察官ノ公訴ニ係ルト雖モ右日限迄ニ皆造セサルハ該稅則罰令ニ問ラ可キ者ニア
ラサルヲ以テ罪ノ問フ可キナシ
愛媛縣八等警部藤好乾吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十一日附
以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
凡ソ酒造ヲナスヤ必ス八月三十一日迄ニ皆造スヘキノ事トス然ルチ本犯於テハ右日限内
ニ其手續ヲナサス即明治十三年第四十號公布酒造稅則第二章第十一條ニ背キ八月卅一日
迄ニ皆造セサルノ稜アルヲ公訴ニ及フ處判官ニ在テモ亦該條ニ背キタルノ者ト認定セシ
モ酒造稅則罰令ニ問フヘキ者ニアラサル旨ヲ以テ罪ノ問ラヘキナシト宣告シ別ニ違令ノ
罪ヲ科セズ抑モ酒造稅則ニ在ル罰令タルヤ該稅則中ニ就キ特別ニ設ケラレタル者ニシテ
假令罰令ニ無之モ該稅則ノ條件ニ違犯シタル者アレハ違令ノ罪ヲ問ハサルヘカラサルハ
信シテ疑ハサル處ナリ倘シ然ラスシテ該稅則罰令外ノ條件ハ措テ問ハサルノ者トセハ本

條ノ如キハ徒法ニ屬シ法律ノ効ヲ缺キ公布ツカテ失フモノト云フヘシ依之見之レハ酒造
稅則第十一條ニ違背シ其日限迄ニ皆造セサルハ違令ノ者トシ雜犯律違令ヲ以テ所斷スヘ
キモノト認定セリ
右之理由ナルニヨリ明治十四年十一月十五日松山裁判所宇和島支廳ニ於テ申渡シタル判
決ハ不當之者ト認メ成規ニ依リ上告仕候也

辨明

八等警部藤好乾吉ニ於テハ被告高月定太郎カ所爲ヲシテ酒造稅則第三章第十一條ニ違反
シタルモノニテ違令ノ罪アルモノナリト論告スト雖モ抑酒造稅則ノ如キ第一章稅率第二
章納稅造石檢査第三章禁令雜令第四章罰令ト各其罰スヘキモノト罰スヘキニアラサルモ
ノト明カニ其部門ヲ分ナタル法律ナレハ第二章中ニ掲載罰令ヲ附セサル條項ニ違犯シタ
ルモノアルモ之ヲ雜犯律違令條ニ問擬スヘキ限リニアラストス故ニ原裁判所カ罪ノ問フ
ヘキナシト宣告シタルハ不當ニアラサルナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月十五日松山裁判所宇和島支廳ニ於テ高月定太郎ニ言
渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ヲキモノトス

第百十五號

○判文(服役中逃走及ヒ竊盜ノ件)明治十四年十二月廿六日上告
明治十五年二月十七日判決

神奈川縣相模國高坐郡小山村善

次郎三男當時懲役人

細野 佐一郎

明治十四年十月

明治十四年十月三十一日開拓使ニ於テ右細野佐一郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀嚮ニ東京裁判所ニ於テ強盜ノ科ニ依リ懲役終身ニ處セラレ現今樺戶集治監ニ於テ服役中ノ處本年十月一日同囚加島惣吉加藤庄三郎ノ發意ニ同シ役所ヲ逃走スルノミナラズ對雁村寄留安孫子助右衛門外一戸へ忍入飯櫃外八品ヲ竊取スル贓金壹圓六拾八錢ノ科

明治九年第二十二號布告ニ依リ棒鎖二日申付ル
開拓使七等警部伊藤弘ニ於テ右裁判ヲ不法トシ明治十四年十一月九日付テ以テ司法卿ヲ由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ
本案細野佐一郎ニ於テ集治監ヲ逃走シ百日以下ノ竊盜罪ヲ犯スモノニヨリ懲役人逃條例并懲役人又犯罪條例ニ依リ棒鎖三日ノ上二日ヲ重加スヘキモノトス然ルニ刑法課ニ於テ棒鎖二日ヲ加シタルハ不當ノ裁判ナリトス

辨明

細野佐一郎カ懲役終身服役中役場ヲ逃走シ在外ニ在テ竊盜贓金壹圓以上ヲ犯シタル科ハ明治九年第三十二號懲役人逃條例ニ凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ律竊盜條贓金壹圓以上懲役六十日其初犯強盜ニシテ再犯竊盜ニ係レハ名例律再犯加等罪例條第二項其初犯強盜ニシテ再犯竊盜ナル者云々再犯ヲ雖モ仍ホ並ニ初犯ヲ以テ論シ一

等ヲ加フトアルニ依リ懲役六十日ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日ノ處懲役終身ノ囚ナルヲ以テ仍ホ明治九年第三十二號懲役人又犯罪條例ニ凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ云々トアルニ照シ改定律例第五條ニ依リ棒鎖二日併セテ棒鎖五日ヲ科スヘキ者ニシテ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルモ舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處スヘキ者ナルヲ以テ佐一郎カ犯罪ハ棒鎖五日ヲ科スルヲ相當ナリトス然ルヲ開拓使ニ於テ單ニ棒鎖二日ト言渡シタルハ裁判其當ヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十月三十一日開拓使ニ於テ細野佐一郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

細野 佐一郎

前ニ辨明スル如クナルニ依リ明治九年第三十二號布告懲役人逃條例及ヒ懲役人又犯罪條例ニ照シ

棒鎖五日

第百十六號

○判文(無届遅參ノ件)明治十四年十二月十二日上告
明治十五年二月十八日判決

大阪府西區江戶堀北通四丁目平民

本 多 皆 遵

右皆遵ニ對シ明治十四年十一月廿四日大阪裁判所ニ於テ左ノ如ク言渡シテ爲シタリ

無届遅參スル科明治十年第五號布告ニ依リ罰金二十錢申付ル

本多皆遵ハ右ノ言渡シテ不法ナリトシ明治十四年十二月三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ
一自分儀大阪府下島下郡佐井寺村平民前田重平ナル者ノ委任ヲ受ケ則チ全人ノ代理トナ
リ全府下東區京橋三丁目平野「ミ」ナル者ニ相係ル御裁判執行願上候事件ニ付明治十四
年十一月廿四日大阪裁判所ニ出頭仕候處該日ハ殊ノ外詞訟人多數ニシテ受附所ノ雜踏不
勘之レカ爲着到名刺ヲ捧呈スル不能遂ニ十時后ニ相成タルヲ以テ無届ケ遅參ト名稱チ下
シ別冊寫朱書ノ如ク宣告相成タレモ之レハ是レ自ラ遅參セシモノニ無之受附所ノ官吏御
壹名ニシテ新訴或ハ書面等御調ノ爲メ且ツ詞訟人多數トニ原因シテ自然ニ名刺ヲ捧呈遅
延ニ及ヒタルモノナリ然レハ無届遅參トセラル、ノ理由無之加フルニ明治十年第五號ノ
公布ヲ按スルニ遲不參チ罰スル原由ハ御用ノ差支勘カラサルヲ以テナリト思考仕候夫レ
本件ノ如キ既ニ出頭致シ居レハ名刺捧呈ノ遅延ニ及ヒタルトテ何ソ御用ノ差支アラシヤ
何トナレハ既ニ出頭致シ居レハ口詰役人ヲ以テ御呼込相成タレハ何時モ之レニ應スルハ
ナリ且大阪裁判所并ニ區裁判所ニ於テハ遲參ソ者ハ入門ノ際何時前後入門ト云証ヲ門候
ニ置カサレハ入門ヲ許サレサル慣例ナリ然ルニ自分於テハ例刻入門セシヲ以テ該証ヲ認
メ置キタルハ無之然ルニ大阪裁判所ハ無届ケ遅參トセラレタルハ不法ノ甚シキ處分ナリ
依テ承服スル不能所以判リ

前條陳述スル如ク大阪裁判所ニ於テ宣告相成タル罰金ハ不服ニ付這回上告仕候間何卒ノ
破毀ノ御裁判奉仰候也

辨明

上告事件ニ審按スルニ被告本多皆遵カ呼出當日無届遅參スルモノトシ罰金ヲ科シタルハ
法律ニ違ヒアル裁判ニアラスト雖モ皆遵カ手續書ヲ見ルコ（本日午前九時後入門受付へ
參着致シ候處詞訟入多ク殊ニ同所吏員御一名ニテ御取次難行届就テハ不計十時後ニ及ヒ
候）云々トアリテ其餘白ニ朱書シ無届遅參スル科罰金貳拾錢トノミアリテ其呼出シノ刻
限ノ何時ナルヤハ見ルニ由ナク果シテ遅參ナリヤ又ハ上告人ノ申立理アリトスヘキモノ
ナルヤ判定スルヲ得ス必竟事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月廿四日大阪裁判所ニ於テ本多皆遵ニ言渡シタル裁判
ヲ破毀シ奈良輕罪裁判所ニテ更ニ審判スヘキ旨達シタルニ因リ皆遵ニ於テハ奈良輕罪裁判
所ノ審判ヲ受クヘシ

第一百十七號

○判文（坑法犯則ノ件）明治十四年十一月十五日上告
明治十五年二月二十日判決

福岡縣筑前國柏屋郡炭燒村平民

安川 喜右衛門

明治十四年九月
二十九年三月月
三百四十九

同縣同國同郡同村平民

安川善四郎

明治十四年九月
五十四年二月月

右喜右衛門外一名ニ明治十四年十月廿四日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ

其方共儀曾テ居村字舟石并ニ小川原ニ於テ石炭坑業願受ケ明治十三年九月中其筋ノ許可
ヲ得ス私ニ熊本平助ニ譲リ渡ス而已ナラス明治十四年一月乃至六月借區坑業明細表ニ賣
出代金壹万斤ニ付拾壹圓貳拾錢ナルヲ拾圓ノ割ヲ以テ減書スル科明治六年第二百五十九
號布告日本坑法第十九條及第二十四條ニ依リ該業差留メ減書スル惣高金三拾貳圓ノ三倍
金九十六圓ヲ徴収ス

但明細表中石炭百斤代價金千圓ト記スヘキ處ヲ百圓トセシム故意ニアラス全ク過失

ニ述タルヲ以テ其罪ヲ問ハス

喜右衛門外一名ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二日日本院ニ上告ノ要旨左
ノ如シ

第一條

自分共居村炭燒村ノ儀ハ從來干田多ク干損不勘ニ付一ノ溜池新築ヲ存シ立シナレトモ其資
本ニ乏シク漸次遷延セシ折柄明治十年九月中村民協議ノ上該村内ニナイテ石炭坑業ヲ開
キ其益金ヲ以テ溜池新築ノ費ニ充テヘキ目論見相整ヒタルレトモ該業ノ如キハ數人連帶ニテ

ハ却テ維持ノ方法相立難クニ付當時自分共ハ該村ノ保長役ナリシヲ以テ其主任ニ撰マレ
タルカ故ヘ則チ三人願主トナリ明治十年九月該村内字船石小川原ニケ所ヘ石炭坑業試掘
ヲ願出其御許可ヲ蒙リ尋テ明治十一年五月借區御免狀ヲ拜授セリ然ル處原來自分共ハ坑
業不馴レナルノミナラス當時該坑業ノ景況ニヨレハ日々掘取ル石炭ヨリ費用ノ多過スル
ヲ以テ見ル々々數多ノ負債ヲ醸シタリ然ル處本縣本郡志免村平民熊本平助ナル者ハ數年
該業熟練ノ者ニ付同人ヲ雇ヒ入レ其事務ヲ補助ナサシメハ好結果ヲ視ルニ至ルヘト村
中ノ協議ニヨリ明治十三年九月中ヨリ平助ヲ先ツ自分共手代ニ雇ヒ入レタル事實ハ明治
十四年八月廿二日福岡縣警察本署ヘ差出シ置キタル始末書ノ通りニシテ決シテ平助ヘ該
坑業ヲ譲リ渡シタルモノニアラス然ルヲ若シ眞實平助ヘ譲リ渡シタルモノトセハ該業ヘ
係ル財事ト平助一己コレヲ負擔スヘキハ勿論タリ然ルヲ同人ヘ譲リ渡シタルニアラサル
カ故ニ爾來該坑業ノ財事ハ從前ノ通り今日ニ自分共之レヲ擔任セリ亦タ告訴者瓦田甚三
郎カ提供スル書類ヲシテ坑業讓渡ノ証跡ナルモノトセハ未ダ約ノ如ク互相ニ交換セス啻
ニ甚三郎カ手ニ而已存スルモノナレハ之レヲ以テ讓渡ノ履行ヲ結果セシモノナリト爲ス
ヲ得ヘケンヤ況ンヤ甚三郎カ供出スル熊本平助カ証書ハ同人ニ於テ知ラサルモノナレハ
甚三郎カ平助ト該坑業ノ爲メ同居セシ節平助カ實印ヲ盜捺セシモノト信ス何ントナレハ
該書類ハ甚三郎カ自筆ニシテ其姓名平助カ自書セシモノニアラサレハナリ長シヤ該書
類ヲシテ眞ナルモノトセハ自分共ニ受取ルヘキ該書類ナルニ甚三郎カ之レヲ所持スル中
ニハ其約ノ履行ヲ了ヘサルモノトスモ敢テ贅言ニアルヘカラス況ンヤ該書類ハ曖昧ニシ

テ信スヘキモノニアラサルニテテヤ又タ況ンヤ前陳ノ如ク平助ハ當分雇ヒノ手代ニシテ該坑業ハ本來村中溜池新築ノ備ヘタレハ決シテ平助ヘ讓渡スヘキモノニアラサレハ甚三郎カ提供スル証書ノ如キヲ平助ヨリ差入ルヘキ謂レナキニテテヤ加之讓渡ノ眞偽ニテイテハ炭燒村戸長及ヒ安川伊十郎安川具平安川卯平百田彌作カ保証ニヨリテ讓渡ノ實アラサルハ判然タリ然ルヲ明治十三年九月中其筋ノ許可ヲ得スシテ私ニ熊本平助ヘ讓渡シタル云々(中略)該業差留メ云々ノ御申渡ハ實ニ以テ敬服仕難ク候

第二條

明治十四年一月乃至六月ニ該坑石炭自分共ニ於テ賣出代金ノ平均ハ二万斤ニ付拾圓ニ相當ス然ルニ熊本平助ハ第一條ニ陳明スル如ク素ヨリ堀方從事ノ手代ニシテ賣出シ等ニ干係セサレハ賣却代價ノ如キハ全ク想像ニ出テ其實價ノ如何ヲ熟知セシモノニアラズ然ルヲ平助カ想像ノ口供ニヨリ壹万斤ニ付拾圓ニ拾圓ノ割ヲ以テ減書スル科云々(中略)減書スル惣金高三拾二圓ノ三倍九拾六圓徴収ストノ御申渡ハ自分共ニ於テ甘服仕難ク候

第三條

原來瓦田甚三郎カ告訴ハ其實ナラサルカ故ヘ長崎裁判所福岡支廳亂問係リニテ御亂問中甚三郎カ該告訴ノ曖昧粗漏ナルヲ悔悟シ訴狀ノ取下ケテ明治十四年九月廿二日ト覺ユ)自カラ請願セシハ該告訴其實事ニアラサル証跡最モ著シキモノナリ左アレハ甚三郎ニテケル必竟平助カ証書ノ曖昧ナルヲ以テ斯ク自カラ訴狀ノ取下ケテ申立シモノト云

ハサルヲ得ス夫レ事實斯ノ如クニシテ該告訴者本人甚三郎カ其非ナルヲ自白自辨セシ上ハ全ク讓渡シ云々ハ無實ナルヲ明瞭々々然ルニ明治十四年十月二十四日ノ御申渡ハ何分敬服仕難ク候前條々ノ事實ニ付奉告候條乍恐公明至當シ御裁斷テ伏テ奉仰候

辨明

上告ニ由リ原裁判所ノ簿記ヲ審閱スルニ安川喜右衛門安川善四郎カ明治十四年九月廿一日亂問判事ノ調ニ依リ爲シタル口供ニ自分共及ヒ組合中ヨリ熊本平助ヘ約定書差入レタレ儀ハ無之ヤ御尋問有之右ハ石炭堀出高壹株ニ付金六錢宛揚シ金ヲ以テ坑業ヲサシムヘキ旨丈ケ記載シ本人自分トモハ素ヨリ組合中連署ニ印形スル節銘々宅ヘ持歸リ印形ナシタレハ途中ニ於テ相滯リタルヤモ計難クサリナカラ昨年以來數日ヲ經シモノナレハ篤ク連印相濟平助ノ手ヘ相渡シ有之義ト存シ候事又平助ヘ坑業爲致置クト雖モ双方ヨリ讓渡ヲ相願ヒタルモノニアラサレハ每六ヶ月借區坑業明細表ノ如キハ不相替自分共兩名ヨリ書上ケ致シ明治十四年一月以來六月ニ至ル書上高ハ平助ノ堀出高取調ニ從テ書載代價ハ其前ヨリ五百斤ニテ五拾錢ナルヲ乘シ云々平助ノ賣出實價ハ壹株書上面五百斤五拾六錢ノ由ニテ之ヲ合計百拾万斤ニ乘スレハ千貳百三拾貳圓トナル其金高記載スヘキヲ只貳百圓ト記載千三拾貳圓ノ代價減書セシハ全ク自分共ノ粗漏ニ有之候事トアリ熊本平助カ口供ニ安川喜右衛門安川善四郎其外ノ者共同村字舟石及ヒ小川原ニ於テ石炭坑開業セシニ孰レモ未熟ニテ云々石炭坑ヲ受繼キ坑業ナシ吳ノ度依頼ニ應シ双方種々熟議ノ上石炭堀

出高壹株 五百斤乃金六錢宛ノ揚金ヲ以テ坑業致シ然レモ双方願ヒニ依テ引受シモニア
 ラサル故毎六ヶ月ノ借區坑業明細表ノ如キハ喜右衛門善四郎ニ於テ書上致シ己ニ明治十
 四年一月ヨリ六月ニ至ル書上ハ自分掘出高ヲ取調同人共ニ書面差廻候處自分賣出タル實
 價五百斤ニ付五拾六錢ニ付六錢ノ差違ヲ生シ依テ其六月迄ノ書上總計百拾万斤之ニ實價
 ノ五拾六錢ヲ乘スレハ則千貳百三拾貳圓トナル此高書上ヘキチ貳百圓由記載セシハ全ク
 喜右衛門善四郎ニ於テ粗漏ノ取計ニテ己ニ千三拾貳圓ノ減書高ト相成候事トアリ吉村與
 八カ口供ニ明治十三年ニ至リ暫ク坑業見合置タル處組合安川徳右衛門岩崎榮吉安川善四
 郎ナル者共熊本平助儀ハ年來炭坑ニ從事練熟ノ者ニ付同人ニ坑業ヲ譲リ渡度凡談判セシ
 處同人凡ソ承諾セシ趣ニテ組合ニ同協議ノ上熊本平助ヘ石炭壹株 五百斤乃ニ付金六錢宛
 ノ揚金ヲ以テ同人坑業スル管ニ相決シ則瓦田甚三郎ヨリ提供セシ約定書之ヲ取リ平助ヘ
 坑業ヲ讓渡シタル儀ニ有之候事トアリ之ニ因リ之ヲ觀シハ安川喜右衛門安川善四郎ノ許
 可ヲ得テ炭坑借區坑業ヲ熊本平助ニ讓渡シ且明細表ニ賣代價ヲ減書シテ其筋ヘ差出シタ
 ルハ明白ナルヲ以テ原裁判所カ日本坑法第十九條及ニ第二十四條ニ照シ斷了シタルハ相
 當ニシテ之ヲ不法ト言フヲ得サルモノトス

判決

右ノ如ク決ルヲ以テ明治十四年十月廿四日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ安川喜右衛門安川善
 四郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由無キニ依テ上告狀却下シ此ノ如ク決ルモノトス
 第百十八號

○判文(証券印稅違犯ノ件) 明治十四年十一月廿二日上告
 明治十五年二月二十日判決

井

明治十四年九月
 四十九年六月

明治十四年九月二十八日福島裁判所米澤支廳ニ於テ右環對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
 其方儀青木澹衛ニ差入レタル第一類地所并建築讓與証書ニ証券印紙ヲ貼用セサル科証券
 印稅規則第四則第二條ニ依リ脫稅高壹錢ノ貳拾倍過料金貳拾錢申付ル
 大審院檢事林三介ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十二日附テ以テ大
 審院ニ期限外ノ上告ヲ爲シタル要旨左ノ如シ
 本按井上環カ青木澹衛ニ渡シタル証書ハ負債金若干ヲ代償セラレハ其期地所家屋ノ所
 有權ヲ移轉スヘシトノ約定ニシテ即金圓ノ約定ヲ含有セル証書ナルヲ以テ証券印稅規則
 第二則第二類ノ証書ニ印紙ヲ貼用セサルモノニ付右規則第二條ニ依リ脫稅高貳拾錢二十
 倍ノ過料ニ處スヘキモノトス然ルニ福島裁判所米澤支廳ニ於テ之ヲ証券印稅規則第四
 則第二條ニ依照シ脫稅高二十倍ノ過料金貳拾錢申付タルハ法律ニ違フ不當ノ裁判ナリト
 ス因テ期限外上告破毀ヲ求ム

辨明

本案ノ證書ハ負債ヲ代償スルヲ期シテ所有權ヲ移スル契約書ナシ即金錢約定証文ニシ

チ地所建家讓與証書ト爲スコチ得ス故ニ被告人ハ貳百壹圓餘ノ金額ヲ記載セシ約定証書ニ印紙ヲ貼用セサル科脱税高二十倍ヲ科スヘキ者ニシテ檢察官上告ノ旨趣正當ナルモノトス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年九月二十八日福島裁判所米澤支廳ニ於テ井上環ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

井上環
貳百壹圓貳拾錢ノ金額ヲ記載セシ約定書ニ印紙ヲ貼用セサル科證券印稅規則第二則第一條及ビ第四則第二條ニ照シ脱税高貳拾錢ノ二十倍

罰金四圓

第一百十九號

○判文(費用受寄財産ノ件)明治十四年十一月廿六日上告
明治十五年二月廿日判決

愛媛縣伊豫國野間郡波方村平民

長谷部 玉五郎

明治十四年十月
三十八年八月

明治十四年十月三十一日松山裁判所ニ於テ右長谷部玉五郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀瀨野政五郎ヨリ借用ノ馬馬及ヒ馬具共轡以他人ニ賣却スル賍金廿圓以上ノ科雜犯律費用受寄財産條ニ擬シ坐賍ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役二十日ニ換ヘ管二十中付ル

但右物件ハ買主八木常五郎ヨリ引上タルニ付已ニ受取タル代金七圓ハ返償スヘシ
松山裁判所詰檢事補森田忠雄ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年十一月五日付チ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

玉五郎儀全村平民瀨野政五郎ナルモノヨリ馬並ニ馬具共借受ケ全人ハ瓦石賣込居ル中不
斗不良心ヲ生シ該借用馬並ニ馬具共他人ニ賣渡シタル所爲ハ竊盜ニ準擬シ處分スヘキモ
ノト見認公訴候處松山裁判所ノ裁判ハ雜犯律費用受寄財産條ニ擬シ刑名宣告セリ是ヲ卑
職ハ不當ト見認ルノ理由ハ本犯玉五郎於テ其馬等ヲ預リシモノニ非ス則借用物ナリ費用
受寄財産條ハ他人ノ寄托ヲ受ケ其物品ヲ輒ク費用スルモノヲ處スルノ條ニシテ玉五郎ノ
如キ借用物ヲ他ニ賣却セシモノニ適用ス可キ律ニハ非サル儀ト思量仕候仍該裁判ヲ不當
トシ控訴上告手續第二十九條ニヨリ一件書類相具シ及上告候也

辨明

長谷部玉五郎カ借用ノ馬及馬具ヲ八木常五郎ニ賣却シタル所爲ハ竊盜ニ準シ處分スヘキ
モノトシ原裁判ヲ不當ナリトノ上告ナレモ玉五郎カ所爲ニ觀ルニ瀨野政五郎ヨリ借用中
ノ馬及馬具ヲ販賣シタルモノナレハ之ヲ竊盜ニ準擬シ人ノ財物ヲ冒認シテ已ノ物ト爲シ
タル者ト謂フニ由ナシ何トナレハ玉五郎ノ志趣ハ初メヨリ冒認シ己ノ物ト爲スカ爲メ
借用セシモノニ非ス其借用中一時貧窮ノ苦ヲ凌ノ爲メ不圖生シタル所爲ナレハナリ然レ
ハ原裁判所カ費用受寄財産條ニ據リ處斷シタルモ敢テ不當ト謂フヘカラス

判決

前辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十四年十月三十一日松山裁判所ニ於テ長谷部玉五郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スベキ理由ナキモノトス
第百二十號

○判文(漂流物取扱違犯ノ件)明治十四年十一月廿八日 上告
明治十五年二月二十日判決

熊本縣肥後國宇土郡里浦村百

七十三番地平民

岡山 作 藏

明治十四年十一月

十八年一月

右岡山作藏ニ明治十四年十一月二日熊本裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
檢察官ノ申立及ヒ証憑ノ要領タル被告人ハ河野太平次カ濱邊ニ積置ク處杉木ヲ竊取シタリト云フニ在テ其太平次ノ告訴書并ニ巡查ノ証告書ヲ送付セリ
被告人ノ申立ル要領タル該杉木ハ流木ト思ヒ拾ヒ取リタリト云フニ在リ
然ルニ被告カ流木ト思想シタリト云フ口供ソ直實ナルハ鍋島源七ノ口上書ニ徴シテ明カナリ

右ニ依ルニ被告岡山作藏ハ明治十四年九月十六日宇御舟村濱邊ニ於テ估計金拾貳錢五厘

ニ該杉木ヲ拾ヒ取リ官ニ送ラサル罪ヲ犯シタル者ト確認ス

明治八年第六十六號公布内國船難及漂流物取扱規則第三十六條ニ曰凡漂流物ヲ見付ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分

スベシ第二十八條ニ曰凡テ難船ノ節救助ニ託シテ云々物品ヲ竊取スル者ハ律ニ照シテ處分スベシ賊盜律竊盜條ニ曰贓金壹圓以下懲役五十日
右ノ理由ニ基キ檢察官長阪甚兵衛ノ意見ヲ聽キ被告岡山作藏ニ對シ懲役五十日ノ刑ヲ言渡スベキ處明治七年第三百三十四號公布酌量輕減法ニ依リ二等ヲ減シ懲役三十日ノ刑ヲ言渡ス者也

作藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十一日本院ニ上告ソ要旨左ノ如シ
一被告ハ本件ノ杉木ハ流木ト思想シ拾ヒ置タルモノニシテ未タ官ニ送ルノ時間ナキ内事主ノ名ヲ聞知スルニ付直チニ事主ノ宅ニ該杉木ヲ持越シタルニ事主河野太郎次ハ其之レカ杉木ヲ受取ラスシテ告訴ニ及ヒタルモノナレバ決テ官ニ送ラサルコト罪ヲ犯シ明治八年第六十六號公布ニ抵觸スルノ行爲ニアラサルニ熊本裁判所ハ準竊盜ニ擬シ懲役三十日ノ處斷アリシハ不當ノ裁判ナリト信認ス

診斷書

熊本縣平民肥後國宇土郡里浦村

百七十三番地

岡山 作 藏

十八年一ヶ月

(體質)強壯(病名)骨疽及足關節強直(原因)骨膜炎(症候)左脛骨下端ニ漏管アリ膿汁不斷流出シテ疼痛アリ且ツ足關節強直シテ歩行充分ナラス(經過)明治十二年十一月

廿七日ヨリ左足下脚ニ發歇性劇痛ヲ發シ殊ニ夜間ニ甚シ續テ赤色腫脹シ三月月間ニ
ノ膿潰シ爾后後更ニ胎スヲ症候ニ條ニ述フルカ如ク然リ(豫后)至治ノ目的ナク(治
法)石炭酸水ニテ患部洗滌
右之通及診斷候也

熊本醫學校一等教諭

明治十四年十一月十日

濱田 玄十郎 達

被告ハ該癩疾者ナルコトハ飽迄申立テ置キタルニ由リ檢察官ノ面前ニ於テ裸体ニナシテ檢
査アリタルニ付懲役ニ處セラル、譯合ナシ該熊本醫學校一等教諭濱田玄達診斷書ノ通癩
疾者ナルニ懲役三十日ノ處斷アリシハ抑不當ノ甚シキ不服ノ一點ナリ如何トナレハ名例
律老少癩疾收贖凡年七十以上十五以下及ヒ癩疾者死罪ヲ除クノ外流罪以下ヲ犯ス者ハ收
贖ストアルカラハ收贖スヘキノ罪ナルニ原裁判所ノ裁判ハ、出テスシテ前書ノ通り
處斷アリシハ不當ノ裁判ナリトス
右ノ旨趣ナルニ付醫師ノ診斷書相添熊本裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ公明ノ御裁判奉仰候
以上

辨明

被告岡山作藏ニ於テ本件杉木ノ流水ト思想ヲ拾ヒ置クモ未官ニ送ルノ時問ナキ云々申立
ルト雖モ作藏ガ自由任意ノ口供ニ杉木壹本拾テ在ルニ付拾ヒ取り候チヨカロウト不圖欲
心生シ拾ヒ取私宅ノ様持歸居候云々下有之ニ依レバ之ヲ官私ニ送ルノ念慮アル者ト言フ

ナ得ス故ニ作藏カ所爲ハ明治八年第六十六號布告内國船難破及ヒ漂流物取扱規則第三十
六條及ヒ第二十八條ニ依リ仍ホ雜犯律改正得遺失物條ニ照シ窃盜ニ準シ一等ヲ減シ懲役
四十日ニ處斷ス可キ處醫師福原清慎カ診斷書ヲ閱スルニ本犯ハ腐骨瘡トアルニ依レハ癩
疾者ナルヲ以テ名例律老少癩疾收贖條ニ照シ聽贖ス可キモノトス然ルニ原裁判所カ難破
船及ヒ漂流物取扱規則第三十六條第二十八條ニ依リタルハ至當ナルモ賊盜律窃盜條ニ擬
斷シタルハ法律ノ適用ヲ失シタル不法ノ裁判ナリトス而テ之ヲ新法ニ照スニ刑法第三條
第二項及ヒ明治十四年第八十一號布告第七條ノ末項ニ依リ舊法ヲ以テ處斷スルヲ相當ナ
リトス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年十一月二日熊本裁判所ニ於テ岡山作藏へ申渡シタル裁判ヲ
平翻スル左ノ如シ

岡山 作藏

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治八年第六十六號内國船難破及ヒ漂流物取扱規則第三十
六條第二十八條ニ依リ改正得遺失物條ニ照シ窃盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ懲役四十日ノ
處情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役二十日仍ホ改正贖罪收贖例圖ニ照シ
收贖金五十錢

但拾ヒ取タル杉木遺還ス

第百廿一號

○判文「集會條例犯則ノ件」明治十四年十一月三十日上告
明治十五年二月廿日判決

兵庫縣播磨國揖東郡天滿村住平
民當今下京區第二十六組都市町
野田駒方止宿

楫

東正彦

明治十四年十一月
二十六年九月

右正彦ヨ明治十四年十一月二十一日京都裁判所ヨ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
汝ニ對シ檢事補川畑克ヨリ公訴シタル集會條例違犯事件遂審理處檢事補ハ汝ニ明治十四
年十月八日上京區第十二祖米屋町迎悅舎ニ於テ會主トナリテ非政談演說會ヲ開キ徒法ハ
設ケサルニ如カストノ事項演說中政治ニ關スル講談論議ヲ爲シタル所爲アリト汝ハ糾問
掛ノ訊問ニ答ヘタル通ニ近ク人ノ耳目ニ慣レタル法律語ヲ以テ例ヲ擧ケシモ政治ニ關ス
ル講談論議セシ事ナシト陳辨ス然ルニ明治十四年十一月七日糾問掛ニ於テ汝ノ摺印シタ
ル調書ニ一大邦家ノ規則ヲ立ンニ云々又集會條例ノ目的ハ國安妨害者ヲ制裁スルニアリ
甲六十八號ハ無届ニテ政談ニ涉ル者ヲ豫防スルニアリ云々又集會條例カズツテモ自由言
論ニハ差支ナシ云々又集會條例ノ如キ繁密ナルモノニテ今世人カ鬼ノ如ク恐ル、
其理ヲ究メテ考フルルハ左マテ恐ルベキモノニアラズ云々ト本以テ監視警部ノ聞取書ニ今日
本ニ集會條例カズツテ我々ハ口ヲ閉ジテ居ルニ由リテ其理ヲ明カシテハ其理カズツテモナラ
ズ徒法ニシテ壓制ヲモノスル云々ニ照シ且ツ論議ニ由來天下ノ胡者ノ私有物ヲ又ハ徒

法ハ設ケサルニ如カス等掲載スルヲ見レハ汝ハ京都府下ニ於テ政談演說スルヲ禁セテレ
タル身分ナルヲ以テ名ヲ非政談演說會ニ藉リ而シテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議シタル
モノナリトス然レハ集會條例第一條ノ手續ヲ遵行スヘキモノナルヲ以テ之ヲ遵行セザリシ會
主ナルヲ以テ同條例第十條ニ依リ二十日ノ禁獄ニ處スルモノ也

正彦ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十二日本院ヨ上告狀及十一月廿
八日追加書ノ要旨左ノ如シ

明治十四年十一月廿二日上告狀

自分カ裁判ヲ不當トスル要點ハ明治十四年四月三十日京都府下ニ於テ政談演說スルヲ
禁セラレタルレ普通談論ヲ禁セラレタル者ニ非ス故ニ明治十四年十月七日八日ノ學術會
ハ開會前日ニ京都府甲第六十八號ノ條規ヲ履行シ上京警察署ニ届出タル論題ノ事項ハ非
政談學術會ナルヲ以テ之ヲ聞置カレタリ然ルニ連夜數十回ノ演說中スレノ論題徒法ハ設
ケサルニ如カスト云事項中談適マ政事ニ關スル事項ニ涉ルモ固ヨリ政談ヲ爲スノ目的ニ
非ラス然ルナ今京都裁判所カ情法相適セサル集會條例ヲ履行ス可キ者トスルハ不當ノ裁
判ナリトス

明治十四年十一月廿八日追加書

自分カ明治十四年十一月七日糾問掛ニ於テ答ヘタルハ皆ナ本論ニ付テノ細辨ナレ其思
想ハ固ヨリ政治ヲ談論スル目的ニ出テス單ニ法ト云語ニ就テ有効ノ法ト無効ノ法トナ例
証スルニ當リ手近ク現行律ノ名目ヲ假用シタル迄ニテタトハ今現行スルトコロノ集會

條例ヲ有効ノ法トシテ之ニ反シタル無効ノ法ヲ説示スルノ道具ニ供用シタル迄ナリ固ヨリ今ノ現行律ヲ徒法ナリト指稱スルノ念思ニ非ス故ニ其ノ始終ノ論勢ヲ以テ言ヘハ今ノ法律ハ人情ニ適シタル有効ノ者トスルモ若シ之ヲ彼ノ黄金世界又ハ道德世界等ノ如キ最上級ノ開化ノ度ニ達シタル場合ニ於テ其ノ人情ニ適セサル地ニ施行セハ金玉ノ法律モ或ハ無効ノ者ト爲ルコトアル所以ヲ説キ示シ法ハ活物ナリト云意味高尚ナル理論ヲ卑近ニ弁明シタル迄ナリ然ルヲ今此ノ言渡シニ政談ヲ目的トシタル者トスルハ全体ノ論勢ヲ誤認シタル者ニテ實ニ不當ノ裁判ナリトス

監視警部ノ聞取書ハ長キ演說中所々切リ抜キ多ク單語ヲ集メタル者故語勢連續セス加ルニ助字テニハ等ヲ誤脱スル者ナレハ未ダ証トスルニ足ラス却テ反對ノ論旨ヲ作爲スルニ至ル今一ナ例舉セハ徒法ニシテ壓制ナモノ云々ハ是レ語ヲ爲サス却テ反對スルノ的証ナリ夫レ既ニ徒法タル以上ハ壓制ナルコトナシ徒法ニ非サル活法律コソ壓制トモ爲ルコトアル可ケレモ活動シテ壓制ナル者カ徒法ニシテ無用ナリト云理ハ毛頭無キコトタルヤ明白ナリ故ニ如之聞取書ハ演說ノ語ヲトコロハ、切リ集メタル者ナレハ決シテ證據トス可ラス然ルヲ其ノ不充分ナル聞取書ヲ以テ論者ノ思想カ政談ヲ爲スノ目的ニ出テタリト云ハ尤モ不當ノ裁判ナリトス

論題ニ由來天下ハ胡者ノ私有物シ又ハ徒法ハ設ケサルコト如カ等掲載スルモ固ヨリ開會前日ニ京都府甲第六十八號即チ左ノ明文ノ如キ

政事ニ關セサル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會前日迄ニ講談論議ノ事

項ヲ記シ所轄警察署ニ届出可シ此旨布達候事
 明治十四年五月十日

京都府知事北垣國道

右ノ條規ヲ遵行シ其ノ論題并ニ事項ヲ記シ所轄警察署ニ届出所轄警察署ハ之ヲ學術會則チ非政談會ト確認シテ無異議開届ケタリ故ニ監視官チ會場ニ派出シ公然開會シタル演說論題ナレハ前夜ヨリ數十回ノ講談論議ニモ一ノ政事ニ涉ルコト無カリシヲ以テ見レハ亡論自分正彦即チ學術會主ノ目的カ故意ニ政談ヲ爲スニ出テサルヤ明白ナリ加之此ノ二論題中一ハ因縁理又ハ造物神等カ世間ヲ左右ニ支配スルト云ノ是非ヲ判斷スル教法學ノ論題ニシテ一ハ古代ヨリ傳唱スル聖語ノ理義ヲ辨明スル法律學ノ論題タルニ過キサルヤ該論題ノ事項書ニ於テ照々タリ然ルニ之ヲ固ト政談ヲ目的トスル者ナリト云ハ尤モ不當ノ裁判ナリトス

自分ハ明治十四年四月卅日京都府下ニ於テ一時政談演說スルコトヲ禁セラレタルコトアルモ總テ自由ノ談論ヲ皆禁セラレタル者ニ非ス然ルニ非政談則チ學術上ノ演說中ニ談論適マ一ノ政談類似ノ部ニ涉リタルモ既ニ其會場ニ於テ中止開散ヲ命セラレタル上ハ集會條例第六條ノ處分ヲ經タル者タレハ毛頭國安ヲ妨害スルノ論旨ニ非サル以上ハ之ヲ故意ニ政談ヲ目的ト爲ス者トシ條例第十條ニ依リ處斷セラレハ誣ニルノ甚キ者ナリトス抑徒法ハ設ケサルニ如カスト云學術上ノ論題ニ付テ徒法ト活法トノ比較ヲ示スニ當リ適マ現行律ノ名目ヲ假用シタルハ固ト政談ヲ目的トシタル者ニ非ス最初之ヲ届出タル事項書ノ通り全ク學術上ノ論題タルニ相違ナキハ所轄警察署ノ之ヲ非政談ノ論題ナリト確認

ノ聞届ケタルヲ以テ証スルモ明瞭ナリ然ルナ情法相適セサル政談ヲ目的トスル集會條例
第一條ヲ遵行ス可キ者トシ同條例第十條ニ依リ處斷セラルハ最モ不當ノ裁判ナリトス

辨明

上告人ニ於テハ政事ニ關スル事項ニ涉ルモ政談ヲ爲ス目的ニ非ス又監視警部ノ聞取ニハ
幾分カ誤リアルヘクニ付証トスルニ足ラス云々ト申立ルト雖モ其目的ハ非政談ニ在リト
スルモ其立論ノ涉ル處政論ニアラサルナキハ現場出張警部ノ証告書ニ就テ明瞭ナリ將又
現場出張警部ノ証告シタル云々ハ之ヲ証トスルモ之ヲ証トセサルモ則チ承審判官ノ意証
判斷ニ屬スルヲ以テ濫リニ証トスルニ足ラサルモ之ヲ分ハ立チ難ク因テ原裁判
所カ集會條例第一條第十條ニ依リ處斷シタルハ不法ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十一月二十一日京都裁判所ニ於テ揖東正彦ニ言渡シタル裁
判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第百廿二號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年十月廿八日上告
明治十五年二月廿一日判決

福島縣岩代國那麻郡壺揚村平民

吉

右兵吉カ所爲ニ對シ明治十四年九月十四日福島裁判所若松支廳ニ於テ左ノ裁判言渡シテ爲

シタリ

其方儀福島縣巡查大塚多喜衛ナル者監守スル金圓ヲ同人カ私借費用ニ返償方因却スル迎
無實ノ受取証書ヲ偽造シ其方ヲ受取人トシ勘定帳ヘ仕組タル後チ事已ニ發露セントスル
ニ際シ右偽造ノ事實ヲ明シ該金圓受取タル旨ヲ手續書チ差出吳之可キトシ依頼ヲ受ケ而
シテ右証記載ノ金九拾錢ヲ受取又偽造ノ手續書チ差出タル右科ノ内一ノ重キ改定律例第
二百四十六條ニ依リ不應爲重ニ問ヒ懲役七十日申付ル

但受取タル金九拾錢ハ取上ル

福島縣八等警部山口享藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十日付ヲ以テ
司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右裁判タルヤ福島縣巡查大塚多喜衛カ監守セシ金員私借費用シ其返償方因却スルヨリ土
屋兵吉名宛ナル虛實ノ受取証書ヲ偽造シテ勘定帳ヘ仕組タル事已ニ發露セントスルニ
際シ右偽造ノ事實ヲ明シ爲メニ金九拾錢ヲ投與シテ該受取書ニ就キタル手續書チ差出シ
吳ル可キトノ依頼ニ應シタルモノナレハ敢テ數罪アルトハ爲シ難シ果シテ然ラハ其得タ
ル九拾錢ノ脏ヲ以テ枉法ニ準シ處斷スルヲ相當ト考量セリ依之該裁判不當ト見認メ別紙
一件書類相添ヘ此段及上告候也

辨明

上告ノ要旨ハ被告人土屋兵吉カ所爲ハ枉法ニ準シ處斷スルヲ以テ相當ナリト申立ルト雖
モ枉法ハ官吏公務ヲ行フ場合ニ於テ或ハ生スル事ニ就テ論擬スルヲ得ヘキモノナルモノ

ナルモ本件ノ如キ被告人兵吉カ所爲去罰スルニ律ニ正條ナキモノナルニ因リ原裁判所ニ於テ前ニ掲ケル如ク不應爲重ニ問ヒタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月十四日福島裁判所若松支廳ニ於テ土屋兵吉へ申渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第二百二十三號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年十一月廿五日上告
明治十五年二月廿一日判決

和歌山縣和歌山區日片浦國聖寺

前町七番地平民兒島文之助事

山 田 樵 太郎

明治十四年十一月
二十一年五月

右樵太郎ニ明治十四年十一月九日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方ニ對シ前科包藏本件ニ付檢事ノ公訴ニ依リ遂審問處
被告樵太郎ニ於テハ當裁判所ニテ拘摸再犯ノ處刑ヲ受ル身分尙ホ明治十四年九月十五日
拘摸ノ科ニ依リ處刑ヲ受ル際前科ヲ包藏シ三犯ヲ初犯ト僞リ答五十ニ被處タル旨申立タ
リ
右科律盜竊ニ依リ三犯五拾圓以下懲役十年曩ニ論決ヲ經ル答五十ヲ控除シ剩ル懲役九年
ト三百十五日申付ル

樵太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十九日本院ニ上告 要旨左ノ如シ
自分義明治十四年九月一日大阪府下御靈神社境内ニ於テ往來人今井「ナツ」ノ頭髮ニ挾ミ
アル珊瑚珠玉入簪ヲ拘摸スル贓金貳圓五拾錢ノ科懲役六十日ノ處從タルヲ以テ一等ヲ減
シ士族ナルヲ以テ除族ノ上打決ニ換ヘ答五十ニ被處タリ其節前科有無嚴シク御取糺有之
タレモ自分ニ於テハ是迄御處刑相受タル事決シテ無之旨申陳仕候其後明治十四年十一月
九日尙大坂裁判所ヨリ御呼出ニ相成嚴シク前科ノ有無御糺問ニ相成タレモ自分ニ於テハ
決テ前科無之旨陳述致シ置キタルヲ宣告文中ニ明治十四年九月十五日拘摸ノ科ニ依リ處
刑ヲ受ル際前科ヲ包藏シ三犯ヲ初犯ト僞リ答五十ニ被處ル、旨申立タリトアレモ自分ニ
於テハ右様ノ無實ノ陳述ヲナシタル覺ヘ聊カ無之又三犯ヲ初犯ト僞リタルモノナレハ除
族ノ上管五十申付ルノ明文有之筈ナシ此ノ明文ニ依テ前科ノ有無明瞭タリ然ルニ三犯ヲ
初犯ト僞リタルトテ御處分有之タルハ自分不服ニ御座候
右ノ理由ナルニ付御覆審ノ公判アラントテ奉切願候也

辯明

上告人ニ於テ拘摸ノ科ニ因リ處刑受ル際前前科ヲ包藏シ三犯ヲ初犯ト僞リタルヲ無之旨
申立ルト雖トモ其三犯ヲ初犯ト僞リタルヲハ明治十四年十一月一日大阪裁判所ニ於テ爲
シタル口供ニ自分儀囊ニ兒島文之助ト稱シ再度處刑ヲ受ケタルヲ相違無之然ルニ檢事ニ
於テ訊問ノ節決シテ文之助ト唱ヘ處刑ヲ受ケタルヲ無之旨主張致居候ヘトモ右ハ全心得
違ニテ實ハ此度盜竊三犯ニ相成重キ御處刑可相成ト存一時申僞居リ候段今更後悔忍入候

事トアルノミナラス明治十四年八月五日拘摸及ヒ其他ノ罪ニテ杖八十ノ刑ヲ受ケ明治十四年八月五日拘摸再犯ノ罪ニテ杖六十ノ刑ヲ受ケタルコトハ原裁判所當時ノ簿冊ニ於テ明瞭ナリトス故ニ原裁判所ニ於テ窃盜律ニ依リ三犯五拾圓以下懲役十年糺ニ論決ヲ經ル答五十ヲ控除シ剩ル懲役九年ト三百十五日ニ處斷シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年十一月九日大阪裁判所ニ於テ山田樵太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第百廿四號

○判文(窃盜ノ件) 明治十四年十一月廿八日上告
明治十五年二月廿一日判決

島根縣出雲國島根郡菅田村二百

五十七番地平民

吉

岡 平 重
明治十四年十一月

四十六年

右平重カ所爲ニ對シ明治十四年十一月八日松江裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲タリ

窃盜ノ公訴ニ依リ裁判スル左ノ如シ

被告於テ明治十四年九月五日夜竹下岩一郎宅へ忍入り釜壹個窃取シ明治十四年九月六日

島根郡西茶町木村六右衛門へ賣却セシ覺ヘナシ已ニ同日即チ明治十四年九月六日ハ獨行

ニテ佐陀神社へ參詣ノ爲メ出發不在ナル旨辨護スルト雖モ其參詣シタル証憑ヲ表舉スル

能ハス且西尾虎市和田伊助ヨリ被告カ該釜携帯シテ買取方ヲ依頼セシコトアリト証述スル

耳ナラス已ニ木村六右衛門カ該釜ヲ被告ヨリ買取ケタリト証明スルヲ以テ視レハ被告ハ

明治十四年九月五日夜竹下岩一郎宅へ忍入り釜壹個窃取シシルモノト認定ス右罪賊盜律

窃盜條ニ依リ窃盜三犯贓金五拾圓以下懲役十年申付ル

吉岡平重ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月十七日付ヲ以テ本院ニ上告ノ

要旨左ノ如シ

第一條

一自分義明治十四年十一月一日松江警察署ヨリ拘引ニ相成出頭仕候處島根縣監獄本署へ

假ニ拘置申付ラレ明治十四年十月三日松江裁判所檢事調庭ニテ岸本重整殿ヨリ其方義島

根郡西茶町木村六右衛門ナル者へ三升焚釜壹個賣却セシ哉ト訊問ナリ自分於テ右様ノ品

六右衛門へ賣却セシト曾テナキ由主張シ岸本重整殿ヨリ然テハ六右衛門ヲ呼出シ對決カ

セントアリ自分何時ニテモ不苦ト答辨シ明治十四年十月十一日御呼出シヨ相成右木村六

右衛門ト對決ノ際自分六右衛門へ三升焚釜壹個自分ヨリ買取タルト告訴セシハ不都合ナ

リ何ヲ以テ右様ノ空言ヲ告訴セシ哉ト追タル六右衛門ヨリ奥谷町石橋藤右衛門ト名乘三

升焚釜壹個携帯シ買受タル人体此者ニ能ク似タルト上伸シ岸本重整殿ヨリ曖昧タル上伸

ナリ判然申立ト仰セラレ其意ヲ察シ赤面ノ躰ニテ六右衛門漸々此者ニ相違無之ト上伸シ

岸本重整殿ヨリ六右衛門ハ退席可然トアリ而テ自分へ已ニ六右衛門ヨリ石橋藤右衛門ト

僞名セシハ全ク其方ナリト上伸セシ服罪致セトアリ譬ヒ如何様ノ義上伸タルモ自分六右

衛門ト對決ノ際自分六右衛門へ三升焚釜壹個自分ヨリ買取タルト告訴セシハ不都合ナ

衛門へ該釜賣却セシコ曾テ無之幾重ニモ御取糺シ被下度ト主張シ岸本重整殿激發シ已レ是迄ノ犯罪ヲ申立トアリ自分於テ明治九年三月ノ度不實ノ伸告ニ依テ答三十ニ處セラレ明治九年四月ノ度松江裁判所へ貸金催促ノ訴ナシタル際誤テ足駄ヲハキ替タルコトヲ主張スルト雖モ其ノ申分不立依テ答五十處セラレ明治十二年九月ノ度意宇郡寺町字八百屋畑稻荷神社へ心願ニ付參籠セシ折柄惡ルモノ、爲ニ松江警察交番所へ拘引ニ相成巡查ヨリ稻荷神社へ參籠スルニ持主へ無斷ニシテ籠リタルハ心願ニアラス是ハ散錢ヲ竊取シタルモノト嚴敷拷問アリ自分共苦シキニ堪カテ不實ノ口供ニ捺印セシ依テ懲役六十日申付ラレタル明治十三年一月ノ度島根縣出雲國能義郡黒井田村青戸惣十ナル者ヨリ家屋買受ケ取引差違レ松江警察署へ御取糺シ義出願候處不實ノ証書ヲ作り吟味ヲ願ヒテ明治十三年二月七日ヨリ同十三年三月十六日迄用宿へ拘留ニ相成同十三年三月十七日松江裁判所糾問掛リヨリ入監申付ラレ島根縣監獄本署へ在監シ追次御審糾ノ未明治十四年五月十七日御呼出シニ相成刑事法庭ニ於テ宣告申渡サレ宣告書寫シ左ノ如シ

其方義無實ノ証書ヲ作り吟味願ヒナシタル罪アリトシテ島根縣警部ヨリ糾問ヲ求ニ依リ訊問ヲ遂ル處犯罪ノ證據充分ナラサルニ依リ釋放申付ル

明治十四年五月十七日

右ノ通り被申渡明治十四年五月十七日放免ニ相成尤自分於テ是迄犯罪數々有之ト雖モ該釜ヲ六右衛門へ賣却セシ覺へ無之原告六右衛門カ告訴狀ニ該釜代價金六拾錢ニ積リ白米

松江裁判所
糾問掛

三升五合ト金貳拾七錢五厘ヲ渡シ姓名ヲ尋ルニ奥谷町石橋藤右衛門年餘五十余歳ノモノト見留タルトアリ然ルニ自分義ハ四十余歳ナリ六右衛門姓名ヲ記載シ年齢ヲ見覺へナカラ今ニ至リ十歳ノ人昧ヲ見違スルト有間敷依之不服ノ一點ナリ

第二條

原告木村六右衛門於テ買取タル該釜ハ島根縣出雲國意宇郡雜賀町竹下岩一郎裏屋敷殿リ等ナキ茶園ノ傍ニ掛ケ置タルト上伸セシ然ルニ裁判罰文ニ竹下岩一郎宅へ忍入釜壹箇竊取シタルモノトアリ依之不服ノ一點ナリ

第三條

明治十四年十月十五日御呼出シニ相成出頭候處檢事調庭ニテ岸本重整殿ヨリ其方儀木村六右衛門へ該釜賣却セシ覺へナキト主張スルト雖モ己ニ西尾虎市和田伊助兩名ヨリ該釜ヲ携帶シ買取方依頼セシト証述セシ速ニ服罪シヘシトアリ自分於テ覺へナキコト服罪ナリカタキト主張シ岸本重整殿大聲ニテ己レ三犯ヲ述レント強情ナリトアレモ全ク強情コアラズ是ハ自分義ト虎市ト遺恨アリテ虎市其恨ヲ晴サント六右衛門ト談合セシモノナリ何トナレハ西尾虎市ナル者ハ元來出雲國島根郡西川津村住人ニ有之彼レ身代限リテ未該村ノ家屋ヲ賣却シ明治十年ノ頃ヨリ島根郡西茶町へ轉宅シ代書代言杯ヲ業トナシ虎市弟ニ樽三郎ト云者有之然ルニ彼ノ樽三郎ヨリ自分へ基石ヲ購求センコト依頼シ依テ基石代價金貳圓五拾錢ニテ右樽三郎へ賣却セシ然ルニ金員差出貳圓五拾錢ノ内金貳拾錢拂出シ殘金拂出シ不申促ト雖モ一圓情弱シ不得止右基石ヲ自分持歸ラントスル際兎虎市ヨリ是ヲ

差留自分ノ手ヲ握リ放サス爭論トナリ虎市カ論辨ニハ金貳拾錢返却セズンハ基石ヲ渡サ
 ルト云自分於テハ貳拾錢ノ金厭ナラハ殘金ヲ拂出シテ基石ヲ購求セヨト掛合中弟樽三
 郎兄虎市カ手ヲ放サセタル其隙ニ自分基石ヲ取リ樽三郎へ殘金出來候迄此基石ヲ預リハ
 クト申聞引取タル此恨ヲ晴サントセシ折柄木村六右衛門ト虎市トハ近隣ナリ殊ニ代書代
 言ヲ業トセシ者ニテ六右衛門カ虎市へ談合セシカ又ハ虎市カ自ガラ恨ヲ晴サント該釜ヲ
 携帶シ買取方依頼セシコアリト証述スルト雖モ其實ハ全ク自分ヲ恨シ故ナリ何トナレハ
 原告木村六右衛門カ告訴狀ヲ見ルニ虎市カ筆跡ナリ然ルニ虎市方へ該釜ヲ自分カ携帶シ
 テ買取方依頼セシナラハ六右衛門ト自分ト對決ノ際虎市方へモ被告平重ナル者該釜ヲ携
 帶シ買取方依頼セシコアリト六右衛門カ上伸シヘシ答ナリ虎市方へ該釜ヲ自分カ携帶シ
 買取方依頼セシコアリト虎市カ証述スルハ六右衛門ト自分ト對決ノ後チナリ故ニ虎市カ
 証述ハ理ニアタラス是全ク遺恨ヲ晴サシ爲メ六右衛門ト談合シ虛誕ノ証述ナリ是ヲ表擧
 アリニ依テ不服ノ一點ナリ

第四條

自分於テ和田伊助カ該釜ヲ携帶シ買取方依頼セシコアリト証述スル雖モ是全ク不實ナリ
 何ナレハ明治十四年七月ノ度島根郡北堀町星野忠之丞門前ニテ自分伊助出會タル然ルニ
 同人ヨリ折角貴殿方へ罷越シト發足セシ處ナリ自分其ノ要用ヲ尋ルニ伊助ヨリ余ノ儀ニ
 アラス我レ一生ノ願ヒナリ何卒此約定証ニ貴殿押印致具レト差出シタル自分はテ披スル
 ニ出雲國島根郡中原町ニテ家屋及ヒ土地共金五拾圓ニ賣買ノ約定証ナリ入金トシテ拾五

圓相渡タルト記載セシ証書ニ買主吉岡平重トアリ一見終テ伊助へ返シ貴殿一生ノ依頼ナ
 レ此儀ハ決テ斷ナリ已ニ自分能美郡黒井田村ニテ家屋ヲ買受ケ取引差縫レ松江警察署
 へ取糺ノ儀出願候處案外昨明治十三年二月ノ度ヨリ明治十四年五月十七日迄入監セシ漸
 々此中些ト入監ノ苦心ヲ休メントスルナリ適々貴殿コト譯ケテ依頼ナレ此義ハ斷ナリ
 ト別レタリ然ルニ四五日經過シ東茶町ニテ右和田伊助ニ出會タリ同人ヨリ過日依頼セシ
 コト貴殿承諾ナキ就テハ金十五圓損分トナリ其恨ヲ汝へ思ヒシラセント云フ然レモ自分
 聞拾ニシテ別レルコト其恨ヲ晴サント木村六右衛門へ談合シ該釜ヲ自分携帶シ買取方依頼
 セシト証述スルハ全ク不實ノ保証ニシテ自分ヲ苦シメントセシコト岸本重整殿へ主張セ
 ントスレトモ岸本重整殿ヨリ己レ十年ノ懲役ニナランコト察シ強情ナリト怒聲ヲ發シ手
 ヲリチ打叩キナカラ其方ノ上伸採用セスト退席アリ依之不服ノ一點ナリ

第五條

明治十四年十月廿九日御呼出シニ相成出頭候處刑事法庭ニ於テ岡田透殿ヨリ其方儀檢事
 調庭ニテ調ヘテ受タルニ相違無之哉ト御訊問ナリ自分相違無之旨上伸シ明治十四年五月
 六日ハ何レニ居タルヤト訊問ナリ自分秋鹿郡佐陀神社へ參詣ノ爲メ夜ノ明ルヲ待自宅ヲ
 發足シ該社へ參詣シ夫レヨリ同郡朝日寺ニ參詣シ同郡本郷村ニテ人家へ立寄小休ミセシ
 ト雖モ該家ノ姓名覺ヘサルト上伸シタル口供ニ摺印セシ明治十四年十一月五日御呼出シ
 ニ相成出頭候處刑事法庭ニ於テ岡田透殿ヨリ客月廿九日申立タル口供ヲ讀聞カスヘシ謹
 テ承ワレトアリ謹テ承リ其口供ニ摺印セシ而テ明治十四年十一月八日松江裁判所ニテ御

處分ニ相成候處明治十四年九月六日ハ獨行ニテ佐陀神社へ參詣シ爲メ出發不在ナル旨辨護スルト雖モ其ノ參詣シタル証憑ヲ表舉スル能ハストアリ朝日寺へ參詣シタル明文宣告書ニ無之依之不服ノ一點ナリ

第六條

自分義明治十四年九月六日秋鹿郡佐陀神社へ參詣シ夫ヨリ同郡朝日寺へ參詣シ道筋同郡本郷村ニテ人家ノ門前通行ノ折柄何レ者ニ有之哉姓名ハ不存候得共新ラシキ櫓ノ羽ヲ携帶シ買取方依頼セシ人アリ該村ノモノト見ヘ四五名寄合右櫓ヲ一見セシ處自分返リ掛リ該家ノ長男ト見ヘ右櫓ノ代價金壹圓ナラハ購求セント談合中自分見聞セシヲ明治十四年十一月廿九日岡田透殿へ上伸殘シ且諸家ノ姓名覺サルト上伸セシト雖モ能々考量スルニ木挽善右衛門ナル者ト覺ヘタル殊ニ該家ハ本郷村ノ中央ノ橋詰ニテ一軒家ニ有之依之此事實ヲ松江裁判所へ再願セント歎願書ヲ認メ明治十四年十一月十一日島根縣監獄本署へ出願候得共該署ニ於テ右歎願書松江裁判所へ取次ヲ能ハス己ニ上告ヲセント出願セシ旁以採用ナリカタキトノヲナリ然ルニ此事實ヲ明治十四年十二月五日松江裁判所ニテ御取糺ノ際右木挽善右衛門ノ姓名ヲ覺タレハ同人御呼出シテ願ヘ自分朝日寺へ參詣セシコ明ラカニ申立ヘシ然ルニ木村六右衛門西尾虎市和田伊助如シ倭人カ爲ニ不實ノ上伸ヲ証述トセラレ初審裁判ニ御處分ニ相成タルト雖モ右木挽善右衛門ノ姓名覺ヘタル依之此事實ヲ上告シ前條ノ點々ニ依テ不服ナリ自分於テ今回眞罪ヲ犯シ十年ノ懲役ニ處セラレトモ是自業

自得ナリ然ルニ木村六右衛門西尾虎市和田伊助如キノ倭人カ爲ニ罪人トナラハ我レ適人生タル詮ナシ依之御公明ノ裁判ヲ奉乞シ頓首敬白

辨明

木村六右衛門西尾虎市和田伊助等ノ不實ノ申立ニ據リ原裁判所ハ前文ノ如ク宣告セラレタルハ不服ナリトテ事實ヲ縷々上告スレモ上告狀ニ陳說スル處ノ虎市伊助ヨリ遺恨ヲ受ケ居シトノヲ虎市等六右衛門ト協謀シ虛誕ヲ証述セシトノヲ朝日寺途中木挽善右衛門ナル者ニ會面セシトノヲ等ハ原裁判所ノ供申セサルノ事柄ナルノミナラス一トシテ其証據ノ見ルヘクナク只口陳ニ止ルモノトス其他六右衛門カ届書ニ五十餘歳トアリテ年齢十歳ノ見違アルトノヲ又判文ニ忍入ルトアルハ不當ナリトノヲ是等亦苦情ヲ敷演スル迄ノ申立ナレハ因テ以テ原裁判ヲ不法ト爲スニ由ナシ

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十一月八日松江裁判所ニ於テ吉岡平重へ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシ即チ上告狀却下スルモノトス

第二百二十五号

○判文(告上不實ノ件)明治十四年十二月二日上告
明治十五年二月廿一日判決

栃木縣下野國下都賀郡栃木室町

寄留同國上都賀郡瀬川村平民

手塚 專 一郎

三百七十八
明治十四年十一月
二十七年五月

明治十四年十一月十八日水戸裁判所枋木支廳ニ於テ右專一郎ニ左ノ裁判言渡シテ爲シタリ
其方儀日向野「シツ」方ニ數拾圓宿泊料ノ滯リアルヲ以テ「シツ」大藤利忠等ニ於テハ右滯
リノ償却ヲ受ルカ爲メ汝ニ協議ヲ遂ケ汝カ衣服ヲ質入シタリト云フニ汝ハ承諾ヲナシタ
ルコトナシト抗辨スト雖モ其質入シタルハ明治十四年九月一日ニ係ルコトハ大塚利平証言シ
而シテ汝カ其事ヲ知リタルモ亦同日ナルコトハ自白ニ依リテ明ナルニ「シツ」利忠等ニ對シ
敢テ責問セスシテ荏苒明治十四年九月六日ニ至ルヲ以テ觀レハ其明許ト默許トヲ問ハス
汝ハ宿料滯ノ義務ヲ行フカ爲メ衣類ノ質入ヲ承諾シタルモノト認定セサルヲ得ス然ルニ
明治十四年九月七日突然盜難届ヲ出シ賊難ノ爲メ其衣服ヲ失フタリト官署ニ對シ不實ノ
申告ヲナス科改定律例第二百四十七條ニ依リ事情輕キ者ニ擬シ懲役八下日申付シ
專一郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十一月二十七日本院ニ差出シタル上告狀
ノ要領左ノ如シ

右專一郎奉申上候本年十一月十八日水戸裁判所枋木支廳ニ於テ明治十四年八百九號ノ御
言渡ニハ改定律例第二百四十七條ニ依テ八十日ノ御處刑ヲ承ルニ付謹テ愚慮仕ル處頗ル
其事實トハ相反シテ至當ノ御判決トハ存兼甚難致心服ニ付其要領ヲ拔萃シテ左ニ開陳仕
候

事實

一明治十四年七月十三日ヨリ專一郎ハ奉仰御裁判事件ニ付枋木方附旅人宿日向野「シツ」

方ニ止宿セリ然レ其八月二十三日專一郎カ知音ナル大藤利忠ナル者ハ日向野「シツ」ヨリ
依頼トテ專一郎ニ相面シ宿泊料ヲ請求セリ然レ完済ニ成兼レハ金ノ多少ヲ問ハスシテ此
辨償アル可キヲ專一郎ニ示サレタリ專一郎申ス様近頃申兼タレ共即今囊中乏シクシテ速
辨シ道ニ困却セリ雖然金圓ヲ目下掌握ノ目的モ豫メ意匠コレアレハ五七數日ノ猶豫ヲ苦
ゴロニ利忠ニ請ヒタリシカ利息モ万緒ヲ肯シシテ是ヲ日向野ニ明サシム然レ其二十三日
向野ハ專一郎ニ相嚮ヒ曩ニ利忠ヲ以テ傳ヘ置ク宿泊料ノ一件ハ既ニ都合ニナリ居ルヤ何
分都合アリタシト專一郎答語ニ云意匠金額ノ調達モ未タ充分ニ運ヒガチ切リニ思慮ヲ廻
ラセリ其内融通モ爲ス可ケレハ猶四五日ノ延滞ヲ重テ日向野ニ談合セリ日向野ハ是ヲ肯
カフテ九月一日ニ到リタリ專一郎本日ハ裁判所ニ出頭シテ午後一時頃歸宿セリ例ノ通り
定房タル十一番號ニ登リ行キ專一郎ハ坐テ占メント席ノ一隅ニ到ルヤ否利忠忙ハシク登
リ來テ專一郎ニ申ス様トシテ出カ出カ來タリト其レ何事ヤ叩キシニ利忠從ツテ辨シ云
是レ他ノ事ニハ非サルナリ豫テ日向野ヲ花主トスル魚戸某ケフ參ラレ精算ノ請求ヲ促カ
セシカ此請求ニ相當ツテ實ニ困難ヲ呈露セリ專一郎ハ何事ヤト深ク痛慮ヲ致セシカ向
瑣細ノ未事ナル專一郎ノ關ス可キ事合ノモノニ非サルヲ意外ニ吃驚ヲ嫁シタリト利忠申
スニハ此談合ニ及ヘルモ故アツテ然レルナリ右ノ次第ヨリ原起シテ其所持スル處ノ衣類
ヲ借リ一時抵當ニ融通シテ魚戸ノ拂ヲ辨セント悉ク「シツ」ニ傳ヘラレ爲ニ存慮ヲ問フ
モノナリ承諾アルヤ如何ト專一郎肯シテ事情ヲ利忠ニ告ケ示セリ利忠歎々トシテ房
ヲ出テ階子段ヲ降りシ後專一郎ハ衣類ヲシテ更衣セント席ヲ立テ定房ノ押入ヲ開キシカ

衣類ハ既ニ影タニ見ス疑惑利忠ヲ呼ヒ迎ヘ此顛末ヲ詰リシニ利忠ハ稽顙慚怩トシテ專一
 郎ニ申様其留守ナルヲ審リミテ所有物品ヲ自由スル人ニシテ(イカニ云)原ノハンカ左計
 ノ不可ヲ告タリシモ「シツ」ハ己ム可キノ色ナキヨリ甚暴狀ヲ計ラヒタリ乍併此舉ハ「シ
 ツ」ノ差圖ニ從カツテ「シツ」ハ差支ノナキヲ陳フ故ニ不在ヲ問ハスシテ自分ハ之ヲ取扱
 ヒ「シツ」ニ物品ヲ渡セリト專一郎ハ利忠ヲシテ其暴舉ヲ憤迫シ是レニ對シテ申ス様凡ソ
 人ノ不在ヲ覘ヒテ其品物ヲ適宜ナク行ヒ盜賊ニ異ナラス異ナラサルノ所爲ヲシテ是レ可
 ナレリト思ヘルヤ直チニ警衛ヘ仲告セシ慮外千万ノ所爲ナリト利忠ハ慙慙ニ說辭ヲナシ
 暫時猶豫アリタギ旨專一郎ニ切迫セリ故ニ怒リヲ忍耐シテ少間ノ遅延ヲ肯カヘリ然レ其
 三日利忠ニ對シテ申ス様昨日俄頃ヲ請タリシカ否ヤノ答ヲ聞タシト利忠一言二語支語シ
 シ了然ノモノヲ見サル故留物品ヲ迅速ニ反還アルヲ督責セリ本日モ空過シ其四日トナリ
 タルナリ然レ今日ノ事ニテアリ同シ日向野ニ宿泊スル相場領平等變坐ノ折柄忠利ニ前件
 ノ始末ヲ責メ既ニ盜難ノ届書ヲ出サンモノト語辭ノ末ヘ猶一兩日ノ間ヲ強ヒテ請乞止サ
 ル故其意ニ任シ閣シハ是友誼合ノ懇ロヨリ己ムヲ得サルノ事情ニ出ス然ル處其六日突然
 「シツ」ハ嚴責シテ宿泊料ヲ促カセリ是「シツ」ガ意衷ヲ考フルニ爲ス應カラサルノ所爲ヲナ
 シ專一郎ニ含マレシナ事紛氷解センモノト心ロ工ミモアルナラシカ甚タ暴慢ノ語モアル
 故專一郎ハ前件ノ横行無狀ヲ詰ルノ際「シツ」ハ言語同斷ニテ專一郎ヲ面折ナシ何レヘナ
 リ訴ヘヨ事ハ既ニ業ニ行ナヒシト疾ニ思ハレ居タリシカ何ヲ以テ躊躇スト是レニ依テ已
 チ得ス其七日ノ御届ケニ盜難ノ事ヲ仲告セリ然レ其後處々ニ散在スル質屋渡世ヲ尋テ行

キ衣類ノ搜索ヲ爲ス折柄折木驛万町大塚利平方ニ該品ハ抵當アルヲ知得ナシ其廿八日委
 事ヲ警察署ニ申告セリ然レ大塚利忠ニハ知音ノ間ヲ忘却シテ反テ日向野ニ尽セルモ亦故
 アツテ然ルナリ素利忠ハ義務ヲ尽ス可キ專一郎ニアル可キモ今日日向野「シツ」方ニ食客シ
 テ義理ノ纏綿ニ己ム事ナク斯ク暴行ヲ醸成シ加之食言シテ專一郎ヲ陷入レシ義ト御言渡
 ノ文辭ニテ是ヲ了覺致スナリ專一郎ハ愚考仕ルニ凡ソ人ノ物品ヲ無斷ニテ是ヲ自由ナス
 モノハ盜賊ノ行爲ト云ハスシテ他ニ名稱ノアル可キヤハ未タ其邊ヲ推究セス故ニ盜難ノ
 届書ヲ捧呈セシモ不可トセス然レ其届書ニ顛末巨細ヲ載セサリシカ是レ專一郎ノ過失ニ
 シテ事實ノナキニ非サルナリ

論理

夫レ改定律例第二百四十七條ノ如キハ無實無根ヲ申告シテ官署ヲ詭辨ナス者ヲ刑懲スル
 ノ法度ナリ苟モ其實事ヲ存在セハ決シ不實ノ申告トハ謂フ可カラスト了解セリ然レ御宣
 告ノ文中ニ專一郎カ物品ヲ大塚利平方ニ抵當セル是レ日向野「シツ」ナル者カ手ニ出テ其手
 續ハ大塚ヨリ既ニ上申及ヘルハ御宣告面ニテ詳知セリ復相場領平カ始末書モ檢事局ノ御
 調ヘニ之ヲ見聞致タリ然レ此始末書ハ專一郎ニ關涉スル九月四日ノ景況ニテ則專一郎カ
 大藤ニ衣類還致ヲ促カセシ其始末ニテ是アルナリ然レハ專一郎カ明ラカニ衣類抵當ヲ肯
 シテ日向野ニ義務ヲ行ヒシト云可キモノニ非サルナリマダ專一郎カ承諾シテ之ヲ行ナヒ
 シモノナレハ官署ニ誣ヘ、キ所謂ナシ依テ不實ニ非サルハ一大著明ノ見ル可キアリ然レ
 此抵當ノ理不盡タル既ニ事實ヲ供フレハ復ヒ爰ニ贅辨セス由是觀之トキハ不實ヲ官署ニ

申告シテ詭証ヲ醸セシモノナラス管届書ノ手續ニ顛末ノ情ヲ盡サスシテ事ヲ過失ニ出クセシナリ乍併人ヲシテ寧ロ盜賊ト公言スル不容易ノコトコテアリマク該品抵當ノ先方モ其當時ハ分明セズ故ニ不取敢申告シテ猶充分ノ証迹ヲ闕闕セリ是レ日向野大藤等カ衣類ノコトハ明言スモ如何ノ點ニアルモノヤハ輕舉ノ測度ハ憚リアリ其後質屋ヲ搜索シテ彌イヨ証跡ヲ得タル故九月二十八日ニハ委細ヲ警衛ニ申告セリ然ルニ不實ノ申告トハ御審理ニ乖舛ナキヤ否沈潜反覆熟慮スモ二百四十七條ニハ更ニ牴觸ノモノニテナシ猶御宣告ノ文中ニ其實入シタルハ明治十四年九月一日ニ係ルコトハ大塚利平証言シテ汝カ其事ヲ知リタルモ亦同日ナルコトハ自白ニ依リテ明ナルニ「シツ」利忠等ニ對シ敢テ責問セスシテ荏苒明治十四年九月六日ニ至ルヲ以テ觀レハ其明許ト默許トヲ問ハス汝ハ宿料滞ノ義務ヲ行フカ爲メ衣服ノ質入ヲ承諾シタルモノト認定セサルヲ得スト是レ尤モ誤謬ナリ專一郎ハ九月一日ヨリ其六日ニ至ルマテ「シツ」利忠等ヲ責問シテ荏苒默許ニ非リシハ相場領平カ始末書ニ其証據ハ爛々タリ依テ專一郎ノ如キ者ハ盜難届ノ手續ニ其委シキヲ盡サ、ル註誤過失ノ點アルモ不實申告ニ非サルナリ故ニ二百四十七條ニハ決シ牴觸ノ犯迹ナシ專一郎右ニ開陳仕ル事情ノ顛末ニ有之テ不實申告ニハ無之故深シ御洞察ヲ願ヒ上初審聽斷ヲ破毀ノウヘ御覆審ニ相成テ高明至當ノ御處斷ヲ伏テ奉悃願候

辨明

手塚專一郎カ明治十四年十月一日栃木警察署ニ於テ爲シタル口書及ヒ同年十一月十一日水戸裁判所栃木支廳檢事ノ面前ニ於テ申立タル口書ニ據ルニ明治十四年九月一日(警察署ノ

口書ニハ九月二日トアリ)日向野「シツ」ノ趣意ニヨリ大藤利忠カ專一郎ノ衣服ヲ持出シ質入シタル所由ハ專一郎ニ於テ固ヨリ許諾シタルモノトス抑專一郎ハ屢「シツ」又ハ利忠ノ責言ヲ承ケ爲メニ其衣類ヲ典シ姑ク其宿料滞ノ義務ニ充タルコトハ事蹟明晰ニシテ掩フヘカラス即チ專一郎ハ之ヲ許諾セザリシモノト逃ルヲ得ヘケシヤ良シヤ假リニ許諾セザリシモノト看做スモ專一郎ハ右事由ヲ眞ニ知了セスシテ其衣服ハ盜難ニ係リシトノ思想ヲ起スヘキノ謂レアルナシ然ルニ其九月七日突然栃木縣令ヘ宛テ盜難届書ヲ差出シ眞ニ竊盜ノ所業ニ係リタル申立ヲ爲シ隨テ又其九月廿七日同縣令ヘ宛テ盜難品見當リ届ト題シ届出タル書面ニ(盜難品ハ栃木万町質渡世大塚利平方ニ有之趣聞及候ニ付該家ヘ參リ取糺候ニ該品ハ同町日向野「シツ」ヨリ質物ニ取置候旨申聞ケタルニ由リ)云々トアルヲ觀レハ右盜難ノ所爲ハ現ニ日向野「シツ」ノ手ニ成リタル体ニ誣告シタル者ノ如シ即チ訴訟誣告條ニ比準シ論スヘキモノナルニ原裁判所ハ是等ノ要點ニ着目セス右品物ヲモ估計セス唯不實ノ申告ヲ爲シタルモノトシ例第二百四十七條ニ擬シタルハ審理ヲ尽サ、ル不當ノ裁判ナリトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十一月十八日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ手塚專一郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ水戸始審裁判所ヘ移スニ寄り更ニ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ
第二百二十六號

○判文(父ノ實印ヲ盜ノ件)明治十四年十二月八日上告
明治十五年二月廿二日判決